

“パルナッソス山への階段”

18 世紀後半のナポリにおける、音楽家のキャリア構築の実際

—— ナポリ銀行歴史文書館史料に基づく、
作曲家、台本作家、器楽奏者の経年的労働条件の解明 ——

山田高誌

“*Gradus ad Parnassum*”

The career system of the composers, librettists, orchestra players
contracted with the Neapolitan theaters in the second half of 18th Century:
Identified salary and their work condition from the impresario's payment records
preserved at the Historical Archive of the Bank of Naples.

Takashi YAMADA

(Received November 14, 2017)

Key Words:

18th Century, Naples, Theater, Opera, Comic Opera, *Dramma per musica*, Teatro de' Fiorentini, Teatro Nuovo, Impresario, Librettist, Piccinni, Paisiello, Cimarosa, Calzabigi, Lorenzi, Cerlone

1. 本稿の目的

本論文は、18 世紀後半のナポリの諸劇場と関わりをもった作曲家、台本作家、演奏家、それぞれの待遇の経年変化、キャリアの変化について、ナポリ銀行歴史文書館所蔵、興行師による支払い文書史料 113 点の支払い文書全訳とともに、その労働条件、職務を解明するものである。

今日のイタリア、および英米圏におけるイタリア・オペラ研究の基礎となるロレンツォ・ビアンコーニ&ジョルジョ・ペステッリ編『イタリア・オペラ史』第 4 巻¹ の出版以降、音楽学の分野では急速に興行研究の分野

¹ LORENZO BIANCONI – GIORGIO PESTELLI (eds.), *Storia dell'opera Italiana, vol.4: Il sistema produttivo e le sue competenze*, Torino, E.D.T. Edizioni, 1987; *Opera Production and Its Resources*, translated by LYDIA G. COCHRANE, Chicago, University of Chicago Press, 1998. この第 4 巻には、興行に関わる問題がまず第 1, 2 章で取り上げられるばかりか、その当該部分が著作の半数以上の頁を占めているように、オペラ研究における興行という観点からの研究への重視の姿勢が示された。以下、所収論文詳細: FRANCO PIPERNO, 'Opera Production to 1780', 1-164; FIAMMA NICOLODI, 'Opera Production from Italian Unification to the Present', 165-228; FABRIZIO DELLA SETA, 'The Librettist', 229-289; ELVIDIO SURIAN, 'Opera Composer', 291-344; SERGIO DURANTE, 'The Opera Singer', 345-417. また、この著作に先立つジョン・ロッセッリによる以下の著作も、興行研究への“潮流”を作り出すきっかけとなった。JOHN ROSSELLI, *The Opera Industry in Italy from Cimarosa to Verdi: The Role of the Impresario*, Cambridge, Cambridge University Press, 1984.

が注目され、その後今日までの 20 年の間に、ヴェネツィア²、フィレンツェ³、ロンドン⁴、パリ⁵、そしてナポリを中心に、各都市の個別劇場（専ら宮廷劇場）に関する興行研究が行われ、各劇場の詳細についてさまざまな新知見が提示されるようになってきた。

しかし、本論で主に取り上げる喜劇オペラの世界は、このジャンルが専ら「民間劇場」という「不安定」な施設においてのみ行われていたことから、つまり興行史料そのものが散逸してしまい再構築が難しく、イタリアにおける喜劇オペラの制作拠点であったヴェネツィア⁶、ローマ⁷、そしてナポリ、どの地域の民間劇場の研究をとっても、同地域の宮廷劇場に関する研究ほど進展していないのが現状である。

特にナポリの場合では、国立公文書館に残されていたはずの民間劇場関連史料は、第 2 次大戦中の爆撃によ

² ヴェネツィアについては、特に 17 世紀のオペラとその興行に関わる史料研究が進められており、近年イギリスで発刊されたグリクソン夫妻による以下の著作が、1650-60 年代についての史料研究の集大成となる。BETH LISE GLIXON-JONATHAN EMMANUEL GLIXON, *Inventing the Business of Opera - The Impresario and His World in Seventeenth-Century Venice*, Oxford University Press, 2006.

³ 18 世紀前半のフィレンツェのペルゴラ劇場についての興行史料研究がウィリアム・ホルムスの以下の著作によって行われている。WILLIAM C. HOLMES, 'An Impresario at the Teatro la Pergola in Florence - Letter of 1735-36,' in MARIA RIKA MANIATES-EDMOND STRAINCHAMPS (eds), *Music and Civilization: Essay in Honor of Paul Henry Lang*, 127-140, New York, 1984; W.C. HOLMES, *Opera observed, Views of a Florentine Impresario in the Early Eighteenth Century*, Chicago, The University of Chicago Press, 1993. さらに、19 世紀前半のフィレンツェの興行師アレッサンドロ・ラナーリの手紙、興行史料（1815-1870 年）のカタログ化が、マルチェッロ・デ・アンジェリスによって行われており：MARCELLO DE ANGELIS (ed.), *Le Cifre del Melodramma: L'Archivio inedito dell'Impresario teatrale Alessandro Lanari nella Biblioteca Nazionale Centrale di Firenze (1815-1870)*, Firenze, Giunta Regionale Toscana - La Nuova Italia Editrice, 1982. それを出発点として、パオロ・メケッリは、これらの史料のうち 1820-1830 期にみられる計 1,090 点の興行史料を精査し、フィレンツェ大学提出の博士論文としてまとめ、19 世紀フィレンツェの劇場興行史研究に大きな寄与を果たした。PAOLO MECHELLI, *Alessandro Lanari: il carteggio con impresari e delegati (1820-1830)*, Università degli Studi di Firenze (Ph.D diss.), 2004; P. MECHELLI, *Alessandro Lanari: il carteggio con impresari e delegati (1820-1830)*, 《Fonti Musicali Italiane》, vol.9, 2004, 119-131 with CD-R (primary documents).

⁴ 18 世紀後半のロンドンにおけるイタリア・オペラを包括的に研究したのが、フレディリック・ペットティの以下の著作であったが、ここでは作品、および劇場としての研究が中心となり、興行の観点からの調査は行われていない。FREDERICK C. PETTY, *Italian Opera in London, 1760-1800*, UMI Research Press, 1980; 一方で、90 年代の以下の二つの著作では、興行史料から、各劇場の運営、オペラの上演システムやその変化の解明が目指されている。CURTIS PRICE - JUDITH MILHOUS - ROBERT D. HUME, *The Impresario's Ten Commandments, Continental Recruitment for Italian Opera in London 1763-64*, (RMA Monographs 6), London, Royal Musical Association, 1992; IAN WOODFIELD, *Opera and Drama in Eighteenth - Century London, The King's Theatre, Garrick and the Business of Performance*, Cambridge, Cambridge University Press, 2001. 前者、プライスマルハウス・ヒュームの興行研究では、興行誌の手紙よりキングス劇場のイタリアとのリクルート・システムと、その経済活動が明らかにされたほか、後者のイアン・ウッドフィールドのキングス劇場研究では、ドラモンズ銀行史料にみられる、キングス劇場の興行師、歌手などの支払い記録より、賃金、氏名等、詳細な劇場データが再構築された。

⁵ 18 世紀パリでイタリア・オペラを専門に上演していたムッシュー劇場（後のフェイドー劇場）について、アレッサンドロ・ディ・プロフイオは大量の一次史料を用いその興行の実態、上演演目一覧を再構築している：ALESSANDRO DI PROFIO, *La révolution des Bouffons: L'opera italien au Theatre de Monsieur 1789-1792*, Paris, CNRS Editions, 2003. ほかに、パリの劇場の興行研究としては、オペラ座のバレ・シーズンに関するリチャード・セメンズの以下の著作における 1720 年代から 80 年代にかけての観客の変化等が、収支記録等、経済的な観点から明らかにされており特筆される：RICHARD SEMMENS, *The bals publics at the Paris Opera in the Eighteenth Century*, Dance & Music n.13, Pendragon Press, 2003.

⁶ モンテヴェルディ、チェステイらが活躍した 17 世紀の劇場研究が進められてきた一方で、18 世紀の民間劇場の興行についての総合的研究は存在しないばかりか、現存するフェニーチェ劇場を除き、オペラ史にとって特に重要な役割を果たしたサン・モイゼ劇場、サン・サムエーレ劇場、サン・ベネデット劇場といった各民間劇場の通史的研究も、それぞれ非常に限られた時期のものしかないようである。

⁷ 18 世紀ローマの諸劇場全体のパースペクティブについては、以下のペトロッキとブルーノ・カーリによる 2 つの著作を参照のこと。G. PETROCCHI (ed.), *Orfeo in Arcadia, Studi sul teatro a Roma nel Settecento*, Roma, 1984; BRUNO CAGLI, (ed.), *Le muse galanti, la musica a Roma nel Settecento*, Roma, 1985. また、ローマでは、18 世紀前半の幕間劇「インテルメッツ」とは別の系統の「インテルメッツ」と呼ばれる 2 幕仕立ての喜劇オペラが主にヴァッレ劇場において上演されていたが、この劇場に関する総合的研究は、アレックス・ダミーコらによる以下の著作を参照：ALESSANDRO D'AMICO - MARIO VERDONE - ANDREA ZANELLA, *Il Teatro Valle, Fratelli Palombi Editori*, 1998. ただし、この著作では主に 19-20 世紀の史料に基づく調査に限られている。一方、同ヴァッレ劇場の建築史的な観点からの研究はアンドレア・ザネッラによる：ANDREA ZANELLA, 'Fatti di Architettura e decorazione al Teatro Valle,' *Ibid.*, 201-211 を参照のこと。ここでは劇場内部構造、興行主一覧 (Marchese Camillo di Giuliano Capranica - Domenico Valle, 1726-1740; Agostino Valle, 1740-1753; Giacomo Poggi - Filippo Gregorio Paradisi, 1754-1765; Nicola De Sanctis - Angelo Gabrielli, 1765-)、劇場建築代金総額 (Sacro Monte di Pietà 銀行からの出資として 8964,67 スクーード)、賃貸料 (1755 年度, 750 スクーード)、チケット代 (1 パルコ年間賃貸料, 12 スクーード) 等が明らかにされている。

ってその多くが焼失⁸、今日ナポリ国立公文書館に残っている 18 世紀の劇場関連の史料としては、わずかに宮廷官房局史料 *Segreteria di Casa Reale* (fascio 965-970, 1517 terzo) の 1781 年から 86 年度のサン・カルロ劇場史料⁹、および、劇場の担当官庁であった王立中央軍事裁判所史料 *Udienza Generale dell'Esercito* (fascio 1295-1311) にみられる 1751 年から 1794 年にかけての関連史料¹⁰ のみで、『ナポリ楽派』の総合的研究を行ったマイケル・ロビンソンの著作¹¹ ですらも、台本、および楽譜研究以外、興行からの調査は全く行っていない。

その後の 18 世紀ナポリの諸劇場に関する研究史は、筆者別稿 (山田 2016) で紹介しているためここでは割愛するが、ペルゴレージ研究所主催のプロジェクトで、とりわけコッティチェッリ、マイオーネによってナポリ銀行史料研究がその失われた史料を補完し得るものになることが提示されて以後、ペルゴレージの時代を中心とする 18 世紀前半のナポリの音楽環境が、ナポリ銀行史料とともに様々な形で再構築されてきた¹²。直近では、その研究手法が 18 世紀後半、そして劇場以外のさまざまな音楽生活の再構築¹³ に適用されることで研究対象は広がりを見せており、特にスピーリト・サント銀行史料に基づくチマローザの時代に関する総合的史料研究¹⁴ などにより、従来イタリア・オペラ史の中で大きな空白地帯であった 18 世紀のナポリの劇場史が次々

⁸ 1943 年 8 月 4 日の英米連合軍によるナポリ爆撃の翌日、政府は重要史料をナポリ近郊ノーラ市のサン・パオロ・ベルシート *San Paolo Belsito* へ疎開させることを決定する。しかし 9 月 8 日のイタリアの降伏により、同盟国であったドイツ軍は急遽イタリアへの攻撃を開始しモンテサーノ村 *Villa Montesano* を爆撃する。この折にちょうどこの場所に疎開中であった公文書館の所蔵史料 1,596 冊の史料大束 *Fasci* にその火は及び、焼失を免れたのは 806 大束のみとなった。これにより旧宮廷、劇場関連史料である *Casa Reale Antica*, vol. 598-629, つまり、1734 年から 92 年までに相当するサン・カルロ劇場史料の大部分は失われた。Cf: ANTONIO ALLOCATI, 'L'Archivio della Segreteria di Stato della Casa Reale dei Borboni di Napoli,' *«Rassegna Storica del Risorgimento»*, LIV (1967), 438-464; ALESSANDRO LATTANZI, 'Vita musicale a Napoli,' in *Fonti d'Archivio* cit., 2001, 387.

⁹ これら官房局史料は年度ごとに 1 大束 *fascio* をなすが、それらはサン・カルロ劇場が年間に支出したすべての会計史料の束 (1000 件近い信託証書、小切手、控え等を種類別に綴じたもの) と、それら記録が清書され、製本された保管用冊子の 2 点から構成される。前者は劇場が関係者本人と交わした自署入り契約書、領収書本体が収められ、後者には、各作品に出演した歌手、器楽奏者、及び舞台制作に携わった大工の名前、賃金、労働期間がまとめられるほか、すべての座席の予約状況と、予約者の氏名、身分、金額といった詳細までもが記されており、第 1 級の劇場史料となっている。しかし、この史料を用いた研究としては、現在までにデルドンナによるオーケストラ研究 ANTHONY DELDONNA, 'Behind the Scenes: The Musical Life and Organizational Structure of the San Carlo Opera Orchestra in late-18th century Naples,' in *Fonti d'Archivio* cit., 2001, 427-448; A. DELDONNA, 'Production practices at the Teatro di San Carlo, Naples, in the late 18th Century,' *«Early Music»* 31.3 (august 2002), 429-442. のみが挙げられる。なお、後述のようにスティッフオーニは、興行師ディエゴ・トゥファレリによるサン・カルロ劇場をナポリ銀行歴史文書館史料より再構築している。GIAN GIACOMO STIFFONI, 'Il Teatro San Carlo dal 1747 al 1753: documenti d'archivio per un'indagine sulla gestione dell'impresario Diego Tufarelli,' in *Fonti d'archivio per la storia della musica e dello spettacolo a Napoli tra XVI e XVIII secolo*, P. MAIONE (ed.), Napoli, 2001, 271-362.

¹⁰ 以下の研究により史料の存在が明らかにされた。FRANCESCO COTTICELLI – MARIA ESPOSITO, 'La macchina teatrale tra gestione di corte ed impresa privata,' *Il Teatro di Re: Il San Carlo da Napoli all'Europa*, Napoli, Edizioni Scientifiche Italiane, 1987, 215-238.

¹¹ MICHAEL ROBINSON, *Naples and Neapolitan Opera*, Oxford, Oxford University Press, 1972.

¹² ミラノ大学教授・故フランチェスコ・デグラダが、イエージの「ペルゴレージースポンティーニ財団」のプロジェクトと進めたペルゴレージ研究の一部門として始まった。FRANCESCO COTTICELLI – PAOLOGIOVANNI MAIONE, *Onesto divertimento ed allegria de' popoli: materiali per una storia dello spettacolo a Napoli nel Primo Settecento*, Milano, Ricordi, 1999; P. MAIONE, 'Le carte degli antichi banchi e il panorama musicale e teatrale della Napoli di primo Settecento,' in *«Studi pergolesiani. Pergolesi Studies 4»* ed. FRANCESCO DEGRADA, Jesi, Fondazione Pergolesi-Spontini, 2000, 1-129; F. COTTICELLI – P. MAIONE, 'Le carte degli antichi banchi e il panorama musicale e teatrale della Napoli di primo Settecento: 1732-1733,' in *«Studi pergolesiani. Pergolesi Studies 5»*, eds. CESARE FERTONANI – CLAUDIO TOSCANI, Jesi, Fondazione Pergolesi-Spontini, 2006, 21-54 con cd-rom allegato (*Spoglio delle polizze bancarie di interesse teatrale e musicale reperite nei giornali di cassa dell'Archivio del Banco di Napoli per gli anni 1732-1734*); STEFANO CAPONE, *L'opera comica napoletana (1709-1749)*, Napoli, Liguori, 2007; M. COLUMBRO – P. MAIONE, *La cappella musicale del Tesoro di San Gennaro di Napoli tra Sei e Settecento*, Napoli, Turchini Edizioni, 2008.

¹³ 研究手法は、もはや国際的に広く認知されているが、調査のために多大な時間が必要となることから、研究は主にナポリ在住の限られた研究者によって進められている。毎年文書館が発行する大部の紀要を確認のこと。Cf: GIAN GIACOMO STIFFONI, 'Il Teatro San Carlo dal 1747 al 1753: documenti d'archivio per un'indagine sulla gestione dell'impresario Diego Tufarelli,' in *Fonti d'archivio per la storia della musica e dello spettacolo a Napoli tra XVI e XVIII secolo*, P. MAIONE (ed.), Napoli, 2001, 271-362; ROSA LUCCHESI, 'Il collegio di Musica nel Decennio Francese (1806-1815),' in *«Quaderni dell'Archivio Storico»*, 2002-2003, 117-130; LUCIO TUFANO, 'Accademie musicali a Napoli nella seconda metà del Settecento: sedi, spazi, funzioni,' in *«Quaderni dell'Archivio Storico»*, 2005-2006, 113-193; FRANCESCO NOCERINO, 'L'attività cembalaria e organaria di Alessandro Fabri,' in *«Quaderni dell'Archivio Storico»*, 2005-2006, 179-193; STEFANO CAPONE, *L'Opera comica napoletana (1709-1749)*, Napoli, Liguori Editore, 2007.

¹⁴ G. STIFFONI, 'Il Teatro San Carlo dal 1747 al 1753,' *Fonti d'Archivio* cit., 2001; GIULIA DI DATO – TERESA MAUTONE – MARIA

と埋められてきている¹⁵。

筆者は、それら研究手法の有効性を 18 世紀後半の近代的システムの成立についても適用すべく、2004 年より断続的に同ナポリ銀行歴史文書館において調査を行い、主要な民間劇場であるフィオレンティーニ劇場、ヌオーヴォ劇場の 1765 年度から 1795 年度に至るまでの興行システムを明らかにしてきた（文献表参照）。

本論文の主眼は、先行研究によって行われてきた時代ごとの調査を基礎とする“俯瞰図”の上に、“アーティスト”して一つの肩書と呼ばれる作曲家、台本作家、演奏家、歌手、バックステージの職人たちなどをそれぞれ経年的に並べ、各職種がどのように違っているか、つまり、当時の社会における音楽生活をより細部に、よりリアルに浮かび上がらせる試みを行うことである。

この成果は、ナポリという“地域音楽史”を補完するだけでなく、モーツァルトら同時代ヨーロッパで活躍した多くの作曲家の研究にとって、これまでほぼ未開拓であり続けた喜劇オペラというジャンル、そしてその上演の場である民間劇場の活動という基礎データを提供するものとなり、国際的に高く評価されるべき成果であるが、膨大な史料全体を掲載することができる媒体であり、かつインターネット上で公開されるというオープンリソースの観点から、本論文集上での公刊を選んだ。なお、この論文では、作曲家、台本作家、器楽奏者の“描写”に焦点を絞り、残る歌手、興行師、バックステージの職人たちの待遇の解明については別稿で改めて行うものとする。

2. ナポリ銀行歴史文書館文書と、研究手法

ルネサンス時代のイタリアは芸術がとりわけ有名であるが、その華を支えた金融、銀行業もまたこの時期ヨーロッパに先駆けて発達していた。フィレンツェでは既に 14 世紀にメディチ家による銀行が重要な活動を行っていたが、ナポリではスペイン支配下の 1539 年にナポリ最初の銀行としてモンテ・デッラ・ピエタ銀行が設立され、以降、16、17 世紀を通して 8 つの銀行が次々と設立され社会を支える重要な役割を担っていく¹⁶。それらのうち、18 世紀末まで存続していた 7 つの銀行が、フェルディナンド IV 世時代の 1794 年に「ナポリ国立銀行 Banco Nazionale di Napoli」として統合されたことが現在「ナポリ銀行」とよばれる銀行の直接の祖となった。この銀行はその後の政変とともに、ナポレオン時代の 1806 年には「宮廷銀行 Banco di Corte」と「民間銀行 Banco dei Privati」（1806-1808: ナポレオン時代）に分かれ、そして 1808 年に生まれた「国立両シチリア銀行 Banco Nazionale delle Due Sicilie」を 1809 年に統合しながら「両シチリア銀行 Banco delle Due Sicilie」に名称を変え、1861 年のイタリア統一とともに「ナポリ銀行 Banco di Napoli」と名称を改めた。その後、イタリア王国の中央銀行として通貨発行権を持つに至るが、第 2 次大戦終結後は民間銀行となり、2003 年にはトリノの「サン・パオロ銀行 Banca San Paolo Intesa」グループに吸収合併され現在は名

MELCHIONNE – CARMELINA PETRARCA – P. MAIONE, 'Notizie dallo Spirito Santo: la vita musicale a Napoli nelle carte bancarie (1776-1785)', in *Domenico Cimarosa, un 'napoletano' in Europa*, (Atti del Convegno Internazionale di Studi, Aversa, 25-27 ottobre 2001), eds. MARTA COLUMBRO – P. MAIONE, Lucca, LIM, 2004, vol. 2, 665-1198; PAOLOGIOVANNI MAIONE – FRANCESCA SELLER, *Teatro di San Carlo di Napoli, vol. I, Cronologia degli spettacoli (1737-1799)*, Napoli, Altrastampa, 2005; さらに、2016 年 11 月 24-26 日にアヴェレリーノ音楽院で開催されたチマローザ、パイジェッコを中心とする作曲家に関する国際学会（Convegno Internazionale di Studi su “Commedia e Musica al Tramonto dell’Ancien Régime: Cimarosa, Paisiello, e i maestri europei,” Avellino, Conservatorio di Avellino “Domenico Cimarosa”: Forthcoming）での論文集が近く出版される予定である。

¹⁵ コッティチェッリ、マイオーネによってまとめられた以下の大部の書籍には、これらの史料研究の成果がふんだんに盛り込まれ、劇場を取り巻くさまざまな視点から 15 世紀から 20 世紀までのナポリの音楽、劇場史が描かれている: AA. VV, *Storia della musica e dello spettacolo a Napoli*, in 5 vols, eds. FRANCESCO COTTICELLI, PAOLOGIOVANNI MAIONE, Napoli, Edizione Turchini, 2003.

¹⁶ 1) Monte della Pietà モンテ・デッラ・ピエタ銀行 (1539) ; 2) Monte dei Poveri モンテ・デイ・ポーヴェリ銀行 (1563) ; 3) Banco Ave Gratia Plena アヴェ・グラツィア・プレーナ銀行 (1587-1702) ; 4) Banco di Santa Maria del Popolo サンタ・マリア・デル・ポーポロ銀行 (1589) ; 5) Banco dello Spirito Santo スピリト・サント銀行 (1590) ; 6) Banco di Sant’Eligio サン・テリージョ銀行 (1592) ; 7) Banco di San Giacomo e Vittoria サン・ジャコモ・エ・ヴィットーリア銀行 (1597) ; 8) Banco del Sa) ntissimo Salvatore サンティッシモ・サルヴァトーレ銀行 (1640)

前だけの存在となってしまっている。しかし、16世紀以降、5世紀にもわたるナポリの銀行の史料群を収める文書館は独立財団となり、史料の保存、公開を行い、1日10人までの研究者を受け入れている。400室ほどある収蔵室に収められている史料は、1550年代から直近の1950年までのナポリのすべての銀行のすべての取引記録およそ30万巻であり、現在も、そして将来にわたっても世界で唯一無二の経済史料館という地位を誇るアーカイブズである¹⁷。それら史料の正確さ、詳しさ、そして唯一性から、音楽学者のみならず、美術、建築、政治、教会、教育史研究など各領域における研究が盛んに行われている。

発掘調査は、まず支払い方、つまりここでは劇場関係者に支払いを行った興行師などの名前を毎年半期ずつ2冊ずつ作成されるパンデッタ *Pandetta* と呼ばれる各銀行の顧客名簿（史料編図版1）に探すことに始まる。支払人の取引の中心であった「メイン・バンク」を特定した後、その顧客名簿に記された台帳番号をもとに、続いて、1冊50キロ近くはある巨大な顧客基本台帳リブロ・マッジョーレ *Libro Maggiore* の当該頁を確認し、そこに記入された振出日と金額、そして受取人氏名を調査する（史料編図版2,3）。その後、受取人が銀行で行った換金日をもとに作成される、換金記録の行内控え *Giornale copiapolizze* の調査（史料編図版4,5）、さらに、この行内写しが何らかの理由で作成されていない場合（この写しはサン・ジャコモ銀行の場合1794年以降作成が中止される）、あるいは記述に不備、誤述があった場合は、ここからオリジナルの信託証書 *Fede di credito* へと遡り（史料編図版6,7）、その金銭授受の事由を読み解くものである。

つまり、1点の受取人の換金記録は、興行師からの支払い小切手1点に対応しており、その記録を見つけ出すためには、まず、劇場経営とその支払い業務を行っていた事業者（興行師）の名前の特定、そしてその人物が用いていた取引銀行の特定、その後、銀行が行っていた日々1,000件近い換金記録の控えを、手作業で一件ずつ照会していく作業が必要となる。

1784年にフィオレンティーニ劇場興行師としてこの業界に入り、その後王立サン・カルロ劇場、王立フォンド劇場、3劇場の経営を手がけることとなったジュゼッペ・コレッタの場合、“メイン・バンク”であったサン・ジャコモ銀行を通して、年間1,000件を超える振込みを一人で行っていることから、それらの発掘調査、および読解には実に膨大な時間が必要となり、筆者の調査はその活動のごく一部を明らかにするに過ぎないものである。しかし、それら史料には興行師が関わった劇場すべての楽団員氏名、各人の賃金など労働条件を明らかにするでなく、台本が失われてしまったため今日で知ることのできない作品のタイトルの同定、さらには上演期間の特定など¹⁸、様々な可能性が秘められている。

例えば、ナポリ以外の地から雇われた歌手達が、どのような条件で旅行をし、どこに住んでいたのか、そして舞台で用いられた鬘のレンタル料金や絵の具の材質、衣装の型とその代金、バレエダンサーやエキストラ、椅子運び係にどれほどの動員がされていたのか、さらには、劇場の賃貸料、照明費用、劇場税、パトロンとの関係などの特定は、当時の劇場空間のサウンドスケープを「立体」として再構築するために数多くの手掛かりを与えてくれる。最も大切なことは、史料に示される具体的な金額は、当時の社会の価値観を数値化した計量的記号ということである。つまり、それらに注目することにより、その人物やジャンルに対する当時の価値観とその変化という精神の歴史を明らかにすることができるのである。筆者がこれまで仮説をたててきた台本、音楽の側面にみられる喜劇オペラのジャンルの変化、社会的地位の高踏化（Yamada 2004; 山田 2005b）を具体的に実証するために、このプロセスは有用であろう。

まず、筆者が調査対象人物として選んだ興行師は、喜劇オペラがジャンルとしての変容を果たした1760年代から90年代にかけて、民間劇場で喜劇オペラの興行を行っていた「多数の」興行師のうち、20年を超える長

¹⁷ 同様の「銀行文書館」は、ローマ銀行歴史文書館（在ローマ）、モンテ・デイ・パスキ・シエナ銀行歴史文書館（在シエナ）などイタリア各地に存在するが、最も規模が大きく、充実した文書点数を誇るのがこのナポリ銀行歴史文書館である。詳しい成立史、内部写真、詳細については以下資料を参照。BANCO DI NAPOLI, *L'Archivio Storico del Banco di Napoli: Una fonte preziosa per la storia economica sociale e artistica del Mezzogiorno d'Italia*, Napoli, Banco di Napoli, 1972; BANCO DI NAPOLI, *The Historical Archive of Banco di Napoli*, Napoli, Banco di Napoli, 1988.

¹⁸ 従来ナポリの劇場史の基礎資料として用いられてきたフランチェスコ・フローリモの著作 FRANCESCO FLORIMO, *La scuola musicale di Napoli e i suoi conservatori, con uno sguardo sulla storia della musica in Italia*, in 4 vols, Napoli, Stabilimento Tipografico di Vincenzo Morano, 1881-1884. また、クラウドディオ・サルトーリの台本集成 (Sartori) による上演作品一覧表は、現存台本を基にするデータのため、多くの欠落、また誤りが認められる。

期間にわたって複数の劇場を運営し、ナポリの喜劇オペラの方向性を打ち出したと推測されるジェンナーロ・ブランキ Gennaro Bianchi (活躍 1764-84) (Yamada 2004), およびその後継者であるジュゼッペ・コレッタ Giuseppe Coletta (活躍 1783-96) (山田 2008 ; Yamada 2012) の 2 人に注目した。さらに、彼らの時代の「一般像」を捉えるために、フィオレンティーニ劇場興行師フランチェスコ・マリーア・デマルコ (活躍 1782 前後), スオーヴォ劇場興行師「故アレシオの息子フランチェスコ・ピザーノ Francesco Pisano quondam Alesio」 (活躍 1792 前後), 王立フォンド劇場興行師アニエッロ・リッカルディといった比較的活躍時期の短い人物の支払い記録を調査し、最終的に、1769 年, 1770 年, 1775 年, 1780 年, 1784 年, 1792 年, 1793 年の支払い記録の調査を行った。

なお 18 世紀前半には、出版台本に興行師の署名が掲載され、興行師の名前を容易に同定することができるが、18 世紀中旬になるとその習慣は廃れ、本論文で扱う興行師の多くは、イタリアにおいても体系的調査がなされていないこともあり、名前すらも知られていない状況である。

実際、彼らの名前の同定は、膨大な史料を解読する中での偶然のことが多く、この“調査前調査”とでも言うべき対象人物の同定に予想外に時間がとられ、個別史料群の一部の調査はいまだ完了していない。しかし、それでも当該年度の支払い件数全数のおよそ 8 割以上の史料の転写、解読は完了しており、作曲家、台本作家、楽器奏者の待遇の大枠を経年的に解明するにはおおむね十分の量であろう。

以下、史料の整理と解読に関する留意点を述べておきたい。

まず、興行師と劇場関係者との間には、通常総年俸を取り決める「年間契約」が結ばれるが、大多数の関係者(楽器奏者、バックステージ関係者)への支払いは、年間 4 作品のオペラ上演に対して、それぞれの作品の公演期間と合致するよう年俸を四分割した「期間給」として、公演終了後に支払を行うのが一般的であった(興行師によっては当該給を公演前に前払いとして支払う場合もみられる)。このような慣習から、その年度中の換金記録が 1 点でも見つければ、当該年度の受取人の任務、そして年俸を計算することができることとなり、表 3 は、そのようにして導き出した「年俸」を記した。

ただし、このような仕組みは、賃金の高い歌手、作曲家、台本作家、劇場所有者への支払いには当てはまらない。彼らに対しては、当該劇場年度が開始される前に、公証人立会いのもと締結される契約文書に基づいて年間 4 回以上での分割払いにより支払われ、うち一部は現金や月給として、また別途支給の旅費、滞在費、家賃との相殺など、複数の支払い記録を寄せ集めて解読しなくては「年俸総額」、あるいは契約の全貌は明らかにならない。

また、信託証書発行から換金までの日数について、現在日本での小切手は、振出日の翌日から 10 日以内に換金しなくてはならないが、当時もおおむね受領後すぐ(少なくとも 1 か月以内には)換金を行っているものの、当座の生活費に困らず貯蓄傾向にある人物、あるいは、監督官庁からの支払い差し止め要求などがあつた際には、振出日から換金まで数ヶ月から数年かかる場合もあり、換金日記録ベースとするこの調査ではそれらのケースの取りこぼしが発生する。

上記の問題にできる限り対処するため、本調査では、調査の狙いとする最初と最後の時期、つまり 1770 年度、および 1793 年度について、当該年 1 月から 12 月までの記録を行うことで、換金までに時間差があるケースの収集に努め、一方で、その中間となる他の年度については、限られた時間を有効に使うためにも、発掘作業の 1 つの目安となる当該年度の 2 半期中(上半期: 1 月 1 日から 7 月 30 日, 下半期: 8 月 1 日から 12 月 31 日)¹⁹、上半期の換金記録に焦点を絞って調査を行った。その理由は、この上半期において新しい劇場年度が開始されそれらの記録とともに、その前年度の記録についても調査することができるためである。

なお、研究を進める中で、興行師からの支払いにおおよそ一定の法則があることに気が付かされる。これは支払いの順番であり、オペラ上演にとってまず一番大切な役職となる作曲家と台本作家、そして歌手や弁護士などに対しては、劇場シーズンが始まる前から「前金」、「手付金」、「支度金」とともに支払いが先払いで開始されるのに対して、一般的な器楽奏者に対しては、公演が終了してから支払いが始まる点で異なり、劇場メ

¹⁹ 上半期が 6 月末でなく 7 月末に設定されているのは、年末の 12 月末日に取引が非常に増大することに対応しているからと考えられる。

ンバーの中での待遇の格差の存在が透けて見える。

また、調査を行う「行内日誌」には、しばしば同じ日の同じ場所に複数の関係者への換金記録が連なって見つかる場合があるが、受付順に紐に通され保存される信託証書とその複写物である「行内日誌」の作成手順より、それら「受取人たち」は一緒に銀行を訪れ、換金をしていたことが示される。内容だけでなく、これらの情報に注意を払って史料を検討してゆけば、歌手や作曲家の受け取りはほぼ単独で行われるのに対し、楽団員やバレエダンサーなどは、一度に数人、多いときでは10人近い記録（特に1781年フォンド劇場の支払いの場合に多く見られる）が相前後して見つかり、つまり、彼らの練習時間や、交友関係といった行動のパターン、そして「給料日」の賑わいを想像させてくれさえするのである。

3. 調査結果

3-1. 記載方法

調査結果についての報告、検討に先立ち、論末の表1～3の記載方法について概説する。

各表の横軸には、それぞれ対象とする作曲家、台本作家、楽器奏者の名前を、想定される生年順（生没年不詳の場合、活躍年代順）に置くとともに、縦軸に劇場年度を示し、交わる各欄には、その年度中に制作した作品についての報酬を、作品名、上演場所、ジャンル（オペラ作品、演劇作品）ごと、時系列に並べ出典とともに示す。

なお、この「劇場年度」とは、1月1日から12月31日の一般的な暦を示すのではなく、民間劇場の場合では、「復活祭初日」から「翌年の謝肉祭最終日」までの劇場営業年度を示す。宮廷劇場の場合においては、宗教暦を踏襲しながらも春、秋、冬、謝肉祭という4シーズンそれぞれの初日が、その時期に該当する王室メンバーの誕生日、命名祝日等となるよう任意に選ばれ、取り決められる。そのため、民間劇場においては、シーズンの開始を告げる第1オペラが大切となっていたのに対し、宮廷劇場においては、王室メンバーの地位とその祝日の重要性に応じて年度の顔となる作品が変わるので単純な比較を行うことは難しい。

作曲家の労働条件を示す表1においては、ニコロ・ピッチンニ（1728-1800）、ジャコモ・インサングイネ（1728-1795）、ジャコモ・トリット（1733-1824）、ジョヴァンニ・パイジェッロ（1740-1816）、ジュゼッペ・ガッツァニーガ（1743-1818）、ドメーニコ・チマローザ（1749-1801）、ジュゼッペ・ジョルダーニ（1751-1798）、ガエターノ・アンドレオツィ（1755-1826）、ルイーダ・ピッチンニ（生没不詳・ナポリで活躍: 1793-1793）、およびバレエ作曲家ドメーニコ・ル・フェーブル（生没不詳・ナポリでの活躍: 1784-1794）について、各オペラおよびバレエ1作に対する作曲への報酬を、ナポリ王国通貨ドゥカートで示す。

続く表2では、縦軸として台本作家を活躍年代順に、ラニエーリ・デ・カルツァビーニ（1714-1795）、ジャンバッティスタ・ロレンツィ（1719-1799）、フランチェスコ・チェルローネ（1722—1812?）、パスクァーレ・ミリロッティ（生没年不詳、活躍: 1755-1782）ジュゼッペ・ミリロッティ（1720/30頃-1782、活躍: 1776-1781）、ピエトロ・ナポリ＝シニョレツィ（1731-1815）、ジュゼッペ・パロンバ（生年不詳・活躍: 1765-1825）、サヴェーリオ・ツィーニ（生没年不詳、活躍: 1772-1800）、カルロ・セルニコラ（生没年不詳、ナポリでの活躍: 1787-1795）、ジュゼッペ・ディオダーティ（生没年不詳、活躍: 1786-1800以降）を置き、横軸では先表同様、各劇場年度中に当該人が発表したオペラ、喜劇演劇、オラトリオ台本について、ジャンル、上演劇場と上演シーズン、そして報酬総額を典拠史料とともにナポリ王国通貨ドゥカートで示す。

表3は、概ね10年以上の長いスパンでその活躍が同定できた器楽奏者14人に注目し、それらを標準的なオーケストラ楽器表記順（弦楽器、管楽器、チェンバロ、それぞれ高音から低音楽器の順）に従って記載した。オーケストラ団員の場合、劇場との契約は年間契約となり4分の1期払いとしてシーズンごとの支払いが行われるが、ここでは推定される年俸額を算出のうえ記した。

3-2. 作曲家への報酬と、年次的キャリア

本章で明らかとなった作曲家のキャリアの大枠をまず記すと、音楽院を修了したばかり、20 台後半から 30 代前半の駆け出し作曲家には、民間劇場から、2 幕、あるいは 3 幕の喜劇オペラ作品に対して、80~100 ドゥカート程度で委嘱契約が結ばれるが、それら作品の上演期間から、謝肉祭期間中に設定される第 4 オペラとして集中的に上演されていた傾向が見えるが、おそらくは年度末のこの最終シーズンが新人デビューの場となっていたと考えられる（史料 71, 97）。その後、キャリアに応じてその報酬は漸増し、30 代後半以降、中堅からベテラン作曲家とみなされるようになると、民間劇場での報酬は 1 作につき 150~330 ドゥカートにまで増額される。それら作品上演期間も、当該年度の“目玉”となる第 1 オペラに設定されることもしばしばで、彼ら中堅作曲家の作品が集客の要としてみなされていたことが推測される。そしてこの頃になると、王立劇場からオペラ・セリアの委嘱が舞い込むようになるが、その報酬は、民間劇場の水準を概ね上回る、一作あたり約 200~600 ドゥカートであった。しかし、作曲家のキャリアによって幅があり、ジャコモ・インサングイネのケースでは、41 歳の時、1769 年度ヌオーヴォ劇場第 2 オペラとして発表した喜劇オペラ《見てくれの馬鹿娘、あるいは冷やかされた先生 *La Finta semplice o il tutore burlato*》に対して 80 ドゥカート、一方 54 歳になって王立サン・カルロ劇場から委嘱された 1782 年第 1 オペラ《カリプソ *Calipso*》への報酬は 230 ドゥカートで、大幅に増額されたとはいえ、ロシア宮廷の楽長を 8 年務めてナポリに戻ったパイジェッロが 44 歳の時、1784 年度サン・カルロ劇場から委嘱された第 4 オペラ《アンティゴノ *L'Antigono*》への報酬が 500 ドゥカートであったことと比較すると、彼の半分以下の評価しか下されていないことが分かる。つまり、「若手」から「ベテラン」としてキャリアを進める中で、「ベテラン」となっても「平凡」のままそのキャリアを終える作曲家も多かったことが、本研究によって経済的側面から裏付けられるのである。

改めて、ロシア宮廷楽長、後にナポリの宮廷楽長、そして革命後はナポレオン・ボナパルテの楽長と上り詰めたパイジェッロの事例に注目していくと、作曲家としての当時の成功モデルが見えてくる。まず彼は音楽院修了後しばらく北イタリアで活躍していたが、ヌオーヴォ劇場、フィオレンティーニ劇場の両劇場の運営を行っていたナポリの敏腕興行師ジェンナーロ・ブランキ（Yamada 2004; 山田 2005a; 山田 2005b）に見出され、1766 年より主にナポリを拠点に活動し、頭角を現すチャンスをつかんだ。表 1 の数字に、彼の同時代的評価の変遷が端的に示されよう：1769 年度フィオレンティーニ劇場第 2 オペラ《ラ・マンチャの男ドン・キショッテ *Don Chisciotte della Mancia*》（史料 4）、および 1769 年度ヌオーヴォ劇場第 3 オペラ《寛大なアラブ人 *L'Arabo cortese*》（史料 8）では、報酬額は各々 90 ドゥカートであったが、続く 1769 年度フィオレンティーニ劇場第 4 オペラ《マレキアーロの旅籠 *L'Osteria di Marechiaro*》では 100 ドゥカートへと加増、翌 1770 年度ヌオーヴォ劇場第 1 オペラ《ゼルミーラ *La Zelmira*》（史料 24）、同年度同劇場第 2 オペラ《恋のたくらみ *Le trame per amore*》（史料 28）ではそれぞれ 110 ドゥカートにさらに増額、そして 1771 年度ヌオーヴォ劇場第 1 オペラ《似た名前 *La Somiglianza de' nomi*》では 120 ドゥカート（史料 41, 49, 53）となり、その後、1776 年度ヌオーヴォ劇場第 1 オペラ《嘘からまこと *Dal Finto il vero*》での報酬は 170 ドゥカート（史料 68）であったことから鑑みて、ほぼ毎期、毎年ベースアップが行われていたことが示され、パイジェッロの同時代的評価が年を追うごとに高まっていたことを証明する。

ただし、この数字が当時の彼の本当の人気を示すにはまだ不十分であることが、上述の《嘘からまこと *Dal Finto il vero*》の支払い文書に読むことができよう。この史料（68）において、興行師ブランキが決められた報酬である 170 ドゥカートに加え、さらに 10 ドゥカートを追加ボーナスとして支払ったことが記されているが、「ソルベットを入れる容器でも（パイジェッロ氏に）買って頂くよう」、「大きく開けた口を閉めることができなほど途方もないあなたの才能に対して、重い責任を感じ、もちろんながらわたくしもそうすべきと感じている次第ではありますが、これまでの多額の支出によって懐不如意の事情もあり、これにて我慢頂くようお許し頂けますよう何卒お願い致します。しかしながらも、これは、私のあなたへの私の愛と感謝と、永遠にあなたの僕であるとの誓いを示す印となりますよう」（史料 68）との恭しい口調は、無数の支払い記録の調査の中でも異例であり、その事情の背景にはこの作品が大入り満員であったという経済的な成功を示すだけでなく、興行師ブランキが喜劇オペラの高踏化を王妃マリア・カロリーナの影響下で推進し、1767 年以降、度重なる宮廷への喜劇オペラの引越し公演を行うも未だ王家の人間が立ち入らなかった民間劇場に、はじめて国王一家

をこの《嘘からまこと *Dal Finto il vero*》の公演に招き、“御前上演”を成功裏に実現させたパイジェッロに対してのブランキからの感謝が強く示されているものと考えられる。

このナポリ王の御前で《嘘からまこと *Dal Finto il vero*》の公演の成功により、パイジェッロは、ロシア帝国の首都サンクト・ペテルブルクのエカテリーナ二世の宮廷楽長のポストを手に入れるが、同時に、全欧の宮廷における喜劇オペラブームをもたらすというジャンル全体の飛躍にも貢献した。ナポリ王家と宮廷人は、1776年の《嘘からまこと *Dal Finto il vero*》公演以降、ヌオーヴォ、およびフィオレンティーニ劇場に直接足を運ぶようになり、夏季、年末にはカゼルタ離宮、ポルティチ離宮に民間劇場で上演された喜劇オペラ団の引越し公演を行わせ市中の流行を宮廷に持ち込み始めたが²⁰、続いて1779年には、喜劇オペラを専門に上演する劇場として王立フォンド劇場を新たに設立し、オペラ・セリアと喜劇の融合であるところの「上質な喜劇オペラ」の上演を試みた。その理念については、劇場の柿落し作品であるチマローザ作曲、ロレンツィ台本《貞節な不貞 *L'Infedeltà fedele*》（参照台本: *I-Nsp*, Sala Capasso I.E.25⁷）序文において、台本作家ロレンツィが以下のように語っているので引用したい。

「尊敬すべき観客の皆様へ —— 著者より

これは、この新しい王立劇場の開場のための台本です。ここで筆者は、私たちの“小さな”劇場で行われてきたような、庶民的で下卑でありきたりな道化から遠ざかり、悲劇的な筋を際立たせるためとしてのみ、節度ある喧嘩を導入することに努めました。このような試みは、従来の音楽付ファルサ（笑劇）では全く行われてこなかったものです。私の考えは、王立サン・カルロ劇場のすべての厳粛さと、上述の小劇場におけるすべてのおかしさを、それぞれの本来の用法を尊重しながらそれらを慎ましやかに用いることで、その二つの間にある“中間的なドラマ”というものを作り出そうと試みたのです。」²¹

このような事情により、1780年代半ばには、民間劇場における喜劇オペラで成功した作曲家が、次に宮廷劇場でのオペラ・セリアに活躍の場を移す、という従来の作曲家キャリアの進め方に変化が起きたと筆者には感じられる。つまり、民間劇場での喜劇オペラは、宮廷劇場のオペラ・セリアと比べて、“安く”、“下手な演奏で”、“価値が低い”と考えられていたような時代ではもはやなく、二者は急速に、経済的にも、そして質的にも社会地位的にもほぼ比肩するような存在となっていたのではないかと推測するのである（山田 2005b）。

この潮流をより具体的に捉えるために、チマローザの事例の検討を行ってみたい。チマローザは、1780年代になると、既に民間劇場での成功を通して“中堅作曲家”としてみなされるようになり、1782年度には初めて王立サン・カルロ劇場からの委嘱で、メタスタージオ台本による《支那の英雄 *L'Eroe cinese*》を発表する。この時点での報酬は340 ドゥカート（Rossi: 1999, 89; DelDonna: 2001, 444）であり、翌1783年度同王立劇場第2オペラとして再び同劇場から委嘱された《オreste *L'Oreste*》についての報酬は、360 ドゥカート（Rossi: 1999, 94-95; DelDonna: 2001, 444）であった。一方、本調査によって初めて明らかとなったこの時期の民間劇場での喜劇オペラに対する彼への報酬は、1782年度フィオレンティーニ劇場第2オペラ《他人の振りする者はすぐばれる *Chi dell'altrui si veste presto si spoglia*》に対して330 ドゥカート（史料92）、同劇場1783年度第1オペラ《偽りのみせかけ、あるいは避暑 *L'Apparenza inganna o La Villeggiatura*》に対して330 ドゥカート（史料98）であり、つまり、おおよそ宮廷劇場と同水準の報酬が民間劇場においても支払われていたことが分かる。

つまり、もはや作曲家にとっては、根城とした劇場や作品ジャンルでその“立ち位置”が評価される時代では

²⁰ ポルティチ離宮内劇場に関する研究は存在しないが、カゼルタ離宮での1768-1773年度のオペラ公演について、一次史料を分析した以下の文献を参照のこと: ANTONELLA PASCUIZZI, *Feste e spettacoli di corte nella Caserta del Settecento*, Firenze, Firenze Libri, 1995.

²¹ 参照台本: *I-Nsp*, Sala Capasso I.E.25⁷, p.3 [Al Pubblico Rispettabile – L'Autore. Ecco un libro per l'apertura di questo nuovo Real Teatro. In esso ho studiata la maniera di slontanarmi da quelle solite buffonerie popolesche, e volgari, che ne' nostri piccoli Teatri si costumano, contentandomi di usar nella favola moderati fali, che bastassero a dare un convenevole risalto a quel tragico, che in essa ho introdotto, e che finora non fu nelle farse musicali praticato. Fu mio pensiero, che tra quel tutto serio del Real Teatro di San Carlo, e quel tutto giocoso de' suddetti Teatrini, servisse questo di un mezzano Spettacolo, che discretamente partecipasse così dell'uso.]

なくなり、実力と人気さえあれば、どのような活躍であっても正当に（金銭的に、社会的に）評価される時代になってきていたことを示すと筆者は考える。実際、1793年にチマローザがウィーンから帰還すると、旧知の興行師コレッタによる仕掛けによって、ウィーン宮廷で大成功した《秘密の結婚 *II Matrimonio segreto*》を、ナポリ改訂稿としてフィオレンティーニ劇場（当初の予定ではヌオーヴォ劇場での上演予定が、おそらくはウィーンからの到着の遅れにより上演劇場変更：史料 112 参照）の 1793 年度第 1 オペラとして上演し、続いて、当初の予定通りヌオーヴォ劇場で 1793 年度第 2 オペラとして新作《トラキアの恋人たち *I Traci amanti*》を発表するが、その際にチマローザが得た報酬の合計は、王立サン・カルロ劇場のオペラ・セリアに対する給与水準（1782 年度、インサングイネ作曲《カリプソ *Calipso*》に対する報酬は 230 ドゥカート；1785 年度パイジェッロ作曲《オリンピアアデ *L'Olimpiade*》に対する報酬は 600 ドゥカート：DelDonna: 2001）を大きく超える 1,000 ドゥカートであり、リメイク費用を勘案し、さらに政情不安からのインフレを加味したとしても、他の作曲家、表 3 で示される器楽奏者の年俸と比較すれば、チマローザの喜劇オペラに対する当時の“世界的”社会的評価は明白であろう。

なお、チマローザがフィオレンティーニ劇場に登場した 1793 年度シーズンは、興行師ジュゼッペ・コレッタがフィオレンティーニ劇場と王立サン・カルロ劇場の二つを同時経営していた時期に該当する。彼は、パイジェッロの作品とともに宮廷に喜劇オペラを認めさせた前任の興行師ジェンナーロ・ブランキの経営路線を引き継ぎ、1783 年よりフィオレンティーニ劇場の興行師としてキャリアを始めた人物である。つまり、チマローザのフィオレンティーニ劇場での厚遇の裏には、ブランキという人物を通して統合に至った両劇場、および両ジャンルの接近があり、「王立」、「民間」という従来の劇場区分ごとの作品分析ではそのトレンドを理解するには不十分である。

背景を説明しておく、王室経費の増大によって引き起こされた宮廷劇場への補助の削減、オペラ・セリアというジャンルのマンネリ化によって生じたサン・カルロ劇場の長年の経営難があり、それに対応するため 18 世紀中ごろよりディエゴ・トゥファレリなど“外部”の興行師の登用や、劇場委員会形式での経営が模索されるも結局その凋落は避けられず²²、ジュゼッペ・コレッタはおそらくその延長線上で、民間のノウハウをより生かすために新たに起用された人物であったと考えられる²³。事実、コレッタ時代のサン・カルロ劇場でのオペラ・セリア作品の楽譜分析を行うと、喜劇オペラ固有の語法である重唱、アンサンブル・フィナーレが次々と導入されていたことが分かり、反対に、フィオレンティーニ劇場での喜劇オペラにも“オペラ・セリア”様式が導入されていたことが分かる。その好例が、筆者別稿で明らかとしたチマローザの《秘密の結婚》ナポリ稿（1793: 筆写譜: 国立音楽大学所蔵 S11-117）における主役エリゼッタのために追加されたアリア（第 1 幕 7 場）〈喜びに心躍り *Agitata dal troppo content*〉の同定であり、ロシア時代のオペラ・セリア《太陽の乙女 *La Vergine del Sole*》（1789: 自筆譜: *I-Nc* 1.5.1）第 1 幕 5 場の主役イダリデのアリア〈多くの苦しみに上に心揺れ *Agitata in tante pene*〉から、なんと歌詞だけが置き換えられヴィルトゥオジックな音楽はそのまま喜劇へと転用されているのである（詳細は、山田 2008、特に 32-38; Yamada 2012）。

最後に、一つのオペラを複数の作曲家によって分けて制作する「パスティッチョ・オペラ」の実態についても触れておきたい。本調査によって、これらが主に“若手作曲家”によって行われていた実態が明らかとなった。その待遇を具体的に検討すると、例えばパスクアーレ・アンフォッシの音楽を中心に数人の作曲家の音楽とともに 1767 年秋、年度第 2 オペラとしてヌオーヴォ劇場で初演された《三人の新郎であり、誰の夫でもない男 *Lo sposo di tre e marito di nessuna*》（Sartori, 22548）は、その後 1781 年度第 1 オペラとして王立フォンド劇場で再演されたが、その際に、当該台本（所蔵: *I-Nc* Rari 10-8-10）の付記に読めるように、初演のアンフォッシの音楽を再使用しながらも、いくつかのアリア、フィナーレ部は新たにピエトロ・グリエルミが執筆、序曲と大部分のレチタティーヴォについてはジュゼッペ・ジョルダナーノが担当したが、そのうち“手直し”について、ジョルダナーノは、次シーズンのオペラ（1781 年度第 4 オペラ《プリンディシの市場 *La Fiera di Brindisi*》）に

²² G. STIFFONI, 'Il Teatro San Carlo dal 1747 al 1753,' in *Fonti d'Archivio* cit., 2001.

²³ 18 世紀後半の喜劇オペラの置かれた状況を詳しく論じた以下の著作においてもこの視点は提示されていない: PAMELA PARENTI, *L'Opera buffa a Napoli: Le commedie musicali di Giuseppe Palomba e I teatri napoletani (1765-1825)*, Roma, Artemide, 2009, 22-40.

対する執筆料 160 ドゥカートの様組みの中でそれを行っていたことが判明する（史料 83, 84, 86）。

同様の形態は、音楽院を修了したばかりのチマローザのケースにも確認される。1762 年度秋の第 2 オペラとしてフィオレンティーニ劇場において、ピエトロ・グリエルミの音楽とともに上演された《すべての性格を持つ女 *La Donna di tutti li caratteri*》（Sartori, 8246）が、改めて 1775 年度第 3 オペラとしてヌオーヴォ劇場において再演された際、チマローザは差替アリアを提供することとなったが（台本: Sartori, 8249）、その報酬については、翌期の謝肉祭シーズン、年度第 4 オペラとしてチマローザに委嘱されていた 1 幕のファルサ《愛ゆえの過ち *Li Sdegni per amore*》、および、ファルサ《舞踏会での結婚、あるいは予期せぬ事 *IMatrimonii in ballo, o sia impensati*》への音楽の作曲への報酬 80 ドゥカートの様組みの中で行っていた（史料 71）。

また、パイジェッロに対する 1776 年 9 月に上演された、「年度第 2」オペラへの支払いとなる 60 ドゥカートの一部金についての記述（史料 70）について、該当作品の同定を試みると、パイジェッロ自身が 1769 年冬にヌオーヴォ劇場第 3 オペラとして発表した《寛大なアラブ *L'Arabo cortese*》（Sartori, 2329）であったことが分かり、つまりパイジェッロへのある種“二重払い”であったことが判明する。この作品は大好評を得たため、初演から 3 年後の 1773 年謝肉祭期間にフィオレンティーニ劇場（1772 年度）第 4 オペラ（Sartori, 2330）として再演され、この 1776 年の上演は“再再演”に位置づけられるものであった。当該台本（Sartori, 2331）にはチマローザの加筆が明記されており（チマローザへの支払い記録は発見できなかったが）、パイジェッロ自身、加筆修正をどこまで行っていたかわからないが彼に支払われたこの 60 ドゥカートへの報酬の存在から、おそらくパイジェッロ自身の再演に対する“加筆修正”という名目での、“著作権”としての意味合いが色濃い支払いであったと考えることも可能であろう。

この仮説を裏付けるために、さらに作曲家ジュゼッペ・ジョルダノーへの支払い文書（史料 86）、および作曲家ジュゼッペ・ガツァニーガへの支払い文書（史料 76, 77）の記述に注目してみたい。ガツァニーガのケースでは、1778 年春にフィレンツェのペルゴラ劇場で初演し大成功を果たした《葡萄摘み *La Vendemmia*》（Sartori, 24486）を 1780 年度王立フォンド劇場第 3 オペラとして再演（Sartori, 24501）するに際して、興行師リッカルディから次期オペラとして新作《風変わりな女 *La Stravagante*》の委嘱料 200 ドゥカートとは別途、“旧作の手直し”という名目で 80 ドゥカートという額が支払われているのである（史料 76, 77）。

これらの史料より、自作であっても再演に際しては必ず加筆修正が求められた当時のオペラの上演のしきたりにおいて、その再演を“準備”しなくてはならなかった作曲家に対しては著作権がなかった時代とはいえ、一定の“（金銭的）配慮”が常に存在していたことが確かめられるのである。

またパスティッチョという「分業形態」は、1760 年代半ば以降、レチタティーヴォ部分を完全に別の作曲家に担当させるという新しいナポリ発のオペラ制作システムを生み出した。特にチェンバロ奏者でありながら、おおよそ 35 年にわたってナポリの諸劇場でレチタティーヴォの執筆を手掛けたジュゼッペ・ベネヴェント（活躍: 1766-1801）について、筆者は現存するピッチェニ、パイジェッロ、チマローザ、トリットの全ての自筆譜およそ 300 点を超える調査を基に、レチタティーヴォ作曲家としての仕事がどのようなものであったか詳細に同定を行っているが（山田 2008; Yamada 2012; Yamada 2016）、ここで改めて彼の活動に言及しておく、彼は、チェンバロ奏者としての演奏を一作品あたり 10 ドゥカートで行う一方で（表 3 参照）、1 作品のレチタティーヴォの全ての部分の作曲を行うことで別途 10 ドゥカートを得ていた（史料: 103, 129）。彼の活動は、役者に台詞を覚えさせ、舞台を作るコレペティトゥアにほぼ近い存在であることが分かるが、重要なことは、映画、テレビドラマといった分業制から成り立つマスメディアが、すべからくオペラの運営システムを出発点としてその後継物であることを裏付ける史料ともなる点である。

なお、作曲家ジャコモ・トリットの史料（史料 87）には、1781 年度王立フォンド劇場で上演されたトリットによる 3 幕の喜劇オペラ《ベリリダ、或いは忠実な野菜売りの娘 *La Bellinda o l'ortolana fedele*》の一部金として 42 ドゥカートが支払われ、さらに「レチタティーヴォの作曲」という名義で別途報酬 42 ドゥカートの支払いが予定されると書かれてあることに注目されるが、ナポリ音楽院に所蔵されるトリットの自筆譜（所蔵: I-Nc Rari 2.5.20）を調査すると、レチタティーヴォ部分はすべて、上述のジュゼッペ・ベネヴェントによって書かれスコアとして 1 冊に綴じられていることから、契約文書（史料 87）での言及はおそらくは“音楽部分”

の作曲を示す意味であったに留まり、実際には先のレチタティーヴォ分業作業のシステムの中で制作された作品であったと考えることができる。なおレチタティーヴォ制作システムの全貌、および作品同定の詳細については、改めて筆者別稿（山田 2008; Yamada 2012; Yamada 2016）を参照されたい。

その他、支払い文書の記載には、ナポリからローマへの急行馬車での旅費が 11 ドゥカートであったこと（史料 97）、ナポリからフィレンツェへの旅費への補助が 26 ドゥカート（史料 107）であったことなど経費詳細のほか、興行師コレッタが経営者として独立する前年の 1783 年度の支払い記録のいくつかの文書の追記において、彼が王立軍事裁判所に担保として預けた 1200 ドゥカートとともに劇場運営を開始したことが示されるが（史料 94, 95, 100, 104）。ここより、コッティチェッリが報告したナポリ王立軍事裁判所の役目というものが、実際どのような形で実施されていたのかを明らかにすることが可能となる²⁴。

史料: ASN, Udienza Generale dell'Esercito, fascio 1298, carta 65 v. (26 May 1774).

[Cfr. FRANCESCO COTTICELLI–MARIA ESPOSITO, 'La macchina teatrale tra gestione di corte ed impresa privata,' in *Il Teatro di Re: Il San Carlo da Napoli all'Europa*, Napoli, Edizioni Scientifiche Italiane, 1987, 237 (注 2)]

「この王立軍事裁判所は、本王国の国王陛下により作られた裁判所の一つであり、他の裁判所からは独立し、国王に所属する本国の軍隊、および、国王一族、城、塔、および一切の軍事争議 *folo militare* の一切を独占的に管轄するものである。軍隊に所属する人々のために、これらの人間が行うすべての民事、および刑事裁判は、王国内の他のすべての裁判所との合同での審議とする。同じく、この法廷本部は、(ナポリ)市、(ナポリ)王国内におけるすべての劇場、王立市場、および他の一切の民間上演(演劇、およびオペラ)を管轄する特殊な任務をもち、これらの場所でおきたすべての事件は、(軍事裁判所)が、先の例と同じく、独占的にこれを管轄する。故に、裁判官は、王立劇場でのオペラの上演、および、王立市場が開催されるすべての日にここに赴くことが義務付けられ、劇場内、市場内でおきたどのような人物によるどのような事件——民事であれ、刑事であれ——に介入する。」²⁵

3-3. オペラ台本作家という存在と、その労働条件

オペラは、登場人物の感情や行動がクローズアップされるアリア、そして筋を展開させる役割を持つレチタティーヴォ部に大きく分けられながら全体の物語が進められる。これらのうち、「音楽劇」として注目を集めるアリア、アンサンブル、そしてレチタティーヴォ・アッコンパニヤートはもちろん、レチタティーヴォ・セッコ部分についてもすべて韻律に則った韻文で書かれ、言葉にリズム、抑揚が内在するよう構成されている。

従って、これを担当する台本作家は文法や古典詩学に長けた文人でなくてはならず、そのため、オペラの誕生以降、その台本は詩人、劇作家、貴族、そして時には神学者や法学者などによって担われてきた。1718 年以降、ウィーン宮廷詩人として活躍する前のアポストロ・ゼーノ *Apostolo Zeno* (1668-1750) が、オペラ台本の執筆の傍らジャーナリストとして活躍していたこと、また、喜劇オペラ台本の執筆家としてナポリで活躍したピエトロ・ナポリ＝シニョレッリ *Pietro Napoli-Signorelli* (1731-1815) は、もともとボローニャで学位を取った文学者、歴史学者であったことにも示されよう。

²⁴ 以下の取り決めのもと、公演日には毎晩、王立軍事裁判所裁判官が観客席と舞台の両方を一望できる 1 階舞台袖のバルコニーに座って劇場内監督を行い、興行師はその彼らの立会いに際して報酬を払っていたことが、別途筆者による銀行史料群により明らかになった。

²⁵ [Questa Regia Generale Udienza dell'Esercito è uno dei Tribunali formato da serenissimi passati Re di questo Regno, indipendente da tutti gli altri, il quale ha privative giurisdizione sopra di tutti i Militari degli Eserciti di Sua Maestà in tutto il Regno, delle di loro famiglie, su degli addetti alli Castelli e Torri, e su di tutti quei, che godono il foro militare, per essere addetti al servizio delle appartenende alle truppe, esercitando su tutta questa gente la giurisdizione civile, criminale e mista indipendentemente da tutti gli altri Tribunali del Regno. Ha parimente questa suddetta Udienza Generale la speciale privative Delegazione di tutti i Teatri di questa Città e Regno, della Real Fiera, e di tutti gli altri pubblici spettacoli coll'istessa privative di tutte le cause di quelli che sono addetti a detti luoghi. È obbligato l'Uditore portarsi in tutte le sere delle opera nel Real Teatro, e nelle Fiere, conoscendo tutte le cause di qualunque persone, che o nei teatri, o nelle Fiere surgono, così civili, che criminali.]

一方、オペラの台本のプロ、つまり、音楽化されることを最初から念頭に置いた「韻文の作詞」にのみ専念して生計を立てることのできた専門オペラ台本作家は、極めて稀有な存在であった。オペラ史上、最初の人物とみなされているのが、ウィーン宮廷の桂冠詩人としてオペラ・セリアの規範を作ったローマ出身のピエトロ・メタスタージオ（本名ピエトロ・トラパッシ *Pietro Trapassi*, 1698-1782）であり、その後、ローマ教皇庁詩人として多くの喜劇台本を発表したジュゼッペ・ペトロゼッリーニ *Giuseppe Petrosellini* (1727-1797)、モデナ公フランチェスコ III 世の宮廷詩人として 60 作近い喜劇を発表し、コメディ・ラルモワイヤントという新ジャンルを打ち立てたピエトロ・キアーリ *Pietro Chiari* (1712-1785)、そしてウィーンのヨーゼフ II 世皇帝の庇護のもと、モーツァルトやマルティン・イ・ソレルと共作して 28 作の名作を残したロレンツォ・ダ・ポンテ *Lorenzo Da Ponte* (1749-1838) が続くことになる。

一方、宮廷以外の場所でオペラ台本を書いた人物は、当然ながら定期収入はなく、作品の人気のみによる生活がかかっていたため、必然的に同時代人による同時代の流行を素材とした喜劇オペラの台本に特化することになり、さらにはこれを大量に書く必要があった。メタスタージオが 1724 年から 1771 年までのおよそ 50 年弱のキャリアの中で発表したオペラ台本は 26 作²⁶であったが、ヴェネツィアのカルロ・ゴルドーニ *Carlo Goldoni* (1707-1793) はその生涯に発表した演劇、オペラ用台本は 200 作を優に超え²⁷、両者の執筆への姿勢は大きく異なり、“教養ある”オペラの世界から次のような悪意をもって評されることもしばしばであった：

- ・「膨大な数の昔のオペラを用意して、部分的な詩句や何人かの登場人物の名前以外は入れ替えることなく、その主題とシナリオをそっくりそのまま取り入れることでしょ。」
- ・「劇場支配人が必要とするならば、登場人物を付け加えたり、外したりするでしょう。」
- ・「もしアリアの歌詞が作曲家の先生のお気にいらなければ、すぐにでも歌詞を書き換えて、さらにそのアリアの歌詞の中に、風よ、暴風よ、霧よ、熱風よ、北風よ、といった同じような間投詞を気まぐれに挟み込むのです。」²⁸

ゴルドーニはしかし、宮廷付台本作家たちとは異なるアプローチをとりながら“芸術家”としての高みを目指し、17 世紀以前の伝統的仮面劇とは異なる形の市民劇としての新しい喜劇を確立し、演劇改革を成し遂げた²⁹。この試みは後に、ナポリのみならず、18 世紀後半のヨーロッパ文化全体に大きな影響を与えることになる。

²⁶ 山田高誌「《オリンピーアデ》～規範、伝播とその変容」、『紀尾井ホール開館 20 周年記念バロック・オペラ ペルゴレージ歌劇《オリンピーアデ》日本初演 (2015/10/6, 10/8)』プログラム、紀尾井ホール、2015、72-79；中川さつき『『ウティカのカトーン』 *Catone in Utica* (1728) —メタスタージオの音楽劇における愛国的英雄あるいは共和制という重荷—』、『京都産業大学論集人文科学系列』vol.48 (2015)、389-406；中川さつき『『エツィオ』 *Ezio* (1728)：イタリア時代のメタスタージオ』、『京都産業大学論集人文科学系列』vol.49 (2016)、443-464；その他イタリア語による研究書は膨大にのぼるため、ここでは、研究の基礎にしてその頂点となる批判校訂版のみを挙げる：*PIETRO METASTASIO, Drammi per musica*, 3 vols (vol.I, *Il periodo italiano, 1724-1730*; vol.II, *Il regno di Carlo VI, 1730-1740*; vol.III, *L'età teresiana, 1740-1771*), ANNA LAURA BELLINA (ed.), Venezia, Marsilio Editore, 2002-2004.

²⁷ 上記同様の理由から、ここでは現在進行中の批判校訂版全集のうち、オペラに関わる巻のみ列挙する。なお、この新全集は「Edizione nazionale」として国認定事業となっており、1995 年から 2009 年にかけて Venezia, Marsilio 社より 46 巻が発刊されており続刊中である。CARLO GOLDONI, *La cameriera brillante*, ROBERTO CUPPONE (ed.), with introduction PAOLO PUPPA, Venezia, Marsilio, 2003; Id, *Le burru bienfaisant-Il burbero di buon cuore*, PAOLA LUCIANI (ed.), 2003; Id, *La vedova scaltra*, L. SANNIA NOWÉ (ed.), 2004; Id, *Trilogia della villeggiatura*, F. FIDO—M. BORDI (eds.), 2005; Id, *Dramma comici per musica I: 1748-1751*, translation S. URBANI, 2007; Id, *La Locandiera*, translation S. MAMONE—T. MEGALE, 2007; Id, *Intermezzi e farsette per musica*, ANNA VENCATO (ed.), introduction GIAN GIACOMO STIFFONI, 2008; Id, *Drammi musicali per i comici del San Samuele*, ANNA VENCATO (ed.), 2009.

²⁸ ベネデット・マルチェッロ『当世流行劇場』小田切慎平、小野里香織訳、未來社、2002、25-41「台本作家」の項より一部抜粋。これは、ヴェネツィアの文人貴族で劇場主でもあったベネデット・マルチェッロが、“低価格路線”のオペラで新たに市場を席卷し始めたヴィヴァルディをあてこすって書いたものであり、売り上げを奪われたベネデットの立場を割り引きながらその言説を考慮する必要がある。

²⁹ それまで登場人物の社会的身分とその性格は不可分のものであったが（お嬢様は常に真面目に描かれる）、ゴルドーニはその型を撤廃することで（“高貴”な漁師娘など）、演劇、そしてオペラへ新たな枠組みを提供した。この試みは、“氏より育ち”を重視し始める 18 世紀後半の社会に広く受け入れられることとなる。演劇改革の詳細については、大崎さやの「ゴルドーニの演劇改革 同時代人の批評を通して」東京大学博士論文、2005 が詳しい。

さて、本章で扱うナポリの劇作家たちは、喜劇オペラの“高踏期”にその喜劇台本の執筆に特化した意味でゴールドーニの系譜上に位置付けることができる“職人”たちである。しかし、彼らはゴールドーニやダ・ポンテのように自らの回想録を残しておらず³⁰、それらの研究は主に 19 世紀末以降、郷土史、およびナポリ語文学の観点から行われてきたのみである³¹。近年ではジョ・ヴァンニ・バッティスタ・ロレンツィ³²、ジュゼッペ・パロンバ³³、19 世紀の喜劇オペラのパロディ性³⁴など、個別作家ごと、またテーマごとに研究が深められてきているとはいえ、劇作家の活躍が文学、演劇、そしてオペラの各領域にまたがる広範なものであったが故に、研究は、文学、書誌学、言語学、美学、韻律学、そして演劇学それぞれセクト化した枠組みの中で留まっており、このたびの“音楽経済史”の立場から、俯瞰地図の上に彼らの仕事をそれぞれ位置づけていく試みは、ナポリの台本研究領域においては国際的にみても初めての取り組みである。

経済史的な観点からの取り組みがなぜ台本研究においても必要となるのか、改めて次に引用するゴールドーニ関連史料から示してみたい。これは、若かりしゴールドーニが 1749 年にサン・タンジェロ劇場興業師ジローラモ・メデバック Girolamo Medebach と結んだ契約文であり、ここから興業師のもと専属的に従った当時の“職人”としての職務のありかたを客観的に知ることができる。

- 「第1. 以下の労働契約はすべて、4 年間有効とするものである。
- 「第2. ゴルドーニ氏は、毎年 8 作の喜劇、および 2 作のオペラを作詞することが義務とされるが、さらに、必要となる場合、これらへのイントロダクション、さらに、メデバック氏の求めに応じて、古い筋書の変更なども同様に行うものとする。また、稽古、および同上オペラ、喜劇の上演に際しての同席についても同様である。」
- 「第3. ゴルドーニ氏は、同上の 4 年間について、喜劇一座がどこへ行こうともこれについて行かなくてはならない。」
- 「第4. 同ゴールドーニ氏は、同期間中、ヴェネツィアの他の喜劇（演劇用）劇場のために一切の台本を提供してはならない。」
- 「第5. しかし、音楽劇場——オペラ・セリア、オペラ・ブッフアであっても——については、台本を書くことができるものとする。」
- 「第6. メデバック氏は、ゴールドーニ氏に対して、口頭での契約通り、毎年 450 ドゥカート——1 ドゥカートあたり、6 リラ 4 ソルドの交換比率とする——を支払うものとする。」³⁵

ここで、調査結果を“俯瞰図”のように示す表 3 について概略しておきたい。

まず、民間劇場での喜劇オペラに作品を提供していた台本作家は、基本的に劇場年度ごと、あるいは作品ごとに雇われたフリーランスの職人であり、彼らの職務は、多くの場合、年間オペラ・シーズンとして準備する年間 4 作品の新作オペラについて、新作ならばそれらの作詞を行い、再演ならば土地や歌手に合わせた改訂稿を仕上げ、歌手や作曲家の突然の都合に合わせ、すぐに韻文の変更を準備することが求められた職人であったことが明らかとなった。

³⁰ 各人の回想録は、オペラ台本作家の活動がどのようなものであったかを記す第一級の史料となっている：CARLO GOLDONI, *Memorie* (1784-87), ed. PIERO BIANCONI, Milano, Fabbri Editori, vol.1, 1995; vol.2, 1995; LORENZO DA PONTE, *Memorie: i libretti mozartiani* (1829-30), translated in Italian by GIUSEPPE ARMANI, Milano, Garzanti, 1976 (1st ed.).

³¹ ULISSE PROTA-GIURLEO, *I teatri di Napoli nel '600: La commedia e le maschere*, Napoli, Fausto Fiorentino Editore, 1962; FRANCO CARMELO GRECO, *Teatro napoletano del '700: Intellettuali e città tra scrittura e pratica della scena*, Napoli, Libreria Tullio Pironti, 1981. グレコは主に 17 世紀から 18 世紀前半のピエトロ・トリンケーラらによるナポリ語喜劇を扱っている。

³² VANDA MONACO, *Giambattista Lorenzi e la Commedia per musica*, Napoli, Arturo Berisio Editore, 1968.

³³ PAMELA PARENTI, *L'Opera buffa a Napoli: Le commedie musicali di Giuseppe Palomba e i teatri napoletani (1765-1825)*, Roma, Artemide, 2009.

³⁴ ANNAMARIA SAPIENZA, *La parodia dell'opera lirica a Napoli nell'Ottocento*, Napoli, Lettere Italiane, 1998.

³⁵ 'L'autore a chi legge,' in *Tutte le opere di Carlo Goldoni*, Milano, Mondadori, 1935-56, vol.4: *La donna vendicativa*, 1006-1007 より筆者訳出。

彼らへの報酬は、民間劇場、および王立フォンド劇場における 3 幕の喜劇オペラ 1 作の報酬として、キャリアに応じて 80~150 ドゥカートが払われているが、1 幕物ファルサ用台本としてほぼその額の 3 分の 1 の 30 ドゥカートが支払われていることから（史料 15）、内容よりもまずは物理的なページ数が報酬計算の根拠になっていたであろうことが分かる。さらに表 1 の作曲家の給与水準と比較すると、喜劇オペラに関していえば作曲家への水準と比較し若干低めながらも、ほぼ概ね同水準で推移し、劇場内においてはほぼ同等に扱われていた“アーティスト”であったことが新たに見えてくる。

なお、このような待遇を先行研究において明らかにされている 1730 年ヌオーヴォ劇場第 2 オペラとして上演された 3 幕の喜劇オペラ《ロスメーネ *La Rosmene*》の状況と比較³⁶しながら、18 世紀という長いスパンの中でみると、台本を担当したバルナルド・サッドゥーメネ Bernardo Saddumene（生没年不詳、活躍：1722-1741）への執筆代は総額 40 ドゥカート、作曲家レオナルド・レーオには 100 ドゥカート、そしてヌオーヴォ劇場オーケストラのヴァイオリン奏者の年俸平均は当時 30~40 ドゥカートであったことから、18 世紀前半から後半にかけて、台本作家への経済的待遇は、インフレを大きく抑え、作曲家並みのものへと大きく改善されていたことが分かる。

台本作家はそのようなわけで、作曲家の場合と同じく、経験とともに報酬も増やされていったように思われる。ここで、100 作品を超える演劇、オペラ用台本を残したフランチェスコ・チェルローネ Francesco Cerlone（1722-ca.1812）の事例を検討すると、彼はヌオーヴォ劇場の興行師として、オペラと並んで年間 4 作品から構成される演劇の年間シーズンの興行まで自ら指揮をとっていたジェンナーロ・ブランキの下で、すべての演劇用台本と、オペラ用台本の発注を受けていた。彼の状況は、まさに先に引用したゴルドーニとメデバックの関係とほぼ同じであったことが想像されるが、そのうち、演劇用台本については、3 作品（これら作品タイトルは、当該台本が現存していないため、すべて初出の情報となる）の執筆で合計 300 ドゥカートが支払われ、オペラ台本については 3 幕の喜劇オペラ 1 作におよそ 100 ドゥカートから 110 ドゥカート、また 1 幕のファルサとして 30 ドゥカート（史料 15）から 50 ドゥカート（史料 51）が支払われ、つまり、その報酬水準は作曲家のパイジェットとほぼ同水準であったことが明らかとなる。

チェルローネは、子供のころ染め物工場で働いた後に装丁職人になるも、台本に興味を持ち、一念発起の末に学歴というハンディキャップを乗り越え喜劇作家となった人物で、1760 年代から 70 年代にかけてピッチェニやパイジェット、チマローザらと共作を重ね、すでに 1770 年代より複数の出版社から作品集が出版されるほど当時はヒット作家として知られていた³⁷。

実際、彼の喜劇オペラ台本《マレキアーロの旅籠 *L'Osteria di Marechiaro*》が 1768 年度第 3 オペラとしてフィオレンティーニ劇場でジャコモ・インサングイネの音楽によってオペラ化されると、翌 1769 年度にも第 4 オペラとして同フィオレンティーニ劇場で、今度はパイジェットの音楽によってオペラ化されているが、後年出版した全集の序文において、そのエピソードを誇らしげに語っている³⁸。また、1770 年度第 2 オペラとしてパイジェットの音楽とともに上演された《恋の企み *Le Trame per amore*》は、その人気のため、つづく同年度同劇場の「第 3 オペラ」として連続上演されさえしているのである³⁹（史料 39, 40, 42, 46, 55 は、同作品が第

³⁶ 喜劇オペラ *La Rosmene* の作詞に対して。Cf. COTTICELLI-MAIONE, cit., 1999, 147; CAPONE, cit., 2007, 336.

³⁷ FRANCESCO CERLONE, *Commedie* in 14 vols, Napoli, Vincenzo Flauto, 1772-1778; CERLONE, *Commedie*, edizione definitiva in 20 vols, Napoli, Giacomo・Antonio Vinaccia, 1772-1785; CERLONE, *Commedie*, in 20 vols., Napoli, Domenico Sangiacomo, 1775-1825; CERLONE, *Commedie*, in 10 vols., Bologna, Mario Niccoli, 1787-1790; CERLONE, *Commedie*, in 17 vols, Napoli, 1796; CERLONE, *Commedie*, in 22 vols, Napoli, Francesco Masi, 1825-1829.

³⁸ ジャコモ・インサングイネの作曲によって 60 夜上演された後、続いてパイジェットによって音楽がつけられて 40 夜の上演が行われ、前人未到大ヒット作品であったと述べている。F. CERLONE, *Commedie vol. 17*, Napoli, Giacomo・Antonio Vinaccia, 1784, III-IV.

³⁹ 筆者が調査を行った限り、ナポリの諸劇場において、1 作品が 2 期間連続上演されたケースは、わずかこのパイジェットの《恋のたくらみ》と、フィオレンティーニ劇場 1791 年度第 4 オペラ、および 1792 年度第 1 オペラとして連続上演されたパイジェット作曲、ジョヴァンニ・バルターティ台本《ベルリーナ遊びへの熱狂 *Il fanatico in berlina*》だけである。この連続上演は、次に予定されていた作品が完成しなかったなど、何らかの「劇場的不都合」のために行われた可能性も指摘されようが、この二作について

3 オペラとして再演されたことに対する支払いである)。

この表から、パイジェッロとの《なりきりソクラテス *Il Socrate immaginario*》(1776) でその名を一躍轟かせ、ナポリの宮廷付「台本検閲官」として活躍したジャンバッティスタ・ロレンツイ Giambattista Lorenzi (1721-1807) や、ナポリの喜劇界の大御所アントーニオ・パロンバ Antonio Palomba (1705-1769) の甥で、18世紀後半から19世紀初頭にかけてパイジェッロの《美しき水車小屋の娘 *La molinara*》(1788) や、後にロッシーニのための《新聞 *La gazetta*》(1816) など、138点の喜劇オペラ台本を残したジュゼッペ・パロンバ Giuseppe Palomba (1765~1825年まで活躍) も、ほぼ同じ条件下で、一作 D.90 から D.150 で、喜劇オペラ台本を執筆していたことが明らかとなった

この水準はまた、喜劇オペラを専門に上演していた王立フォンド劇場の条件もほぼ同じだったようで、チマローザ、モスカなどと共作し、18世紀後半から19世紀初頭に多数の喜劇オペラ台本を発表したサヴェリオ・ツィーニ Saverio Zini (生没年不詳) は1780年の時点で一作につき D.90 が支払われている。

一方、王立劇場からのオペラ・セリアについてはほぼ先行研究がないので、ここではカルツァビージの事例を中心に検討したい。

彼は、1743年からナポリの役所で勤めはじめるとともに台本を書きはじめ、その後パリ滞在を経て、1761年よりウィーンの役所に勤めた人物である。そこでウィーンの宮廷劇場を取り仕切っていたドゥラッツォ伯爵との関係からグルックと知り合い、1762年に発表した《オルフェオとエウリディーチェ》によって、いわゆるオペラ改革を実現させた。1775年にはすでにウィーンでの職を辞してピサに移住していたが、古巣のナポリの王宮劇場からの招聘により、晩年になってナポリへ戻るのであった。王立サン・カルロ劇場の興業師でもあったジュゼッペ・コレッタは、1792年度シーズンのための新しい悲劇的オペラ《エルヴィーラ *Elvira*》(パイジェッロ作曲) のために彼を起用し、その報酬は240 ドゥカートであった。

これは、パイジェッロが1785年シーズンにサン・カルロ劇場で発表した《オリンピーアデ》の報酬として支払われた給与600 ドゥカートと比較するならば、少ないが、喜劇オペラ用台本と比べると、少なくとも倍近い報酬額となっている

それはさらに、同1792年四旬節期間に同サン・カルロ劇場で上演されたオラトリオ《ソフロニアとオリンド *Sofronia e Olindo*》(アンドレオツツィ作曲) の作詞に対する、神学者でもあった文学者カルロ・セルニコラ Carlo Sernicola (1659-1721) への報酬は90 ドゥカートであったことを鑑みると、やはりカルツァビージの“国際的キャリア”に敬意が示されていると考えるのが適当であろう。なお、四旬節期間中のオラトリオの上演は、ナポリ王国と不仲であったローマ教皇国に対して、王権(世俗権)の優位を示す意図のもと1780年代末に始まった新しい慣習であり、その実証的研究はほぼ行われていない

最後に、パスクァーレ・ミリロッティ Pasquale Mililotti (生没年不詳) と、ジュゼッペ・ミリロッティ Giuseppe Mililotti (1720/30頃-1782, 活躍: 1776-1781) の活動について注目しておきたい。彼らはおそらく兄弟で、チェルローネやピッチンニとほぼ同世代であったと考えられる“ベテラン”作家である。パスクァーレの方は、1755年から1782年のおよそ30年近いキャリアの間に40作近い喜劇オペラを専らナポリで発表している人物であるが今回支払い文書を確認できたのは1783年度の“演出家”としての職務に対する報酬年俸60 ドゥカートのみである。一方、ジュゼッペの“自作”の喜劇はわずかに4作(《愛ゆえの過ち *I Sdegni per amore*》, 1776; 《抜け目ないお嬢さん *La Scaltra donzella*》, 1778; 《恋のもつれ *I Viluppi amorosi*》, 1778; 《才気あるフランス女 *La Francese di spirito*》, 1781) であるが、常に、演出家のような舞台をまとめる役割であったと考えられる“コンチェルタトーレ *Concertatore*”としてパスクァーレより高い年俸100 ドゥカートを受け取っていたことが明らかとなった。この100 ドゥカートは具体的には、1781年度に王立フォンド劇場で上演する4作のオペラの演出と台本手直しのためであり(史料 82, 85)、さらにその内訳として、1781年度第1オペラ《三人との新郎、あるいは誰のものでもない夫 *Lo Sposo de tre, e marito di nessuno*》(アンフォッシ&グリエルミ作曲) の台本加筆修正として15 ドゥカーティ(史料 79) を、第2オペラ《プリンディシの市場》(ジョルダ

ては、ヨーロッパ各地で上演される大ヒットであるため、ロングラン公演と考えられる。

ノ作曲)の台本2冊の複写で2.40 ドゥカートなど、細かい仕事を一手に引き受けた人物であったことが見えてくる。

主役としての作者のみに光が当たりがちであるが、実は、彼らのような台本職人こそが、ヨーロッパ各地に無数にある劇場における「劇場付詩人/台本作家」の実際の姿と考えられる。彼らの多くは、今現在その名すらほとんど残らず、場合によれば自作の台本であってもそこに名前が掲載されることもなく完全に忘れ去られているが、例えば、メタスタジオ劇が、毎回新鮮なものになるよう大幅カットや加筆によって工夫され、19世紀半ばまで延命できたのは⁴⁰、まさに彼らのおかげである。このようなあり方は、クリスチャン・ディオール(1905-1957)亡きあと、イブ・サンローラン(1936-2008)、ジャンフランコ・フェレ(1944-2007)、ジョン・ガリアーノ(1960-)、そしてラフ・シモンズ(1968-)といったチーフ・デザイナーがそのブランド全体のイメージを受け継ぎ刷新してゆき、さらにはそのタグの裏に隠れた「匿名の名職人」の存在こそが、ブランドのイメージを今に伝える肝になっていることと似ているように筆者には思われる。

そしてカルロ・セルニコラへの支払い文書(史料116)の次のような記述から、実際問題として彼らがいかに“有名人”であったとしても、世間離れした孤高の文学者などでは決してなかったことが示されよう：

「同王立劇場において私(コレッタ)の選択によって上演されるドラマ(オペラ・セリア)の(台本に)対して、作曲家からの要求されるであろう台本への付加、変更、新規追加について、同氏が変更、指揮を行うものに対する報酬である。」

つまり、台本を選択する権利はまず興行師にあり、その方針のもと、台本作家、作曲家に「注文」がなされ、台本作家はさらに作曲家からの要求に合わせて台詞、歌詞を変更、修正する義務を負った人物であり、最も他人の意見を聞かなくてはいけない立場にいたるのである。

筆者別稿で扱った公証人文書史料において明らかにした(山田,2016)、演目内容に踏み込んだ興行史間の取り決め事例とあわせて考えると、オペラ、演劇作品の内容、方向性は、これまで様々な角度から検討を行ってきたように、アーティストではなく興行師によって形作られたものであることが改めて示されることになる。

3-4 器楽奏者への報酬と、年次的キャリア

18世紀後半のナポリの民間劇場のオーケストラに関する先行研究には、1770年度のヌオーヴォ劇場(山田2005a)、1781年度のフォンド劇場(Yamada 2013)、1793年度のフィオレンティーニ劇場(山田2008; Yamada 2012)に関する筆者別稿のほか、スピーリト・サント銀行の換金記録を全点読んでいくという総合調査を試みたマイオーネのグループ研究(Di Dato 2004)において、王立サン・カルロ劇場(1775-1778年度オーケストラ団員の氏名、待遇の同定)、王立フォンド劇場(1785年度のオーケストラ、歌手、バレエダンサーの氏名、待遇の同定)、そしてナポリの貴族音楽アカデミア(1783-1785年度の専属オーケストラ、歌手、バレエダンサーの氏名、待遇)、王宮内王室礼拝堂楽団(氏名、おおよその待遇)がそれぞれ同定されている。

本章は、それら先行研究の中で、複数年度にわたっての支払い文書が確認された器楽奏者のうち、各パートをそれぞれ代表する人物を選び、彼らの待遇の変遷を時系列で明らかにするものである。表3の欄内には、各音楽家の各年度(一つの縦軸に複数劇場年度の記録を統合)時点でのそれぞれの役職、年俸、契約劇場を示し、ここより名もなき“職人”であった彼ら演奏家人生の歩みがおおよそ明らかとなる。

⁴⁰ 山田高誌「《オリンピーアデ》～規範、伝播とその変容」、『紀尾井ホール開館20周年記念バロック・オペラ ペルゴレージ 歌劇《オリンピーアデ》日本初演(2015/10/6, 10/8)』プログラム、紀尾井ホール、2015、72-79では、ペルゴレージ、ヨンメッリ、チマローザの3人の《オリンピーアデ》の版の違いを一覧として、時代の趣味がメタスタジオ劇にすら積極的に取り込まれていることを指摘している。

まず、民間劇場の一般的団員の場合の年俵は、40 ドゥカート前後が基準額となっていたようで、オーボエ奏者のジュゼッペ・ヅィート、レチタティーヴォ作曲家兼チェンバロ奏者であったジュゼッペ・ベネヴェントらは、数十年にわたって年俵は40 ドゥカートのままであった。一方、多くの楽士には、少ないながらも慎まじやかな昇給があったことが確認されるが、そのベースアップ率は年俵換算として良くても年1 ドゥカート、20年務めても概ね20 ドゥカートに満たないもので（ヴァイオリン奏者ピエツロ、アテーナ、ステンデル、デル・ジューディチェ、トランペット奏者ジョヴァンニ・バッティスタ・ダニエーレ）、文字通り“安(く)定(められた)”彼らの給与は、作曲家らアーティストとは比較にならない程の薄給に見える。ただし当時の一般的な庶民、給与所得者の年俵からすると標準的な額でもあり、作曲家や歌手こそが当時破格の収入を得ていたスターであったことが示される。このことは、音楽世界が特殊な才能を持った人物だけによって担われるのではなく、職能訓練によって育成される演奏職人の存在によって支えられていたことを示し、オーボエのジュゼッペ・ヅィート、ジョヴァンニ・ヅィート、トランペットのアントーニオ・シュルツ、ガエターノ・シュルツなどは活動期間、楽器から考えて、それぞれ親子関係でその地位が引き継がれたものと考えられることができる。

彼らの待遇を現在の価値に基づいて試算するためには、基準品（油価、金価、米・小麦粉）以外の要素も大きく難しいが油、小麦価格を基準とする経済史研究をもと筆者が試みたユーロとの換算（山田 2005a）をもとに、1 ドゥカートを約40 ユーロ（およそ5,000円程度）と仮定するならば、民間劇場平均年俵40 ドゥカートはおおよそ現在の価値で1,600 ユーロであり、それを民間劇場のおおよその年間公演日数100日で割ると、3時間の正味演奏時間に加えリハーサルを入れた日当は16 ユーロ（およそ2,000円程度）となる。また、王立サン・カルロ劇場の年間公演日数がおおよそ60日程度であったこと、そして同王立劇場のオーケストラ団員の平均的給与がおおよそ60 ドゥカートであったこと（DelDonna; Di Dato）から、同様の手順に基づいて試算すると、日当は1 ドゥカート（およそ5000円程度）となり、所属劇場間で経済的格差が存在していたことが明らかになる。

ここで器楽奏者たちの“出世頭”の一人であった、ヴァイオリン奏者ミケーレ・ナーシの事例を取り上げてみたい。彼は、イギリスの音楽学者チャールズ・バーニーが音楽調査のためナポリに滞在していた1770年秋、サン・ドメニコ教会で行われたコンサートで、彼の前に「際立って個性的な優美さと熟練さでもって、大変かわいらしい自作のトリオ・ソナタを」演奏した（1770年11月5日月曜日付）⁴¹人物である。バーニーは「フィオレンティーニ劇場のオーケストラを率い」と記しているが、1770年度の時点で彼はヌオーヴォ劇場のコンサート・マスターとして（この時期興行師ブランキが二つの劇場を同時経営していたことによる配置換えと考えられる：Yamada 2004）、他の奏者の倍近い年俵90 ドゥカートの報酬を得た上で、バーニーが立ち会ったような教会での午後のコンサートにも出演していたことになる。その後、1792年度（頃）には、年俵160 ドゥカートという“破格”の待遇で王立サン・カルロ劇場のコンサート・マスターへと転身、1781、1782年度にはサン・トノーフリオ音楽院ヴァイオリン科教員として別途月給4.50 ドゥカートを稼いでいた（Di Dato, 699）。つまり王立劇場に所属し、自作を発表しながら後進を育成することが、当時の彼ら器楽奏者としての成功のゴールであったことが分かるのである。

先に試算したように、王立劇場での好条件を求めて能力がある奏者は民間劇場から王立劇場への移籍を常に模索していたようである。もう一人の首席ヴァイオリン、カルロ・カマリーノは、ヌオーヴォ劇場首席を経てサン・カルロ劇場の第1ヴァイオリンや貴族アカデミーのオーケストラ（Di Dato, 688, 690, 692）、さらに1781年時点ではナポリで最も格式の高い王宮内王室礼拝堂楽にも団員として参加している（Di Dato, 710）。コントラバス奏者パスカレ・プンポもヌオーヴォの首席コントラバスを経た後に、王立サン・カルロ劇場、および同劇場に経営統合されたフィオレンティーニ劇場に登場し、またヴァイオリンのピエツロと首席チェロのサンタクローチェは、ヌオーヴォ劇場から王立フォンド劇場へと移籍していたことが確認される。このような音楽家の異動の背景には、経済的なもの以外に、現在も厳然と残る劇場間格差が彼らのキャリア形成において重要だ

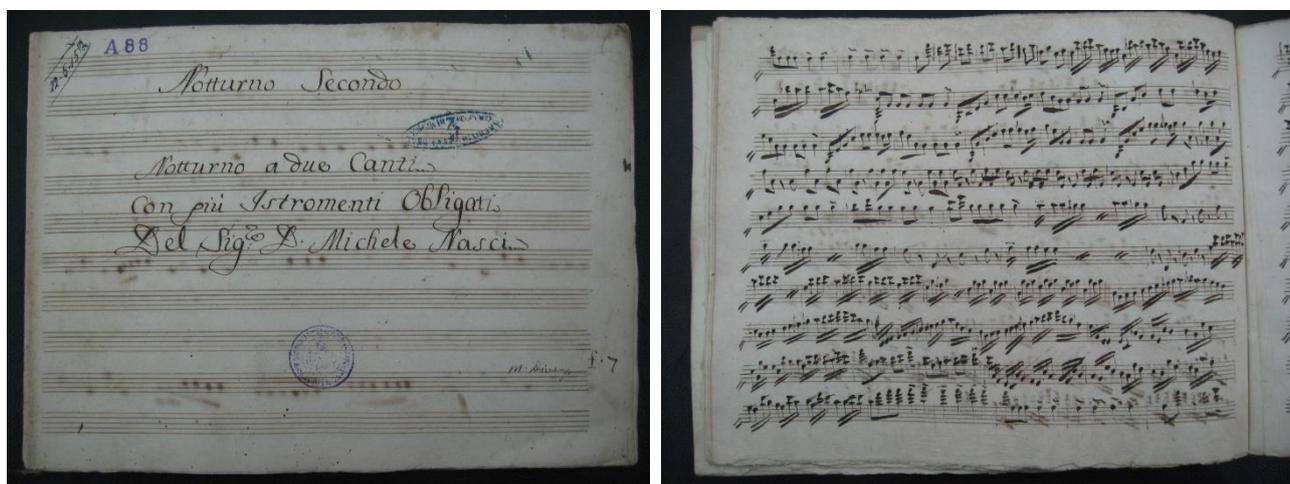
⁴¹ CHARLES BURNNEY, *The Present State of Music in France and Italy or The Journal of a Tour through those Countries, undertaken to collect materials for A General History of Music*, London, T. Becket and Co., 1771 (Facsimile Edition: London, Travis & Emery Music Bookshop), 345. [Signor Nasci, who leads the band at the comic opera in the theatre *de Fiorentini*, played on the violin in the Dominican's performance, and afterward in some of his own trios, which are extremely pretty, with a very uncommon degree of grace and facility.]

ったことを示すことになる。

そして、ナーシのようになぜ最初から最後まで“首席”であり続けたのか、また末席のプレーヤーがほぼ常に末席であったのか、その評価の拠り所には、天賦の才である演奏能力に加え、執筆（作曲）活動があったと考えられる。事実、ナーシはバーニーが述べたように自作の室内楽曲を、教職に就く以前から発表しており、ナポリ音楽院に現在残されている2曲の室内楽曲：《7部 —2 オーボエ, 2 トランペット, ソロ・ヴァイオリンとヴァイオリン2部, ヴィオラ, チェロ, コントラバス— のための6曲のコンチェルト》(1772年作曲: *I-Nc*, MS 6363-6372), 《2声のための第2ノットウルノ》(*I-Nc*, 2.5.15)には、彼が得意とした重音や早いパッセージが散りばめられ、“ヴィルトゥオーゾ”⁴²であったことを今に伝えている（以下楽譜1, 2）。

楽譜1 (右). ミケーレ・ナーシ作曲《2声のための第2ノットウルノ *Notturmo Secondo a Due Canti*》表紙 (*I-Nc*, 2.5.15 筆者撮影)

楽譜2 (左). ミケーレ・ナーシ作曲《7部のコンチェルト *Concerto a 7 parti*》第1番, ソロヴァイオリン・パートより (*I-Nc*, MS 6363, fog. 6v 筆者撮影)



4. まとめ

以上、ナポリ銀行の換金記録という史料を手掛かりに、18世紀後半にナポリで活躍した作曲家、台本作家、器楽奏者の労働の実態、そして彼らの様々なキャリア形成のありかたを具体的に明らかにすることができた。本文においては、史料から導き出される総体としての概略を示すに留まったが、以下史料編に掲載する133点の文書からは、各契約の詳細のみならず、本研究内容と直接関わりのなさそうな情報であったとしても、例えば、興行師の振出日の日付からは、各人の経済状態を推測する手掛かりが与えられ、公証人の記載からは、ナポリ公証人文書館（2017年にすべてナポリ公文書館へ移転）でのオリジナルの契約文書の発掘を実施する手掛かりが与えられるなど（史料3, 18, 95, 99, 101, 106, 107, 111, 132）、今後の研究の更なる展開にあたって重要な基礎史料となっている。これらのデータは、コッティチェッリ、マイオーネ、カポーネらの銀行史料に基づく先行研究ではすべて省かれ転写されておらず、注目されてこなかったが、筆者は既に別稿でその一部を示したように（Yamada 2014; 山田 2016）、契約書原本を探す唯一の手がかりとして重視しなくてはならない。

最後に繰り返すと、ここで明らかとなった賃金は、音楽と無関係な単なる数字の羅列では決してなく、当時の劇場を支えた聴衆の評価を代言するバロメーターであり、時代の精神を象徴的に示す記号なのである。

⁴² “徳高き人”という意味で、19世紀には音楽演奏の名手を指すようになるが、ルネサンス、バロック期においては、演奏家であるとともに音楽理論書や作品集の出版を通して理論と実践の両方をマスターしたことを示すことができた芸術家に専ら捧げられる敬称であった。

*本研究は、以下の研究費の補助を受けて断続的に実施してきた研究成果の一部である。ここに記すことで心よりの感謝を表したい。

1. 文部科学省科学研究費（特別研究員奨励費）「18世紀中期から後期にかけてのナポリの喜劇的オペラの変容」（2004-2006: 大阪大学）
2. 文部科学省科学研究費（特別研究員奨励費）「18世紀後半のナポリにおける喜劇オペラに関する総合的実証研究」（2006-2009: 東京芸術大学）
3. 文部科学省科学研究費（海外特別研究員奨励費）「18世紀末動乱期（1790-1810）のナポリにおける、喜劇オペラとその興行に関する実証研究」（2009-2010: イタリア国立ナポリ音楽院）
4. 文部科学省「頭脳循環を加速する若手研究者戦略的海外派遣プログラム」による在外研究補助（2010: 大阪大学）
5. 文部科学省科学研究費補助金（若手研究 B: 15K21243）「18後半から19世紀前半にかけてのナポリの民間劇場の担い手に関する実証研究」（2015-2017: 熊本大学）

表1. 作曲家への、1作のオペラ作曲に対する報酬の推移

*印, 下線を付して出典を表す (史料編史料, 文献略記参照)

劇場年度 作曲家 (生没/活躍年)	1769/70; 1770/71; 1771/72	1776/77	1780/81; 1781/82; 1782/83; 1783/84	1784/85; 1785/86	1792/93; 1793/94
ピッチニンニ, N PICCINI, NICOLÒ (1728-1800)	<u>D.150</u> *史料1 1769, NN 1 st CM: <i>Lo sposo perseguitato</i>				
インサングイネ INSANGUINE, GIACOMO (1728-1795)	<u>D.80</u> *史料6,7 1769, NN 2 nd CM: <i>La finta semplice</i>	—————	<u>D.230</u> *DelDonna.444 1782, NC 1 st DM: <i>Calipso</i>		
トリット TRITTO, GIACOMO (1733-1824)			<u>D.84</u> *史料87 1780, NFO 4 th CM: <i>Bellinda</i>		
パイジェッロ PAISIELLO, GIOVANNI (1740-1816)	<u>D.90</u> *史料4 1769, NF 2 nd CM: <i>Don Chisciotte della Manzia</i> <u>D.90</u> *史料8 1769, NN 3 rd CM: <i>L'Arabo cortese</i> <u>D.100</u> *史料16 1769, NF 4 th CM: <i>L'Osteria di Marechiaro</i> <u>D.110</u> *史料24 1770, NN 1 st CM: <i>La Zelmira</i> <u>D.110</u> *史料28 1770 NN 2 nd CM: <i>Le Trame per amore</i> <u>D.120</u> *史料47, 49, 53 1771, NN 1 st CM: <i>La Somiglianza de' nomi</i>	<u>D.180</u> *史料68, 69 1776, NN 1 st CM: <i>Dal finto il vero</i>	—————	<u>D.500</u> *DelDonna.445 1784, NC 4 th DM: <i>L'Antigono</i> <u>D.600</u> *Robinson.171 1785, NC 4 th DM: <i>L'Olimpiade</i>	
ガッツァニーガ GAZZANIGA, GIUSEPPE (1743-1818)			<u>D.200</u> (?) *史料77 1780, NFO 1 st CM: <i>La Viaggiatrice</i> <u>D.80</u> *史料76, 77 1780, NFO 3 rd CM: (Modify 手直し) <i>La Vendemmia</i> <u>D.200</u> *史料76, 77 1780, NFO 4 th CM: <i>Lo Stravagante</i> <u>D.200</u> *DelDonna.443 1781, NC 1 st DM: <i>L'Antigona</i>		

チマローザ CIMAROSA, DOMENICO (1749-1801)		<u>D.80</u> (以下合計) *史料 71 1775, NN 3 rd CM: (Modify 手直し) <i>Donna li tutti i caratteri</i> + 1775, NN 4 th FM: <i>I Matrimonii in ballo</i> + 1775, NN 4 th FM: <i>Li Sdegni per amore</i>	<u>D.340</u> *Rossi,89; DelDonna, 444 1782, NC 2 nd DM: <i>L'Eroee cinese</i> <u>D.360</u> *Rossi,94-95; DelDonna,444 1783, NC 2 nd DM: <i>L'Oreste</i> <u>D.330</u> *史料 93 1783, NF 3 rd CM: <i>Chi dell'artrui si veste si spoglia</i>	<u>D.330</u> *史料 93, 98 1784, NF 1 st CM: <i>L'Apparenza inganna</i>	<u>D.1.000</u> (以下合計) *史料 111 1793, NF 1 st DG: (Modify 手直し) <i>Il Matrimonio segreto</i> + 1793, NN 2 nd CM: <i>I Traci amanti</i>
ジョルダノー GIORDANO, GIUSEPPE (1751-1798)			<u>D.20</u> (?) *史料 84, 86 1781, NFO 1 st CM: (Modify 手直し) <i>Lo Sposo di tre e marito di nessuna</i> <u>D.160</u> *史料 86 1781, NFO 3 rd CM: <i>La Fiera di Brindisi</i> <u>D.160</u> *史料 84 1781, NFO 4 th FM: <i>Il Convito</i>		
アンドレオッツィ ANDREOZZI, GAETANO (1755-1826)					<u>D.150</u> *史料 117,121 NC, 1793 oratorio: <i>Olindo e Sofronia</i>
ピッチニンニ, L PICCINNI, LUIGI (ナポリでの活躍 1793)					<u>D.100</u> *史料 112, 120 NF, 1792 3 rd CM: <i>Le Trame in maschere</i>
ル・フェーヴル LE FEVRE, DOMENICO (ナポリでの活躍 1784-1794)					<u>D.1.500</u> *史料 128, 132, 133 NC, 1793 1 st - 4 th Ballet (4 オペラ中のすべてのバレエ)
ベネヴェント GIUSEPPE BENEVENTO (活躍 1766-1801, レチタティーヴォ作曲家, チェンバロ奏者 *表 3 参照)		<u>D.10</u> (?) *史料 71 1775, NN 4 th FM: Rec. per 2 FM: <i>Li Sdegni per amore</i> , + <i>I Matrimonii in ballo</i> ,		<u>D.10</u> *史料 103 1784, NF 1 st CM: “importo di tutti i recitativi” per <i>L'Apparenza inganna</i>	<u>D.10</u> *史料 129 1793, NF 2 nd CM: Rec per <i>I vecchi delusi</i>

表2. オペラ, 演劇台本作家に対する報酬一覧

*印, 下線を付して出典を表す (史料編史料, 文献略記参照)

劇場年度 台本作家 (生没/活躍年)	1769/70; 1770/71; 1771/72	1780/81; 1781/82; 1782/83; 1783/84	1784/85;	1792/93; 1793/94
カルツァビージ CALZABIGI, RANIERO DE (1714-1795)				<u>D.240</u> *史料 131 1793, NC 4 th Tragedia per musica: <i>L'Ehira</i>
ロレンツイ LORENZI, G. BATTISTA (1719-1799)			<u>D.150</u> *史料 96, 106 1784, NF 1 st CM: <i>L'Apparenza inganna</i>	
チェルローネ CERLONE, FANCESCO (1722-ca.1812)	<p><演劇用台本></p> <p><u>D.300</u> (演劇 4 作品総額) *史料 3</p> <p>1770, NN: 4 Commedie in prosa 確認された内訳 (3 作品) は以 下の通り:</p> <p><u>D.50</u> *史料 18 1770, NN 1st C in prosa: <i>L'Amore per destino</i></p> <p><u>D.50</u> *史料 28 1770, NN 2nd C in prosa: <i>La velleggiature alla moda o sia La creduta infedele</i></p> <p><u>D.85</u> *史料 48, 50 1770, NN 4th C in prosa: <i>Amurat Governatore d'Egitto</i></p> <p><オペラ用台本></p> <p><u>D.30</u> *史料 15 1769, NF 4th FM: <i>La Claudia vendicata</i> (Come il terzo atto nel <i>L'Osteria di Marechiaro</i>)</p> <p><u>D.110</u> *史料 17, 18, 23 1770, NN 1st CM: <i>La Zelmira</i>;</p> <p><u>D.100</u> *史料 29, 35, 36 1770, NN 2nd & 3rd CM: <i>Le Trame per amore</i></p> <p><u>D.100</u> (計) *史料 51 1770, NN 4th. (Modify 2 作の手直し) FM: <i>La Fiera</i> + FM: <i>La Claudia vendicata</i></p>			

<p>ミリロッティ, P. MILLOTTI, PASQUALE (生没年不詳, 活躍: 1755-1782)</p>		<p><u>D.60</u> (年俸) *史料99 1783, NF 1st-4thCM: “演出家 Concertatore” としての年俸として</p>		
<p>ミリロッティ, G. MILLOTTI, GIUSEPPE (ca.1720/30.-1782, 活躍: 1776-1781)</p>		<p><u>D.100</u> (年間合計) *史料 82, 85 1781, NFO 1st-4thCM: “演出家 Concertatore” としての年俸として 4 作品の演出, 台本 手 直 し “aver Concertato, aver accomodato 内訳の一部は以下: <u>D.15</u> *史料 78 1781, NFO 1st CM: (Modify 手直し) <i>Lo Sposo di tre e marito di nessuna</i> <u>D.2.40</u> *史料 79 1781, NFO 2nd CM: <i>La Fiera di Brindisi</i> 台本の複写2点に対し “due copie”</p>		
<p>ナポリ=シニョレッリ NAPOLI-SIGNORELLI, PIETRO (1731-1815)</p>			<p><u>D.150</u> *史料 101 1784, NF 2nd CM: <i>I Finti amori</i></p>	
<p>パロンバ, G. PALOMBA, GIUSEPPE (生没年不詳, 活躍: 1765-1825)</p>				<p><u>D.150</u> *史料 108 1793, NF 2nd CM: <i>I Traci amanti</i> *他関連史料 114, 123</p>
<p>ズイーニ ZINI, SAVERIO (生没年不詳, 活躍: 1772-1800)</p>		<p><u>D.90</u> *史料 73 NFO, 1st CM <i>La Viaggiatrice</i></p>		
<p>セルニコラ SERNICOLA, CARLO (生没年不詳, ナポリで の活躍: 1787-1795)</p>				<p><u>D.90</u> *史料 116, 122 1792, NC Oratorio <i>Olindo e Sofronia</i></p>
<p>ディオダーティ DIODATI, GIUSEPPE MARIA (生没年不詳, 活躍: 1786-1800 以降)</p>				<p><u>D.150</u> *史料 109, 1793, NF 3rd DG: <i>Le Nozze in garbuglio</i></p>

表 3. 器楽奏者に対する年俸とその推移, および役職との契約劇場の推移

*印, 下線を付して出典を表す (史料編史料, 文献略記参照)

劇場年度 器楽奏者 (役職)	1769/70; 1770/71; 1771/72	1775/76; 1776/77; 1778/79; 1779/80	1780/81; 1781/82; 1782/83; 1783/84	1784/85; 1785/86	1792/93; 1793/94
ナーシ MICHELE NASCI 首席ヴァイオリン	<u>D.90</u> *史料 38, 46, 54 1770, NN: “Primo Violino”	<u>D.100</u> *史料 89 1778, NN: “Primo Violino” <u>D.100</u> *史料 91, 92 1779, NN: “Primo Violino”	*Di Dato, 699 サン・トノーフリ オ音楽院ヴァイオ リン科教員として <u>月給 D.4.50</u> Professore del Violino al Conservatorio Sant’Onofrio (D.4.50 al mese)	—————	<u>D.160</u> *史料 119 1792, NC: “Primo Violino”
カマリーノ CARLO CAMARINO 首席ヴァイオリン	<u>D.90</u> *史料 5, 7, 11, 12 1769, NN: “Primo Violino”	—————	<u>D.122.50</u> *DelDonna.434 1781-86, NC: “Primo Violino” <u>(? annuo incerto)</u> *Di Dato, 710 1781, Real Cappella di Regio Palazzo (Violino) <u>D.50</u> *Di Dato, 688 1783 Accademia: “Primo Violino” ⁴³	<u>D.122.50</u> *DelDonna.434 1781-86, NC: “Primo Violino” <u>D.50</u> *Di Dato, 690 1784 Accademia: “Primo Violino” <u>D.63</u> *Di Dato, 692 1785 Accademia: “Primo Violino” <u>D.63</u> *Di Dato, 692 1785 Accademia “Primo Violino”	—————
ピエットロ ORONZO PIERRO ヴァイオリン	<u>D.30</u> *史料 58 1769, NF: “Violino” <u>D.31</u> *史料 55 1770 NN: “Violino”	<u>D.31</u> *史料 58 1775, NN: “Violino”	<u>D.38</u> *史料 80 1781, NN: “Violino”	<u>D.38</u> *Di Dato, 673 1785, NFO: “Violino”	—————
アテーナ GIOVANNI ATENA (ATENE) ヴァイオリン	<u>D.26</u> *史料 14 1769, NF: “Violino” <u>D.28</u> *史料 26, 37, 40 1770, NN: “Violino”	<u>D.28</u> *史料 60, 63 1775, NN: “Violino”	—————	—————	<u>D.44</u> *史料 124 1793, NF: “Violino”
ステンデル GASPARO STENDER ヴァイオリン		<u>D.26</u> *史料 56, 65 1775, NN: (Violino) <u>D.26</u> *史料 90 1778, NN: (Violino)	—————	—————	<u>D.34</u> *史料 115 1792, NF: “Violino” <u>D.34</u> *史料 126 1793, NF: “Violino”
デル・ジューディチェ, SAVERIO DEL GIUDICE 第2 ヴァイオリン (ヴィオラ?)	<u>D.26</u> *史料 22, 32, 39 1770 NN: “Seconda Violetta”/ “Violino”	<u>D.26</u> *史料 57, 61, 66 1775, NN: (Violino?)	<u>D.32</u> *史料 88 1780, NN: (Violino?)	—————	—————

⁴³ Di Dato (2001) が報告する, ナポリの貴族音楽アカデミア Nobile Accademia di Musica delle Signore Dame e de’ Signori Cavalieri 専属オーケストラ一覧表より. 以下 Accademia は同アカデミアを意味する.

サンタクローチェ NICOLA SANTACROCE 首席チェロ/ 首席ヴァイオリン	<u>D.65</u> *史料 19, 31, 42, 52 1770, NN: “Prima Violongella”	—————	<u>D.72?</u> (年俸 70~74?) *史料 74, 75, 81 1781, NFO: “Prima Violongella” (史料 74, 75) / “Primo Violino” (史料 81)	<u>D.78</u> *Di Dato, 673 1785, NFO: “Violoncello”	—————
ブンポ PASCALE PUMPO 首席コントラバス	<u>D.46</u> *史料 10 1769, NN “Primo Controbasso”	—————	<u>D.60</u> *DelDonna,434 1781-16, NC: “Controbasso”	<u>D.60</u> *DelDonna,434 1781-16, NC: “Controbasso”	<u>D.60</u> *史料 113 1292, NF: (Contrabasso)
ヅィート, ジュゼッペ GIUSEPPE ZITO 首席オーボエ	<u>D.40</u> *史料 2 1769, NF: (Primo Oboe) <u>D.40</u> *史料 21, 34, 43 1770, NN: “Primo Oboe”	<u>D.40</u> *史料 64, 67 1775, NN: (Primo Oboe)	<u>D.40</u> *史料 95 1783, NN: “Oboe”	—————	—————
ヅィート, ジョヴァンニ GIOVANNI ZITO オーボエ	—————	—————	—————	<u>D.46</u> *史料 95 1784, NF: “Oboe”	<u>D.60</u> *史料 118 1792, NF: “Oboe”
シュルツ, アントーニオ ANTONIO SCIULZ ホルン	<u>D.32</u> *史料 20, 33, 41, 45 1770, NN: “Seconda Tromba da Caccia”/ “Seconda Como da Caccia”	—————	—————	—————	—————
シュルツ, ガエターノ GAETANO SCIULZ ホルン	—————	—————	—————	—————	<u>D.60</u> *史料 20, 33, 41, 45 1792, NN: “Como da Caccia”
ダニエーレ GIOVANNI BATTISTA DANIELE トランペット	—————	—————	—————	<u>D.44</u> *史料 94 1783, NF: (Tromba) <u>D.44</u> *史料 105 1784, NF: “Primo Tromba”	<u>D.50</u> *史料 125 1793, NF: “Tromba”
ベネヴェント GIUSEPPE BENEVENTO 第2チェンバロ& レチタティーヴォ 作曲家 (表1参照)	<u>D.40</u> *史料 9 1769, NN: “Musico di Cappella”	—————	—————	<u>D.40</u> *史料 103, 104 1784, NF: “Cembralista”	<u>D.40</u> *史料 127, 130, 134 1793, NF: “Cembralista”

史料編

略記一覧

*	[星印] 筆者による注記/追記事項, または, 変則的事項を示す
“ ”	[二重コンマ] 欧文箇所において引用箇所を示す
[...]	省略箇所を示す
()	[一重括弧] 筆者による補足箇所. また, 読解が不確かな場合においては可能性のある綴りを示す.
《 》	[二重括弧] 作品名 (原題をイタリックで表記)
—	[傍線] 表中で用いる場合, 該当する史料がなく, 不明となっている箇所
<i>ASIBN</i>	Archivio Storico dell'Istituto Banco di Napoli ナポリ銀行歴史文書館
<i>ASN</i>	Archivio di Stato di Napoli 国立ナポリ公文書館
<i>BSG</i>	Banco San Giacomo e Vittoria サン・ジャコモ・エ・ヴィットーリア銀行
<i>BSS</i>	Banco di Spirito Santo スピリト・サント銀行
<i>cam.</i>	camevale 謝肉祭
<i>Cfr.</i>	Confronto 参照
<i>cit.</i>	citato/ cited 先に引用 (済)
<i>CM</i>	Commedia per musica コンメーディア・ペル・ムージカ (=喜劇オペラ)
<i>CP</i>	Commedia in prosa コンメーディア・イン・プローザ (=喜劇演劇)
<i>D.</i>	Ducato/Ducati ドゥカート (単) /ドゥカーティ (複) (ナポリ王国の貨幣単位: D.1 = 100グラーナ = 5タリ)
<i>DG</i>	Dramma giocoso per musica ドランマ・ジョコーソ・ペル・ムージカ (=“上質な”音楽付喜劇ドラマ)
<i>DM</i>	Dramma per musica ドランマ・ペル・ムージカ (=オペラ・セリア)
<i>FM</i>	Farsetta per musica / Farsa in musica ファルセッタ・ペル・ムージカ/ ファルサ・イン・ムージカ (=笑劇)
<i>G.</i>	Grana グラーナ (ナポリ王国の貨幣単位: 1 ドゥカートの100分の1)
<i>g.c.</i>	giornale copiapolizze 信託証書換金記録行内控
<i>I-Nc</i>	Biblioteca del Conservatorio di Musica di Naples “San Pietro a Majella” ナポリ音楽院“サン・ピエトロ・ア・マイエッラ” 附属図書館
<i>I-Nsp</i>	Biblioteca della Società Napoletana di Storia Patria ナポリ愛国史図書館
<i>NC</i>	Napoli, Real Teatro di San Carlo ナポリ, 王立サン・カルロ劇場
<i>NF</i>	Napoli, Teatro de' Fiorentini ナポリ, フィオレンティーニ劇場
<i>NFO</i>	Napoli, Real Teatro del Fondo della Separazione ナポリ, 王立フォンド劇場
<i>NN</i>	Napoli, Teatro Nuovo ナポリ, スオーヴォ劇場
<i>matr.</i>	matricola 史料登録番号
<i>ob.</i>	opera buffa オペラ・ブッフア
<i>Rec.</i>	recitativo (i) レチタティーヴォ
<i>T.</i>	Tali タリ (ナポリ王国の通貨単位: 20グラーナに相当.)
<i>Tab.</i>	Tabella 表
<i>Vc</i>	Violoncello チェロ
<i>VI</i>	Violino/ Violin ヴァイオリン
<i>Vla/ Vle</i>	Viola/ Viole ヴィオラ (単数, 複数)

書誌 略記

- Di Dato GIULIA DI DATO – TERESA MAUTONE – MARIA MELCHIONNE – CARMELINA PETRARCA – P. MAIONE, ‘Notizie dallo Spirito Santo: la vita musicale a Napoli nelle carte bancarie (1776-1785),’ in *Domenico Cimarosa, un ‘napoletano’ in Europa*, (Atti del Convegno Internazionale di Studi, Aversa, 25-27 ottobre 2001), eds. MARTA COLUMBRO – PAOLOGIOVANNI MAIONE, Lucca, Libreria Italiana Musicale, 2004, vol. 2, 665-1198.
- DelDonna ANTHONY DELDONNA, ‘Behind the Scenes: The Musical Life and Organizational Structure of the San Carlo Opera Orchestra in late-18th century Naples,’ in *Fonti d’archivio per la storia della musica e dello spettacolo a Napoli tra XVI e XVIII secolo*, PAOLOGIOVANNI MAIONE (ed.), Napoli, Editoriale Scientifica, 2001, 427-448.
- Melisi FRANCESCO MELISI (ed.), *Catalogo dei libretti d’opera in musica dei secoli XVII e XVIII*, Napoli, Conservatorio di Musica di Napoli, 1985.
- NewGrove *The New Grove Dictionary of Music and Musicians*, ed. STANLEY SADIE, Second edition, London, Macmillan Publishers Limited, 2001.
- Robinson MICHAEL F. ROBINSON, *Giovanni Paisiello, a Thematic Catalogue of his Works*, Stuyvesant, NY, Pendragon, 1991, vol.1 (Dramatic Works).
- Rossi NICK ROSSI - TALMAGE FAUNTILERoy, *Domenico Cimarosa, His Life and His Operas*, Westport, Connecticut-London, Greenwood Press, 1999.
- Sartori CLAUDIO SARTORI, *I libretti italiani a stampa dalle origini al 1800*, in 7 vols, Cuneo, Bertola & Locatelli Editori, 1990.
- Yamada 2004 TAKASHI YAMADA, ‘L’Attività e la strategia di Gennaro Bianchi, impresario dei teatri napoletani nella seconda metà del Settecento; Interpretazione del suo sistema di gestione dalle scritture dell’Archivio Storico dell’Istituto Banco di Napoli - Fondazione,’ Istituto Banco di Napoli-Fondazione «*Quaderni dell’Archivio Storico*», vol. 2004, 95-116.
- Yamada 2012 TAKASHI YAMADA, ‘La versione napoletana de *Il Matrimonio segreto* (Napoli, 1793): Una partitura ritrovata all’Università di Musica Kunitachi di Tokyo con annotazioni sulle condizioni di esecuzione attraverso i mandati di pagamento dell’Archivio Storico del Banco di Napoli,’ in *‘Da Napoli a Napoli’ Musica e musicologia senza confini*, ed. MAURO AMATO, CESARE CORSI, TIZIANA GRANDE, Lucca, Libreria Musicale Italiana, 2012, 131-162.
- Yamada 2013 TAKASHI YAMADA, ‘Giuseppe Giordani al Teatro del Fondo di Napoli nel 1781: i rapporti con l’impresario Aniello Riccardi,’ in FRANCESCO PAOLO RUSSO (ed.), *La figura e l’opera di Giuseppe Giordani* (Napoli 1751 - Fermo 1798): Atto di convegno su Giuseppe Giordani, Fano, Conservatorio di musica di Fano «G.B. Pergolesi» & Lucca, Libreria Musicale Italiana, 2013, 255-262.
- Yamada 2014 TAKASHI YAMADA, ‘La cantina dei costumi per le commedie napoletane del Ferdinando Maria Banci nel 1769,’ in *Fashioning Opera and Musical Theatre: Stage Costumes in Europe from the Late Renaissance to 1900*, (International conference: Venezia, Fondazione Giorgio Cini, 29 march-1 april, 2012), Venezia, Fondazione Giorgio Cini, 2014, 98-147.
- Yamada 2016 TAKASHI YAMADA, ‘Giuseppe Benevento: un maestro affidato a Cimarosa,’ Convegno Internazionale di Studi Commedia e Musica al Tramonto dell’Ancien Régime: Cimarosa, Paisiello, e i maestri “europei,” Avellino: Conservatorio di Avellino “Domenico Cimarosa,” 26/11/2016 (Forthcoming)
- 山田 2005a 山田高誌「1770年のナポリ・ヌオーヴォ劇場の興行形態；パイジェット作曲《恋のたくらみ》の上演から」, 《地中海学研究》28 (2005), 57-80.
- 山田 2005b 山田高誌「1770年から90年期に見られる, ナポリの民間劇場の“宮廷娯楽化”への道程 —ナポリ銀行歴史文書館 (ASIBN) 史料に基づくパースペクティブ—」, 《阪大音楽学報》3, 3-23.
- 山田 2008 山田高誌 編著 (松田聡, 森佳子) 『チマローザの世界：《秘密の結婚》の成立と上演のコンテクスト, パリ, ウィーン, そしてナポリ』, 日本イタリア古楽協会, 2008.
- 山田 2014 山田高誌「ナポリ音楽院附属図書館所蔵の18世紀後半のオペラ筆写譜群“マリア・カロリーナ王妃コレクション”の分類—コピスタの筆跡とその同定から—」, 《熊本大学教育学部紀要》63, 235-248.

山田 2016 山田高誌「公証人史料にみる、18世紀ナポリの民間劇場の利用条件—オペラ興行師と演劇興行師の劇場共同利用—」, 《熊本大学教育学部紀要》65 (2016), 171-193.

凡 例

本史料編は、ナポリ銀行歴史文書館財団 Archivio Storico dell'Istituto Banco di Napoli (ASIBN)、旧サン・ジャコモ銀行史料 Banco di San Giacomo (BSG) において筆者が発掘、および読解した、1769年から1793年にわたる興行史料群の一部を、本文表1～表3に対応するテーマに従い、時系列（銀行での換金日に従う）でまとめたものである。各史料の左端欄にはアラビア数字による通し番号を付けているが、その下に筆者が別途準備している「総合史料編」における史料番号（ローマ数字—アラビア数字）を併記し、将来の相互参照へと備えている。

これらは銀行内史料という性格上、様々な略記が用いられているが、史料転写にあたっては、前文書館館長 Eduardo Nappi 氏はじめ、館員諸氏の協力を得て、可能な限り（ ）を付けることなくすべて読み下し文とした。代表的な略記とその読み下しへの対応については、以下に示す通りとおりである。

■手続き等

(n.f. → notata fede 信託証書; comp.^{to} → compimento/ complimento (支払いを) 満了する; p.e → pagarete/ pagate/ pagherete 支払いを行う; mat.^{da} → maturanda (期限を) 満了する; res.ⁱ → restanti 残った; ric.ⁱ → ricevuti 受け取った; sodisf.^e → sodisfazione 履行; pag.^{to} → pagamento 支払い; stip.^o → stipulato 契約した; cont.ⁱ → contanti 現金; aff.^o → affitto 賃貸料; somm.^e → somministrate 供給した; m.^o → medesimo 同; int.^o/int.^a → intiero/intiera 全体の; vet.^o → venturo 翌; n. → numero 番号)

■暦

(7bre → settembre 9月; 8bre → ottobre 10月; 9bre → novembre 11月; Xbre → dicembre 12月; 2° → secondo 2番目の; p.p. → prossimo passato / passato prossimo 過ぎたばかりの) 等

■名前

(Ant.^o → Antonio アントーニオ; G.^{mo} → Giacomo ジャコモ; Vinc.^o → Vincenzo ヴィンチェンツォ; Franc. → Francesco フランチェスコ; Gio. → Giovanni ジョヴァンニ) 等

■固有名詞

(B.^o → Banco 銀行; Reg. Ud. G.^e → Regia Udienza Generale 王立中央裁判所 (法廷); Cong.ne → Congregazione 修道会, 信心会; S.M. → Sua Maestà 国王陛下) 等

■肩書

(D. → Don (敬称) 氏; D.r → Dottore (敬称) 学士; Sr. → Signor (敬称) 氏; Sr.^a → Signora (敬称) 婦人; Ill.^{re} → Irrustre (敬称) 有名な; M.^o → Maestro (敬称) マエストロ; Mag.^o → Magnifico (敬称) 偉大な; R.^o /R.^a = Regio/a 王立; M.^{se} → Marchese 侯爵; Nr. → Notar/Notaio 公証人; S.^{mo} → Scrivano 書記官; Consig.^{re} → Consigliere 取締役; Att.^o → Attuario 会計士/ 調達官) 等

なお、特殊な肩書きなどで、不明な点が残る場合には、補遺箇所を明らかにするために（ ）を付け、原文における省略記号を提示する。

また、正字法が未整備であったことから、いくつかの単語、固有名詞等については、史料ごと、また書き手ごとに一定しておらず、さらには、書き手の癖などにより、〈V/R/T〉、〈L/C〉、〈a/e〉、〈o/u/e〉など、読解、判別そのものが困難な場合も加わり、「正しい」読解そのものが困難となる場合がある。本史料編では、一次史料の尊重から、可能な限り文書に記されているオリジナルの「旧綴り」を採用した上で、他の史料との整合性が必要となる場合 (*sic*) としてそのオリジナル表記の異性を示し、さらに、標準表記、あるいは可能性のある文字を同（ ）内に併置し、最終判断を読者に任せることとした。

■正字法以前の綴り [旧綴り → 現代綴り]

(polisa/poliza → polizza 証券; sopradetto/sudetto → sopradetto/sudetto 上記; sodisfazione → soddisfazione 履行; impresario → impresario 興行師; gennaio → gennaio 1月; febraro → febbraio 2月; dicembre → dicembre 12月; col/ colla → con il/ con la; pel/ pella → per il/ per la) 等

■苗字の異綴 (Labanchi/Labanca/La Banca; Ferraro/Ferrari; Branco/Branchi, Pierro/Pierri, Beltani/Beltano; Mattej/Mattei; Caera/Cajera/Caira; Paisiello/Paisielli/Paesello/Paeselli) 等

■ナポリ語風表記 [ナポリ語風綴り/ 一般的綴り]

(Violongella/Violoncella; Angiuolo/Angelo; Binedetta/Benedetta; Pajesiello/Paisiello; Ciarlone/Carlone) 等

一方、ある種の名詞、また動詞の変化の際に付けられるアクセント付アルファベットについては、今日既に用いられていないケース、また反対に明らかに省かれていると考えられるケースが混合して見られるため、文脈を損なわない限りにおいて、それぞれ現代化を計り、表記を統一した。

■アクセント (動詞: hà/à (avere) → ha; stà (stare) → sta; fù (essere) → fu; 名詞他: cioe → cioè; qualita → qualità; cosi → così) 等

その他、大文字、小文字の扱いについて述べれば、作品題名、固有名詞、祝日名等の表記についても、やはり各史料それぞれ一定していないため、本史料編では、現代の用法に従い、適宜頭文字を大文字、小文字へと変更し、統一を図ったが、一方、通貨単位の頭文字については、その史料の内容を端的に示す箇所であることから、常に大文字での表記を採用することとした。なお、作品名、ラテン語部分については、改めてイタリック体で示す。

■小文字から大文字へ (impresario → Impresario 興行師; violino → Violino ヴァイオリン; grana → Grana 通貨単位グラーナ; carlino → Carlino 通貨単位カルリーノ) 等

また、文書中の金額、あるいは番号については、しばしば「文字」で記されているが、読解の際には基本的にすべてアラビア数字に置き換えた。

そして、ナポリの通貨の基本単位である「ドゥカート Ducato/i」、および「グラーナ Grana/e」については、それぞれ「D.」、「G.」と頭文字による省略表記を用いるが、一方、補助通貨となる「タリ Tari」(=20グラーナ)、「カルリーノ Carlino」(=10グラーナ)、および、ナポリ以外の通貨「スクード(ローマ)」、「ゼッキニー(フィレンツェ)」等については、省略せずに記したほか、特に補助通貨が併記された3桁表記(ドゥカート・タリ・グラーナの順)については、そのまま転写した。特に表記に際して、タリとグラーナを取り違える可能性のある数値の場合、それぞれD.3.0.4/D.3.4.0のように、あえて「0」を挿入して明記する。

一方で、抄訳、および、作表に際しては、上記の混乱を避けるため、すべて「ドゥカート」と「グラーナ」の2つの通貨単位に統一し、表記の簡素化を図った。

■アラビア数字への置き換え (ducati cinquanta, e grana 50 → D.50.50)

■補助通貨の表示 (ducati 10 tari 2, e grana 4 → D.10.2.4 [史料内表記]/D.10.44 [抄訳部分での表記])

そのほか、史料のしみ、欠損、あるいは悪筆等により適切な読解ができなかった箇所については、丸括弧に星印(***)を付け示し、単語中の一部が読解不明な場合にも、同様の処置を施した。

また、「detto/medesimo(前述/同)」という言葉のもと、名前、日付等の反復に際して言葉が省略される場合、またある「特殊記号」によって語句、省略文が認められる部分については、想定される語句、一文を丸括弧()を付け挿入したほか、また、綴りに明らかな異同が認められる場合、また現代に通用しない古語等には、それらの単語の後に丸括弧()をつけ、星印(*)とともに、一般的な綴り、および現代における単語を併記し、読者の理解、さらには検索への便宜を図ることとした。

<日本語訳について>

最後に、史料の日本語訳については、振出人、受取人、金額、そしてその支払い内容、目的が明確になるよう、本文中に省略されてあるものについても、判明する限り丸括弧（ ）の中に当該情報を盛り込み訳出を試みた。特に、「作品 opera/ 台本 libretto」などのような一般名詞で、作品名まで明記されていない場合、また反対に題名のみで作曲者名等が示されていない作品名については、可能な限りその同定を行い、丸括弧内にそれら情報を付記した。

なお、当時の劇場年度として用いられた「復活祭から翌年の謝肉祭最終日まで」という1営業年暦については、常に「年度」という言葉を用いることでその期間を指すこととする。

Le norme

Questa parte dei documenti raccoglie i pagamenti effettuati dagli impresari dei vari teatri napoletani del periodo 1770-1793, che il sottoscritto ha rilevato nel fondo del Banco di San Giacomo, conservato presso l'Archivio Storico dell'Istituto Banco di Napoli.

Ogni documento è generalmente basato sul “giornale copia polizze,” il documento interno al Banco che è stato copiato dal funzionario allo scopo di conservazione della transazione, la quale il destinatario incassa sotto forma di fede di credito o di polizza presso il cassiere.

Nei documenti si trovano varie abbreviazioni tecniche che sono state rivelate con l'aiuto di Direttore Eduardo Nappi ed altri colleghi dell'Archivio.

Gli esempi:

- modo di pagamento (n.f. → notata fede; comp.^{no} → complimento/ compimento; p.e → pagarete/ pagate/ pagherete; mat.^{da} → maturanda; res.ⁱ → restanti; ric.ⁱ → ricevuti; sodisf.^e → sodisfazione; pag.^o → pagamento; stip.^o → stipulato; cont.ⁱ → contanti; aff.^o → affitto; somm.^e → somministrare; m.o → medesimo; int.^o / int.^a → intiero/ intiera; vet.o → venturo; n. → numero).
- Calendario (7bre → settembre ; 8bre → ottobre ; 9bre → novembre; Xbre → dicembre; 2^o → secondo p.p. → prossimo passato / passato prossimo).
- Nome (Ant.^o → Antonio; G.^{mo} → Giacomo; Vinc.^o → Vincenzo; Franc. → Francesco; Gio. → Giovanni), ecc.
- Nome proprio (S. Carlo → San Carlo; B.^{co} → Banco; Reg. Ud. G.^e → Regia Udienza Generale; Cong.^{re} → Congregazione; S.M. → Sua Maestà).
- Titolo (D. → Don; Dr → Dottore; Sr. → Signor; Sr.a → Signora; Illre → Irrustre; M.^o → Maestro; Mag → Magnifico; R.^a / R.^o → Regio/ a; M.^{se} → Marchese; Nr. → Notar/ Notaio; S.^{no} → Scrivano; Consig.^{re} → Consigliere; Att.^o → Attuario).

Nonostante sia stato difficile riconoscere alcune lettere come V/R/T, L/C, a/e, o/u/e, a causa della mancanza di ortografia, e la scarsità di calligrafia. Nella trascrizione, sono stati riportati i nomi e le parole nel modo più fedele ai documenti, mettendo (*sic.*), nel caso vi sia un'incongruenza supposta.

Gli esempi:

- La vecchia traslitterazione (polisa/ poliza = polizza; sopraddetto/ sudetto = sopraddetto/ suddetto; sodisfazione = soddisfazione; impressario = impresario; gennaio = gennaio; febraro = febbraio; dicembre = dicembre 12月; col/ colla = con il/ con la; pel/ pella = per il/ per la).
- Varietà dei nomi (Labanchi/ Labanca/ La Banca; Ferraro/ Ferrari; Branco/ Branchi, Pierro/ Pierri, Beltani// Beltano; Mattej/ Mattei; Caera/ Cajera/ Caira).
- parola “locale” (Violongella/ Violoncella; Angiuolo/ Angelo; Binedetta/ Benedetta; Pajesiello/ Paisiello; Ciarlone/ Cerlone).

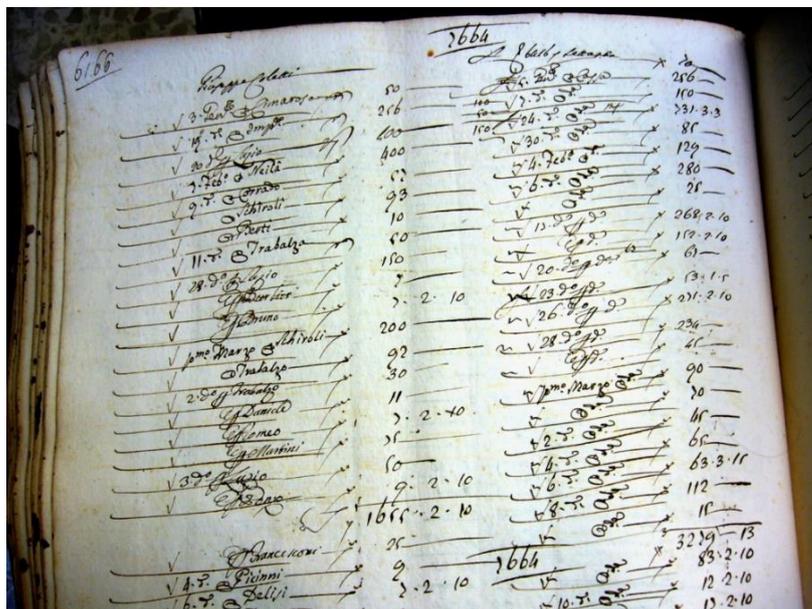
L'accento anche spesso provoca confusione, quindi ho attuato una regolarizzazione secondo l'uso moderno.

図版2(左). 基本台帳 *Libro Maggiore* 装丁例 (ASIBN, BSG : 1752 年下半期, 2分冊のうちの第1巻)

図版3(右). 基本台帳 記載例 (ASIBN, BSG, *Libro Maggiore*, 1784 I, matr.568, fog.6166)

「顧客名簿」に記されている「口座番号」とは、「基本台帳」の頁上隅に記された「紙番号 foglio」におおむね該当する。

これら頁には、まず左欄にこの口座からの出金暦が時系列で記され、右欄には同時系列で口座への入金暦が記されている。その詳細について付記すると、左欄の日付は、口座の持ち主が振り出した「信託証書」の信託日ではなく、それが受取人によって換金され、銀行に信託証書が戻ってきた時点での日付であり、ここには、受取人の苗字、そして金額が併記されており、いつ誰へ支払いが行われたか具体的に知ることができる。一方右欄は、口座持ち主による銀行への入金記録が記されているが、「支払い先」として列挙されるこれら名前は、入金手続きを行った銀行窓口係員の苗字であり（苗字が略記されていることからそれは明らかである）、資金の出所や払い込みの理由など詳細は分からない。



従って本調査では、左欄換金日とその受取人苗字に注目し、その上で、当該日の「営業日誌（信託証書換金記録行内控）」、あるいは換金に際して銀行に戻ってきたオリジナルの「信託証書」の調査へと進む。

[右図左欄 1~4 行目にかけて、以下のような読解が可能となる]

- * 3 gennaio Cimarosa D.50
- * 19 detto (gennaio) Imp(arato) D.256 ← (略記された苗字からは、その受取人が銀行担当者であったことが示される。従って、実際受取人は、口座所有者自身であり、
- * 20 detto (gennaio) Di Luzio D.100 自身の口座からの出金であったことが示される。)
- * 7 febbraio Neila D.400

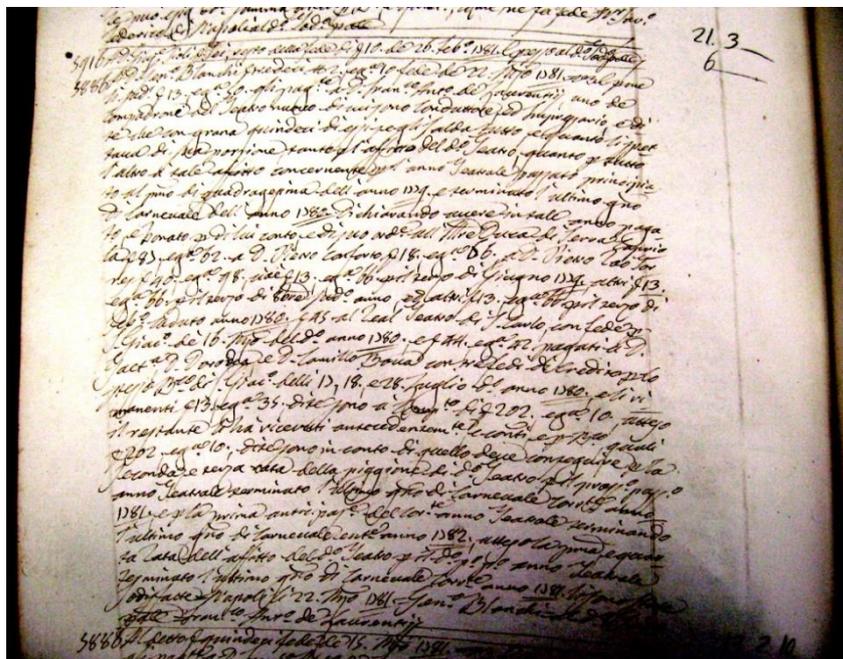
図版4(左). 信託証書換金日録行内控 *Giornale copiapolizze* 装丁例 (ASIBN, BSG, g.c., matr. 2329)

図版5(右). 信託証書換金日録行内控 記載例 (ASIBN, BSG, g.c., matr. 2204, 29/ III/ 1781, p.472)

16世紀からおおむね18世紀末まで、ナポリの多くの銀行では換金後の信託証書の記載内容について、営業日ごとにまとめ、行内保存用日録作成のためすべて転写を行っている。この冊子を信託証書換金日録行内控（以下、行内控）と呼び、複数の営業日の記録をあわせておおむね1,000ページほどになったところで革装丁が行われる（図版4）。その所収順はおおむねランダムに見えるが、決して連続する営業日の記録が同じ冊子に入ることはない。例えば図版4の行内控には、1781年1月21日、同2月16日、同3月8日、同3月28日、同4月18日、同5月12日、同6月7日、同6月30日、同7月26日、以上、ほぼ半年以上の期間中の9日間の換金記録が収められている。

さらに行内控の同一営業日の記載順序に注目すると、それらがおおむね反時系列となっていることに気が付かされる。つまり、各営業日の最後に手続きを行った客の記録から逆順で転写が行われているのだが、それは当時、窓口での換金が終わると、役目を終えた信託証書は再度換金が行われないよう、必ず中央に針が通されて営業日ごとの束にされ、吊るして保管される慣習となっており（図版8）、行内控の作成にあたっては、その束の上部（つまり時系列的に最後の信託証書）から転写が行われていくからである。もちろん複数の筆写師が同時にこれら転写作業を行うため、おおむねの目安でしかないが、隣り合う換金者の順序に注目すると、交友関係を明らかにすることも可能となる。例えば、劇場で雇用されている人間は、休憩時間が重なるためか職域ごとに換金に来ていることがしばしば分かるが、それらケースを複数確認する中で、ソリストと一般楽団員/ 群舞担当のダンサーは決して一緒に換金には来ていないことが示される。

16世紀の行内控は側面上部に銀行のロゴが入るよう美しく彩色され、非常に丁寧な筆跡で作成されているが、世紀を経るに従い銀行取扱量が増大すると、もはや装飾されることもなく、筆跡も走り書きのようなものになっていく。実際1790年代には、1日の換金記録だけで同サイズの日誌全頁を埋めるケースがしばしば見出され、業務の飛躍的な増大があったことが分かる。その結果、最終的に控えを作成する人員や予算が不十分となり、サン・ジャコモ銀行の場合では、1794年以降この形式での行内控の作成を中止した。これ以降の年代で取引詳細を調査するためには、換金日ごとに束になっているオリジナルの信託証書の包みを請求し、一枚一枚調査する必要がある（図版6）。



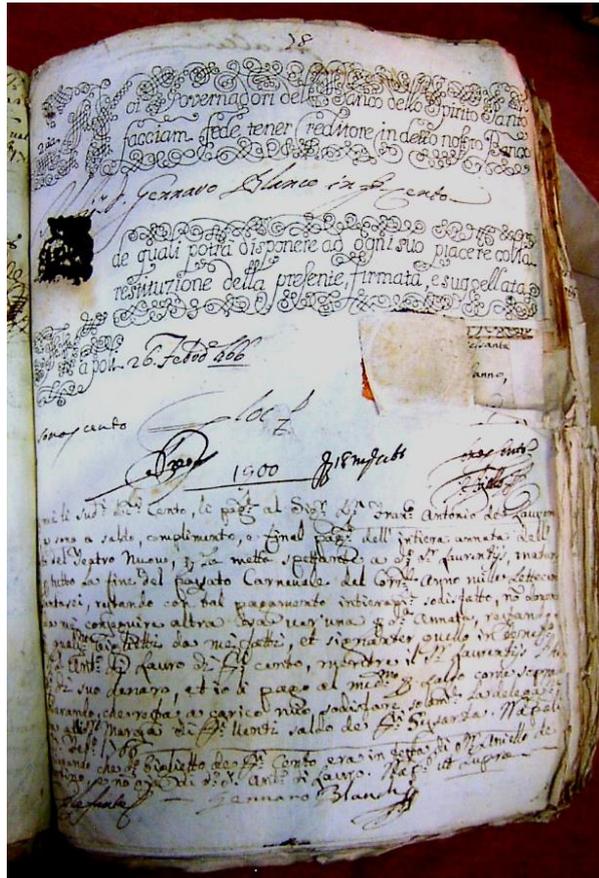
なお上記図版5は、1781年上半期「口座番号fog.5886」として取引を行っていた興行師ジェンナーロ・ブランキによる記録であり、内容はヌオーヴォ劇場所有者、フランチェスコ・アントーニオ・デ・ラウレンティイスへの支払いの詳細が書かれている。ここには劇場賃貸料支払いにあたって、その支払い方法、さらには「後援者」の名前とそれら各人の負担金と支払日がそれぞれ明記され、単なる支払い書を超越劇場収益報告書として読むことができる。

図版6(左). 信託証書 *fede di credito* 例1

(ASIBN, BSS, 1766年2月26日付信託証書. 興行師ブランキよりヌオーヴォ劇場オーナー, デ・ラウレンティイスに対して.)

図版7(右). 信託証書 例2 (AISBN, BSG: 1663年3月8日から13日までの換金記録の束, およびその中身)

先述したケース「信託証書換金日録行内控」が作成されていない時期(スピーリト・サント銀行の多く, また1794年以降のサン・ジャコモ銀行の場合)のもの, またそれら史料が判読不可能の場合, 換金に用いられた信託証書の原本を遡及調査する必要がある. これら史料は, 18世紀当時, 証書の中心に穴があけられ紐で吊るされていたが(図版8), 今では換金日ごとに束ねられ(図版6, 9, 10), 或いはまとめて製本され(図版7)ている.



図版8(上左). 昔の銀行保管室の再現コーナーにおける換金済信託証券の束(写真内は職員のアントニオ氏)

図版9(上中). 文書保管庫内部 例1 (写真内はEduardo Nappi エドゥアルド・ナッピ館長)

図版10(上右). 文書保管庫内部 例2 (換金日ごとに束ねられている換金済み信託証券の束)

図版11(下). 文書保管庫内部 例3



史料 DOCUMENTI

銀行名,	換金日	
営業日録行内控	(日月年)	
登録番号, 頁	DATA	
史料番号	BANCO,	DELL'-
Num.	MATRICOLA E	INCASSA-
	PAGINA DEL	ZIONE
	GIORNALE	
	COPIAPOLIZZE	

史料記載事項, および筆者による試訳

TRASCRIZIONE DEL DOCUMENTO CON TRADUZIONE IN GIAPPONESE

1769ヌオーヴォ劇場, およびフィオレンティーニ劇場 関連史料
興行師ジェンナーロ・ブランキによる支払い文書[1769年1月—7月期換金記録: 基本台帳 foglio 3876, 7017; および,
1769年8月—12月期換金記録: 基本台帳 foglio 4779, 7017 に基づく]**TEATRO NUOVO SOPRA TOLEDO E TEATRO DE' FIORENTINI****I pagamenti effettuati dall'Impresario GENNARO BLANCHI**[I pagamenti incassati dal gennaio al luglio 1769 riportati sul Libro Maggiore I, foglio 3876, 7017;
I pagamenti dall'agosto al dicembre 1769 riportati sul Libro Maggiore II foglio 4779, 6401]

1	BSG	1763	13-V-	A Gennaro Bianchi, D.60 fede 28 aprile prossimo passato. E per esso a Nicola Piccinni, e dissi sono per complimento di D.150 atteso l'altri D.90 l'ha ricevuti antecedentemente in diverse volte, e tutti di D.150 sono per la celebre musica da esso Nicola fatta nel Teatro Nuovo per l'opera che attualmente si sta rappresentando intitolata <i>Lo sposo perseguitato</i> restando sodisfatto per detta causa. E per esso al detto Todisco.
(I-27)		p.171	1769	(サン・ジャコモ銀行は) ジェンナーロ・ブランキ氏に対してD.60の信託。1769年4月28日付。これは、ニコラ・ピッチニ氏に対する(支払いを行う)ものであり、計D.150の支払いを満了するものである。残額D.90については、事前に数回に分けて支払われているものであり、上記総額D.150は、ニコラ氏によって、現在(信託時の1769年4月28日)ヌオーヴォ劇場で上演中の《迫害された新郎 <i>Lo sposo perseguitato</i> 》と名付けられたオペラに作曲された有名な音楽(作曲)のためである。トディスコ(換金担当者)。
2	BSG	1778	28-IX-	A Gennaro Bianchi, D10 fede 25 settembre corrente (1769). E per esso a Don Giuseppe Zito dite sono per la prima rata dell'opera intitolata <i>La Serva fatta padrona</i> rappresenta nel Teatro de Fiorentini e con tal pagamento resta intieramente sodisfatto per detta rata senza dover altro conseguire ne per questa ne per altra causa, e così pagarete.
(I-52)		p.616	1769	(サン・ジャコモ銀行は) ジェンナーロ・ブランキ氏に対してD.10の信託。(1769年)9月25日付。これは、ジュゼッペ・ツイート氏への支払いとするもので、これはフィオレンティーニ劇場で上演された(1769年度第1オペラ、パイジェット作曲)《奥様になった女中 <i>La Serva fatta padrona</i> 》と題されたオペラへの出演料として(1769年度年俸)第1期報酬とするものである。以上この支払をもって、同期(報酬)について完全に支払い満了し、一切の支払いは残らないものとする。
3	BSG	1778	28-IX-	A Gennaro Bianchi, D.100 fede 12 corrente (settembre 1769). E per esso a Don Francesco Cerlone e sono per tanti che mediante la persona di Don Francesco Catalano suo Procuratore Generale si obbligo pagarli in anticipazione, ed in conto delli D.300, convenuti pagarseli per le sue virtuose fatighe de 4 libretti d'opera in prosa dovrà egli componere per doverli rappresentare nel Teatro Nuovo sopra Toledo nel 1770, atteso l'altri D.200 se li dovranno da esso pagare seconda rata
(I-53)		p.671	1769	

convenuta il resome, questo ed altro appare da pubblico jstromento stipurato li 10 settembre corrente, e dall'albarano precedente sottoscritto tanto da esso Cerloni quanto da Don Francesco in detto nome per medesimo di Notar Lorenzo Jutarelli Notar di detto Teatro al quale (si riferisce), et a tutti li patti, in esso contenuti in tutto, e per tutto s'abbia relazione però detto pagamento lo facessimo notato prima dora(*=adesso) nella margine di detto istromento stipurato per detto Jutarelli a fede del quale ne stassimo. E per detto Notar si fa fede che il sudetto pagamento si è da esso notato nella margine de sudetto enunciato istromento per mano sua rogato detto di 20 corrente, da tutto in conformita della detta girata al detto Todisco.

(サン・ジャコモ銀行は) ジェンナーロ・ブランキ氏に対してD.100の信託。1769年10月12日付。これは、フランチェスコ・チェルローネ氏に対する(支払)であり、同氏の庇護者であるフランチェスコ・カタラーノ氏を介して、事前に彼に払うことが義務付けられたものである。これは、同(チェルローネ)氏が1770年度シーズンにトレド通上ヌオーヴォ劇場において彼が上演させなければならない4作品の演劇用台本の執筆という、彼の職人的労務に対して取り決めた(年俸)D.300のうちの一部金とするものである。残るD.200については、同(1769)年9月10日に結ばれた契約に基づき、(年俸)第2期支払いとして同(ブランキ)氏より支払われることとなっている。なお、本契約は、先述の私(ブランキ)と、同チェルローネ氏、およびフランチェスコ(カタラーノ)氏が同劇場付公証人ロレンツォ・ジュタレッリの立会いのもと取り交わした契約書を参照のこと。契約条項のすべて、およびここに行う支払いについてすべてのことは、同(公証人)ジュタレッリによって作成された公証文書の追記にすべて記されている。同公証人(ジュタレッリ)は、ここに、同上支払いが、同人(ジュタレッリ)によって同年同月20日に起草された公証文書の追記条項において言及されていることを証明する。以上の手形譲渡はすべて一致し、トディスコ(換金担当者)に渡され(処理され)る。

4 (I-56)	BSG	1771 p.378	3-X- 1769	A Gennaro Bianchi, D.20 fede 3 corrente. E per esso a Don Giovanni Pescicello(sic.*=Paisiello) Maestro di Cappella, e detti sono a compimento di D.77 atteso gli mancanti D.57 li ha ricevuti in contanti a più volte e tutti sono a conto delli D.90 che da esso seli devono per la composizione della musica dell'opera da attualmente si sta rappresentando nel Teatrino de Fiorentini intitolato Don Chisciotta(sic.) della Manciancia e con tal pagamento altro non resta a conseguire se non soli D.13 e così pagarete.
-------------	-----	---------------	--------------	---

(サン・ジャコモ銀行はヌオーヴォ劇場兼フィオレンティーニ劇場興行師) ジェンナーロ・ブランキ氏に対してD.20の信託。(1769年10月)3日付。これは楽長ジョヴァンニ・パイジェッロ氏への(支払いを行う)ものであり、計D.77の支払いを満了するものである。残額D.57について、同氏は複数回にわたって現金で受領しており、これら総額D.90は、同氏が現在(1769年10月3日時点)フィオレンティーニ劇場で上演されている(1769年度第2オペラ)《ラ・マンチャの男ドン・キホーテ*Don Chisciotte della Manciancia*》と題されたオペラに対する音楽の作曲に対する報酬の一部金であり、この支払をもって、残るD.13以外に一切の支払いは残らないものとする。

5 (I-58)	BSG	1779, foglio 160v	14-X- 1769	A Don Gennaro Bianchi, D.20 fede 17 settembre. E per esso a Don Carlo Camarino Primo Violino del Teatro Nuovo a compimento di D.22.50 atteso gl'altri Carlini 25 l'ha ricevuti per un palco di seconda fila, e tutti detti D.22.50 sono per la prima rata del opera intitolata <i>Li Sposi perseguitati</i> che attualmente si sta rappresentando in detto Teatro Nuovo come di tutte l'altre de passati anni sino li 12 ottobre corrente e così pagarete.
-------------	-----	-------------------------	---------------	--

(サン・ジャコモ銀行は) ジェンナーロ・ブランキ氏に対してD.20の信託。(1769年9月)17日付。これはヌオーヴォ劇場第1ヴァイオリン奏者カルロ・カマリノー氏への(支払いとする)もので、D.22.50の支払いを満了するものである。残る25カルリーノ(=D.2G.50)については、同氏は劇場2階パルコ席(チケット代)として(相殺されることで)既に受領しており、上記総額D.22.50については、過年度から本年10月12日までの条件同様、現在同ヌオーヴォ劇場にて上演中の《迫害された新郎たち*Li sposi perseguitati*》(ピッチンニ作曲)と題された(1769年度第1)オペラへの(出演料と

して)、つまり(1769)年度第1期報酬となるものである。

6 (I-64) BSG 1774 25-X-1769 A Don Gennaro Bianchi, D.30 fede 12 corrente (ottobre 1769). E per esso a Don Giacomo Insanguine, Maestro di Cappella Napolitano, e sono in conto della Musica, che sta componendo per lo Teatro Nuovo, che dovranno andare in scena, non rimanendo altro a conseguire per saldo, e compimento del suo onorario, che altri D.50.

(サン・ジャコモ銀行は) ジェンナーロ・ブランキ氏に対してD.30の信託。1769年10月1日付。これは、ナポリ人の楽長、ジャコモ・インサングイネ氏に対する(支払いを行う)ものであり、ヌオーヴォ劇場での上演のために、現在同(インサングイネ)氏が作曲中の音楽(1769年度第2オペラ《見てくれの馬鹿娘、或いは騙された先生*La Finta semplice o il Tutore burlato*》)への報酬の一部金である。彼への報酬の満了として、他にD.50の支払いを行う以外に一切の支払いは残らないものとする。

1770

興行師ジェンナーロ・ブランキによる支払い文書

[1770年1月—7月期換金記録: 基本台帳 foglio 4932, 6483, 6875, 7593;

1770年8月—12月期換金記録: 基本台帳 foglio 4936, 6517, 7933 に基づく]

I pagamenti effettuati dall'Impresario GENNARO BLANCHI

[I pagamenti incassati dal gennaio al luglio 1770 riportati sul Libro Maggiore I: foglio 4932, 6483, 6875, 7593; I pagamenti dall'agosto al dicembre 1770 riportati sul Libro Maggiore II: foglio 4936, 6517, 7933]

7 (II-2) BSG 1785 3-I-1770 A Don Gennaro Bianchi, D.22.2.10 notata a 27 dicembre prossimo passato E per esso a Carlo Camarino e sono per la seconda rata dell'opera intitolata *La Finta semplice* che attualmente si sta rappresentando nel Teatro Nuovo, per aver il medesimo sonato in detto Teatro in qualità di Primo Violino. E con tal pagamento resta soddisfatto, così per la prima, come per detta seconda rata. E per esso Boffa.

(サン・ジャコモ銀行は) ジェンナーロ・ブランキ氏に対してD.22.2.10の信託。(1769年)12月27日付。これはカルロ・カマリーノ氏への(支払いとする)もので、現在ヌオーヴォ劇場で上演中の《見てくれの馬鹿娘*La Finta semplice*》(ジャコモ・インサングイネ作曲)と題されたオペラにおいて、同氏が首席ヴァイオリン奏者として演奏を行ったことに対する報酬支払であり、(1769)年度年俸第2期支払とするものである。この支払によって、第1期支払い同様、本第2期の支払いについても履行された。ボッファ(換金担当者)。

8 (II-11) BSG 1793 16-I-1770 A Don Gennaro Bianchi, D.20 fede de 9 corrente (gennaio 1770). E per esso a Don Giovanni Paisiello a compimento di D.69 atteso li mancanti D.49 li ha ricevuto di contanti, anticipatamente e tutti sono a conto delli D.90 per la composizione della musica fatta nella terza opera del Teatro Nuovo, intitolata *L'Arabo cortese*, non restando altro a conseguire, che soli D.21, restando soddisfatto di tutto il passato, e così pagarete. E per esso Lettieri per altri tanti.

(サン・ジャコモ銀行は) ジェンナーロ・ブランキ氏に対してD.20の信託。(1770年1月)9日付。これはジョヴァンニ・パイジエッロ氏への(支払いを行う)ものであり、計D.69の支払いを満了するものである。残額D.49は、事前に現金で支払われており、上記総額D.90は、《寛大なアラブ人*L'Arabo cortese*》と題されたヌオーヴォ劇場の(1770年度)第3オペラに対しての音楽の作曲に対する報酬である。残るD.21の支払い以外、過去のものについても同様、一切の支払いは残らないものとする。レッティエーリ(換金担当者)。

9 (II-15) BSG 1785 24-I-1770 A Don Gennaro Bianchi, D.6.4.0, notata a 22 dicembre 1769. E per esso a Giuseppe Benevento, e sono a compimento di D.10, atteso l'altri l'ha ricevuti anticipatamente in contanti. E tutti detti D.10 sono per la seconda rata dell'opera intitolata *La Finta semplice*, che attualmente si sta rappresentando nel Real(!) Teatro Nuovo per aver il medesimo sonato nel detto Teatro in qualità di

Musoco(sic.) di Cappella. E con tal pagamento resta sodisfatto, così per la prima, come per la detta seconda rata. E per esso.

(サン・ジャコモ銀行は) ジェンナーロ・ブランキ氏に対してD.6.4.0 (=D.6.80) の信託。1769年12月22日付。これはジュゼッペ・ベネヴェント氏への(支払い)となり、D.10の支払いを満了するものである。残額について、同氏はすでに前金として現金で受領している。上記総額D.10は、現在(信託時1769年12月22日)、王立!ヌオーヴォ劇場で上演中の《見てくれの馬鹿娘*La Finta semplice*》(ジャコモ・インサングイネ作曲)と題されたオペラにおいて、同氏が楽長(Musico di Cappella)として演奏に携わったことに対する報酬であり、これをもって(1769)年度年俸第2期支払いとするものである。この支払をもって、第1期支払い同様、同第2期支払いについてもすべて支払いは履行されたものとする。

10 (II-26)	BSG	1781 p.288	20-II- 1770	<p>A Gennaro Bianchi, D.11.2.10 notata fede a 12 febraro corrente (febbario 1770). E per esso a Don Pascale Pumpo Primo Controbasso del Teatro Nuovo, e sono per la terza rata dell'opera intitolata <i>L'Arabo cortese</i>. E con tal pagamento intieramete sodisfatto di tutto il passato. Al detto Todisco per altri tanti.</p> <p>(サン・ジャコモ銀行は) ジェンナーロ・ブランキ氏に対してD.11.50の信託。(1770年2月)12日付。これはヌオーヴォ劇場コントラバス奏者、パスカレ・ブンボ氏に対する支払いであり、《寛大なアラブ人<i>L'Arabo cortese</i>》(パイジェッロ作曲)と題された(1769年度第3)オペラへの(演奏)に対する報酬となる、(年俸第3期)支払を行うものである。以上の支払いをもって、過去(の支払)同様、支払いは完全に満了されたものとする。トディスコ(換金担当者)</p>
11 (II-34)	BSG	1785 p.392	3-III- 1770	<p>Al detto (Blanchi) D.22. 2.10 notata a 9 febraro 1770. E per esso a Carlo Camarino(sic.), e sono per la terza rata del opera intitolata <i>L'Arabo cortese</i> E con tal pagamento resta intieramente sodisfatto di tutto il passato. E così pagarete.</p> <p>(サン・ジャコモ銀行は) ジェンナーロ・ブランキ氏に対してD.22.50の信託。1770年2月9日付。これは(ヌオーヴォ劇場首席ヴァイオリン奏者)カルロ・カマリーノ氏に対する支払いであり、《寛大なアラブ人<i>L'Arabo cortese</i>》(パイジェッロ作曲)と題された(1769年度第3)オペラへの(演奏)に対する)報酬である(年俸)第3期支払を行うものである。以上の支払いをもって、過去(の支払)についても完全に満了されたものとする。</p>
12 (II-45)	BSG	1781 p.398	15-III- 1770	<p>A Don Gennaro Bianchi, D.22.2.10, notata fede a 9 corrente (marzo 1770). E per esso a Carlo Camarino, disse sono per la quara ed ultima rata dell'opera intitolata <i>La Cafettiera di garbo</i>, rappresentata nel Teatro Nuovo, per avere il medesimo sonato in detto Teatro, in qualità di Primo Violino, e con tal pagamento restando Camarino intieramente saldato e sodisfatto. e così di detta quarta e ultima rata, come delle altre tre rate passate senza avere altro da esso conseguire, ne per questo, ne per altra causa. E per esso.</p> <p>(サン・ジャコモ銀行は) ジェンナーロ・ブランキ氏に対してD.22.50の信託。(1770年3月)9日付。これは(ヌオーヴォ劇場首席ヴァイオリン奏者)カルロ・カマリーノ氏に対する支払いであり、ヌオーヴォ劇場上演された《おしゃれなカフェの女給<i>La Cafettiera di garbo</i>》(パスクァーレ・タランティーニ作曲)と題された(1769年度第4)オペラにおいて、同氏が同劇場で首席ヴァイオリンとして(演奏したことに対する報酬)の支払いである、以上の支払いをもって、カマリーノ氏に対する支払いは完全に満了し、この(年俸)最終となる第4期支払いについても、他の過去の(年俸)3回の支払い同様、何ら残るものはないものとする。</p>
13 (II-48)	BSG	1784 p.633	22-III- 1770	<p>A Gennaro Bianchi, D.7.2.10 notata 2 corrente. E per esso ad Oronzo Pierro, dite sono per la quarta ed ultima rata dell'opera intitolata <i>L'Osteria di Marechiaro</i> per aver il medesimo sonato da violino nel Teatro Fiorentini, e con tal pagamento per esso intieramente saldato, e sodisfatto di tutte l'annate senza dover'altro da esso conseguire.</p> <p>(サン・ジャコモ銀行は) ジェンナーロ・ブランキ氏に対してD.7.50の信託。(1770年3月)10日付。これはオロンツォ・ピエッロ氏に対する支払いであり、フィオレンティーニ劇場において上</p>

				<p>演された《マレキアーロの旅籠<i>L'Osteria di Marechiaro</i>》(パイジェット作曲)と題されたオペラにおいて、同氏が前述の劇場においてヴァイオリン奏者として演奏したことに對する(年俸)第4期にして最終支払いを行うものである。以上の支払いをもって、アテーナ氏に對する支払いは完全に満了され、何ら残るものはないものとする。</p>
14 (II-51)	BSG	1786 p.661	26-III- 1770	<p>Al detto (Blanchi), D.6.2.10 notata fede a 6 marzo corrente. e per esso a Giovanni Atena, disse sono per la quarta ed ultima rata dell'opera intitolata <i>L'Osteria di Marechiaro</i> rappresenta nel Teatro di Fiorentini dove il medesimo sonato in detto Teatro in qualità di Violino e con tal pagamento resta detto Atena intieramente saldato e sodisfatto senza dover altro da esso conseguire.</p> <p>(サン・ジャコモ銀行は) 同(ブランキ)氏に對してD.6.50の信託。(1770年)3月6日付。これはジョヴァンニ・アテーナ氏に對して、フィオレンティーニ劇場において上演された《マレキアーロの旅籠<i>L'Osteria di Marechiaro</i>》(パイジェット作曲)と題されたオペラにおいて、同氏が同劇場においてヴァイオリン奏者として演奏したことに對する報酬として、(年俸)第4期にして最終支払いを行うものである。以上の支払いをもって、アテーナ氏に對する支払いは完全に満了され、何ら残るものはないものとする。</p>
15 (II-67)	BSG	1793 p.657	5-IV- 1770	<p>A Don Gennaro Blanchi, D.30, fede de 17 febrero 1770. E per esso a Don Francesco Ciarlone, e disse sono per avere il medesimo composto il terzo atto nell'opera Intitolata <i>L'Osteria di Marechiaro</i>, e con tal pagamento resta il detto Don Francesco Ciarlone intieramente sodisfatto, senza che per detta causa, possa il medesimo altro pretendere e così pagarete.</p> <p>(サン・ジャコモ銀行は) ジェンナーロ・ブランキ氏に對してD.30の信託。1770年2月17日付。これはフランチェスコ・チェルローネ氏への(支払いを行う)ものであり、これは同氏が《マレキアーロの旅籠<i>L'Osteria di Marechiaro</i>》(パイジェット作曲)と題された(1769年度第4)オペラの中の第3幕の(台本)作詞を行ったことに對する(報酬)である。この支払をもって同フランチェスコ・チェルローネ氏に對する支払いは十分に履行され、この他に一切の支払いはないものとする。</p>
16 (II-71)	BSG	1784 p.778	9-IV- 1770	<p>A Gennaro Blanchi, D.15 fede 31 marzo prossimo passato. E per esso a Don Giovanni Paisiello, e per esso a Don Gaetano Mosca delegatili dal detto Paisiello, e disse sono a compimento di D.100 atteso li restanti D.85 l'ha ricevuti parte con fede di credito e parte in contanti e tutti detti D.100 sono per saldo e final pagamento della quarta ed ultima rata dell'opera fatta nel Teatro de Fiorentini intitolata <i>L'Osteria di Marechiaro</i> dove esso a con detto pagamento resta il sudetto Paisiello sodisfatto. Così per quest'opera come per ogn'altra causa come anche resta sodisfatto il sudetto Gaetano Mosca del sudetto Don Giovanni Paisiello della sudtta summa di D.15. E così pagarete.</p> <p>(サン・ジャコモ銀行は) ジェンナーロ・ブランキ氏に對してD.15の信託。(1770年3月)31日付。これは、ジョヴァンニ・パイジェット氏への(支払いを行う)ものであり、同パイジェット氏より委託されたガエターノ・モスカ氏に對する(支払いを行う)ものである。ここに計D.100の支払いを満了し、残額D.85については、すでに同(パイジェット)氏は一部を信託証書、および現金にて受領済である。上記総額D.100は、フィオレンティーニ劇場で上演された《マレキアーロの旅籠<i>L'Osteria di Marechiaro</i>》と題されるオペラに對する4回払いの最終支払いであり、この支払をもって同パイジェット氏に對する支払いは履行された。このオペラでの件同様、同ジョヴァンニ・パイジェット氏より委託された同ガエターノ・モスカ氏も同様、本支払いD.15によってすべての支払いが履行された。</p>
17 (II-89)	BSG	1794 p.812	26-IV- 1770	<p>A Don Gennaro Blanchi, D.30 fede 3 detto (aprile 1770). E per esso a Don Francesco Ciarlone(<i>sic.</i>) disse sono a conto della prima opera che il medesimo sta componendo in musica, che si dovrà rappresentare in questa primavera del corrente anno 1770 nel Teatro Nuovo e così (pagarete). Per esso al detto Boffa per altri tanti.</p> <p>(サン・ジャコモ銀行は) ジェンナーロ・ブランキ氏に對してD.15の信託。(1770年4月)3日付。フランチェスコ・チャルローネ(チェルローネ)氏に對する支払いを行うものであり、これは、同氏が現在音楽付けを行っており、同1770年度春にヌオーヴォ劇場で上演しなければならない第1オペ</p>

ラ（パイジェット作曲《ラ・ゼルミーラ*La Zelmira*》）に対する（作詞）に対する報酬支払いの一部金とするものである。ポッフア（換金担当者）。

18 (II-110)	BSG	1792 p.872	8-VI- 1770	<p>A Gennaro Bianchi, D.15 fede 2 corrente (giugno 1770). E per esso a Don Francesco Cerloni(<i>sic.</i>), dite sono cioè D.5 a compimento di D.50 atteso li restanti D.45 l'ha ricevuti parte con fede di credito del nostro Banco, e parte contanti e tutti detti D.50 sono per saldo e final pagamento della prima composizione dell'opera prosa fatta del detto Cerloni nel Teatro Nuovo che attualmente si sta rappresentando intitolata <i>L'Amore per destino</i> atteso il di più per detta composizione l'ha ricevuto anticipatamente e proprio otto giorni dopo la stipula dell'Istromento rogato per mano di Notar Lorenzo Tufarelli al quale (si riferisce). Li restanti D.10 sono a compimento di D.40, atteso li mancanti D.30 li ha ricevuti con altra fede di Credito in detto nostro Banco, e tutti detti D.110 sono a conto dell'opera musica che attualmente si sta rappresentando nel detto Teatro Nuovo intitolata <i>La Zelmira</i> della per quale esso Cerloni si ha fatta la composizione e così (pagarete). E per esso.</p> <p>(サン・ジャコモ銀行は) ジェンナーロ・ブランキ氏に対してD.15の信託 (1770年6月) 2日付. これはフランチェスコ・チャルローネ (チェルローネ) 氏に対しての (支払いを行う) ものであり, うちD.5については, 同氏が既に当行発行の信託証書, および現金にて既に受領しているD.45とあわせてD.50の支払いを満了するものである. 上記総額D.50は, 現在ヌオーヴォ劇場で上演中の《運命の愛<i>L'Amore per destino</i>》と題された (1770年度) 第1演劇作品の, 同チェルローネ氏による台本執筆に対する報酬の最終支払いを満了するものであり, この作品についての報酬残額は, 公証人ロレンツォ・トゥファレリ氏の手により結ばれた契約から8日後に, 同氏は前金として受領している. そして残るD.10については, 既に当行発行の信託証書にて受領しているD.30とあわせてD.40を満了するものであり, 以上総額となるD.110は, 同ヌオーヴォ劇場において現在上演中で, 《ゼルミーラ<i>La Zelmira</i>》 (パイジェット作曲) と題されたオペラに対して同チェルローネ氏が台本執筆を行ったことに対する報酬の一部金である.</p>
19 (II-117)	BSG	1789 p.823	22-VI- 1770	<p>A Gennaro Bianchi, D.16.1.5 notata fede 20 giugno corrente (1770). E per esso a Don Nicola Santacroce dite per la prima rata dell'opera intitolata <i>La Zelmira</i>, che attualmente si sta rappresentando nel Teatro Nuovo aver il medesimo sonato in qualità di Primo Violongella restando con detto pagamento saldato, e sodisfatto per detta prima rata. Con filma di Nicola Santacroce.</p> <p>(サン・ジャコモ銀行は) ジェンナーロ・ブランキ氏に対してD.16.25の信託 (1770年) 6月20日付. これはニコラ・サンタクロッチェ氏への (支払いを行う) ものであり, これは同氏が, ヌオーヴォ劇場で現在上演中の《ゼルミーラ<i>La Zelmira</i>》 (パイジェット作曲) と題されたオペラにおいて, 首席チェロ奏者として演奏したことに対する (年俸) 第1期支払いを行うものである. この支払をもって (年俸) 第1期払いが満了されたものとする. ニコラ・サンタクロッチェの署名.</p>
20 (II-124)	BSG	1796 p.589	23-VI- 1770	<p>A Gennaro Bianchi, D.8 notata fede a 20 giugno corrente (1770). E per esso a Don Antonio Sciuiz, e sono pe la prima rata dell'opera intitolata <i>La Zelmira</i>, che si sta rappresentando nel Tearo Nuovo, per aver il medesimo sonato in qualità di Seconda Tromba di Cacacia. E con tal pagamento resta sodisfatto per detta prima rata. E per esso Boffa.</p> <p>(サン・ジャコモ銀行は) ジェンナーロ・ブランキ氏に対してD.8の信託 (1770年) 6月20日付. これはアントーニオ・シュルツ氏への (支払いを行う) ものであり, これは同氏が, ヌオーヴォ劇場で現在上演中の《ゼルミーラ<i>La Zelmira</i>》 (パイジェット作曲) と題されたオペラにおいて, 第2ホルン奏者として演奏したことに対する (年俸) 第1期支払いを行うものである. この支払をもって (年俸) 第1期払いが満了されたものとする. ポッフア (換金担当者) .</p>
21 (II-131)	BSG	1789 p.942	9-VII- 1770	<p>A Gennaro Bianchi, D.10 notata fede a 20 giugno 1770. E per esso a Giuseppe Zito dite sono per la prima rata dell'opera intitolata <i>La Zelmira</i> che attualmente si sta rappresentando nel Teatro Nuovo per aver il medesimo Sonato in qualità di Primo Oboe. E con tal pagamento resta sodisfatto per detta prima rata.</p>

				<p>(サン・ジャコモ銀行は) ジェンナーロ・ブランキ氏に対してD.10の信託。1770年6月20日付。これはジュゼッペ・ツイート氏への(支払いを行う)ものであり、これは同氏が、ヌオーヴォ劇場で現在上演中の《ゼルミーラ<i>La Zelmira</i>》(パイジェット作曲)と題されたオペラにおいて、首席オーボエ奏者として演奏したことに対する(年俸)第1期支払いを行うものである。この支払をもって(年俸)第1期払いは満了されたものとする。</p>
22 (II-136)	BSG	1789 p.955	9-VII- 1770	<p>Al detto (Blanchi), D.6.2.10 notata fede 20 giugno 1770. E per essi a Saverio del Giudice, sono per la prima rata dell'opera intitolata <i>La Zelmira</i>, che attualmente si sta rappresentando nel Teatro Nuovo per aver il medesimo sonato <i>ut supra</i>.</p> <p>(サン・ジャコモ銀行は) ジェンナーロ・ブランキ氏に対してD.6.50の信託。1770年6月20日付。これはサヴェーリオ・デル・ジューディチェ氏に対し、ヌオーヴォ劇場で現在上演中の《ゼルミーラ<i>La Zelmira</i>》(パイジェット作曲)と題されたオペラにおいて、同氏が(ヴィオラ奏者として: 史料32)演奏したことに対する(年俸)第一期支払いを行うものである。以下、同文。</p>
23 (II-137)	BSG	1790 foglio58 9v	10-VII- 1770	<p>A Don Gennaro Bianchi, D.24 fede de 26 giugno passato prossimo. E per esso a Francesco Ciarlone(sic.) a compimento di D.30 atteso li mancanti fede D.6 l'ha ricevuti contanti. E tutti detti D.30 sono a compimento di D.70, atteso l'altri D.40 l'ha ricevuti con due altre fede di credito di nostro. E tutti detti D.70 sono a conto del libro della musica, che attualmente si sta rappresentando nel Teatro Nuovo, intitolata <i>La Zelmira</i>, e così (pagarete).</p> <p>(サン・ジャコモ銀行は) ジェンナーロ・ブランキ氏に対してD.24の信託。(1770年)6月26日付。これはフランチェスコ・チャルローネ(チェルローネ)氏に対しての(支払いを行う)ものであり、計D.30の支払いを満了するものである。残額D.6について、同氏は現金で受領済みである。上記総額D.30は、D.70の支払いを満了するものとなり、残るD.40について同氏は当行発行の他の2通の信託証書で既に受領済みである。以上総額D.70は、(1770年6月26日)現在ヌオーヴォ劇場で上演中の《ゼルミーラ<i>La Zelmira</i>》と題されたオペラ台本に対する報酬の一部金である。</p>
24 (II-142)	BSG	1781 p.1129	11-VII- 1770	<p>A Gennaro Bianchi, D.10 fede 10 corrente. E per esso a Giovanni Paisiello, a compimento di D.99 atteso li mancanti, D.89 l'ha ricevuto in più volte, e tutti sono a conto della Composizione della Musica dell'opera che attualmente si sta rappresentando nel Teatro Nuovo intitolata <i>La Zemira</i>(sic.) non resta a conseguire che soli D.11 per detta composizione di D.110. E per esso.</p> <p>(サン・ジャコモ銀行は) ジェンナーロ・ブランキ氏に対してD.10の信託。(1770年7月)10日付。これはジョヴァンニ・パイジェット氏への(支払いを行う)ものであり、計D.99の支払いを満了するものである。残額D.89について、同氏は複数回に分けて既に受領済である。これら(総額D.99)は、現在(信託時1770年7月10日)ヌオーヴォ劇場で上演中の(1770年度第1オペラ)《ゼルミーラ<i>La Zemira</i>》と題されたオペラに対する報酬総額D.110の一部金であり、他にD.11以外一切の支払いはないものとする。</p>
25 (II-147)	BSG	1790 foglio 614v- 615f	27-VII- 1770	<p>A Don Gennaro Bianchi, D.20 fede de 21 corrente. E per esso a Don Giovanni Pajesiello e disse sono cioè D.11 a compimento di D.110 atteso l'altri D.92 l'ha ricevuti parte in cont(ant)i, e parte con altre fede di credito, e tutti il medesimo D.110 sono a saldo, e final pagamento per la musica fatta nell'opera intitolata <i>La Zelmira</i>, che attualmente si sta facendo nel Teatro Nuovo, e li restanti D.9 sono a conto della musica della seconda opera, che nel detto Teatro Nuovo dovrà rappresentare, e così pagarete. Per al detto Boffa.</p> <p>(サン・ジャコモ銀行は) ジェンナーロ・ブランキ氏に対してD.20の信託。1770年7月21日付。これはジョヴァンニ・パイジェットに対する(支払いを行う)ものであり、うちD.11は、D.110の支払いを満了するものである。その残額D.92については、同氏は現金、および信託証書で支払われており、この総額D.110は、ヌオーヴォ劇場で現在(信託時点1770年7月21日)上演中の(1770年度第1)オペラ《ゼルミーラ<i>La Zelmira</i>》の音楽に対しての最終支払いとなるものである。また一方のD.9については、同ヌオーヴォ劇場で上演しなくてはならない(1770年度)第2オペラ(《愛のたくらみ<i>Le Trame per amore</i>》)の音楽に対する支払いの一部金である。ポッフア(換金担当者)。</p>

26 (II-150)	BSG	1802 pp.49- 50	11-VIII- 1770	<p>Al Don Gennaro Bianchi, D.7, fede 20 giugno 1770. E per esso a Giovanni Atena e sono per la prima rata dell'opera intitolata <i>La Zelmira</i> che a si sta rappresentando nel Teatro Nuovo per aver il medesimo sonato in qualità di Violino e con tal pagamento resta sodisfatto per detta prima rata.</p> <p>(サン・ジャコモ銀行は) ジェンナーロ・ブランキ氏に対してD.7の信託。1770年6月20日付。これはジョヴァンニ・アテーナ氏に対し、ヌオーヴォ劇場で現在上演中の《ゼルミーラ<i>La Zelmira</i>》(パイジェット作曲)と題されたオペラにおいて、同氏がヴァイオリン奏者として演奏したことに対する(年俸)第一期支払いを行うものであり、この支払をもって(年俸)第1期払いが満了されたものとする。</p>
27 (II-151)	BSG	1806 pp.88- 89	21-VIII- 1770	<p>A Don Gennaro Bianchi, D.20 fede 16 giugno 1770, E per esso a Don Giovanni Paisiello(sic.) a compimento di D.69 atteso li mancanti D.49 l'ha ricevuti contanti, e tutti sono per conto della musica del medesimo composita in questa prima opera nel Teatro Nuovo intitolata <i>La Zelmira</i>, e con detto pagamento non resta altro a conseguire, che soli D.41, e così pagarete.</p> <p>(サン・ジャコモ銀行は) ジェンナーロ・ブランキ氏に対してD.20の信託。1770年6月16日付。これはジョヴァンニ・パイジェット氏への(支払いを行う)ものであり、計D.69の支払いを満了するものである。残るD.49について同氏は現金で受領済である。上記総額(D.69)は、ヌオーヴォ劇場の第1オペラ《ゼルミーラ<i>La Zelmira</i>》に、同氏が作曲した音楽に対する(報酬)への一部金となるもので、この支払によって、残金D.41以外に一切の支払いはないものとする。</p>
28 (II-158)	BSG	1803 p.350	3-X- 1770	<p>A Don Gennaro Bianchi, D.10, fede 13 settembre passato prossimo. E per esso ad Francesco Ciarlone a compimento di D.23, atteso li restanti D.13 l'ha ricevuti de contanti e tutti D.23 sono a conto dell'opera in prosa fatta nel Teatro Nuovo intitolata <i>La Velleggiare(sic.) alla moda o sia La Creduta infedele</i>, non restando altro a conseguire per detta comedia in prosa, che soli D.27 e così pagherete.</p> <p>ジェンナーロ・ブランキ氏に対してD.10の信託(1770年)9月16日付。これはフランチェスコ・チャルローネ(=チェルローネ)氏への(支払いを行う)ものであり、計D.23の支払いを満了するものである。残るD.13について同氏は現金で受領済であり、上記総額D.23は、ヌオーヴォ劇場において(1770年度第2演劇として)上演された喜劇演劇《おしやれな避暑、あるいは不実と信じられた女<i>La Velleggiare(sic.) alla moda o sia La Creduta infedele</i>》(台本執筆に対する報酬)の一部金である。この支払によって、同喜劇演劇作品に対しての支払いはD.27以外にないものとする。</p>
29 (II-162)	BSG	1812 p.335	9-X- 1770	<p>Al detto (Bianchi), D.16.1.10. fede 3 ottobre 1770. E per esso a Don Giovanni Paisiello a compimento di D.49, atteso li manca D.32.70 l'ha ricevuto di contanti anticipatamente e tutti di D.49 sono a conto della musica che ha composto nella second'opera intitolata <i>Le Trame per amore</i>, e così pagarete.</p> <p>(サン・ジャコモ銀行は) 同(ジェンナーロ・ブランキ)氏に対してD.16.30の信託。1770年10月3日付。これは、ジョヴァンニ・パイジェット氏への(支払いを行う)ものであり、計D.49の支払いを満了するものである。残額D.32.70については、同氏は既に前払い金として現金で受け取っており、上記総額D.49は、《愛のたくらみ<i>Le Trame per amore</i>》として名付けられた(ヌオーヴォ劇場)第2オペラに対して彼が作曲した音楽への報酬の一部金である。</p>
30 (II-166)	BSG	1809 p.204	16-X- 1770	<p>A Don Gennaro Bianchi, D.14 notata fede 11 ottobre. E per esso a Don Francesco Ciarlone a compimento di D.15 atteso li mancanti l'ha ricevuti contanti e tutti detti D.15 sono a conto della composizione dell'opera in musica, che sta facendo nel Teatro Nuovo, intitolata <i>Le Trame per amare</i>, e così pagarete. Al detto Todisco per altri tanti.</p> <p>(サン・ジャコモ銀行は) ジェンナーロ・ブランキ氏に対してD.14の信託。(1770年)10月11日付。これはフランチェスコ・チャルローネ(チェルローネ)氏に対しての(支払を行う)ものであり、D.15の支払いを満了するものとなる。残額(D.1)は、同氏は既に現金で受け取っており、上記総額D.15は、《愛のたくらみ<i>Le Trame per amare</i>》と題された(ヌオーヴォ劇場1770年度第2オペラ)への作詞に対する報酬の一部金である。トディスコ(換金担当者)。</p>

31 (II-176)	BSG	1807 p.202	20-XI- 1770	<p>A Don Gennaro Bianchi, D.18.1.5 fede 15 novembre 1770. E per esso a Don Nicola Santacroce e dite sono cioè D.16.25. per la seconda rata e proprio di opera intitolata <i>Le Trame per amore</i> che attualmente si sta rappresentando nel Teatro Nuovo di cui esso n'è Impresario, quale sudetto Santacroce sona da Prima Violicella e li restanti D.2 sono in conto di questo deve conseguire per il passato anno 1770. E per esso a Nicola Milone.</p> <p>(サン・ジャコモ銀行は) ジェンナーロ・ブランキ氏に対して D.18.50 の信託。1770 年 11 月 15 日付。これはニコラ・サンタクロチェ氏への（支払いを行う）ものであり、うち、D.16.50 については、同氏が、私（ブランキ）が興行師を務めるヌオーヴォ劇場で現在上演中の《愛のたくらみ <i>Le Trame per amore</i>》（パイジェット作曲）と題されたオペラにおいて、首席チェロ奏者として演奏したことに対する（年俸）第 2 期支払いを行うものであり、残る D.2 については、過去 1770 年において同氏が受け取るべき残額である。ニコラ・ミローネ（換金担当者）。</p>
32 (II-184)	BSG	1802 p.533	29-XI- 1770	<p>Al detto.(Bianchi), D.6.2.10, notata fede 26 novembre 1770. E per esso a Don Saverio di Giudice Seconda Violetta di Teatro Nuovo, e sono per la seconda rata dell'opera intitolata <i>Le Trame per amore</i>, e con tal pagamento resta intieramente sodisfatto di tutto il passato. Con firma di detto Don Saverio di Giudice.</p> <p>(サン・ジャコモ銀行は) ジェンナーロ・ブランキ氏に対して D.18.50 の信託。1770 年 11 月 26 日付。これはヌオーヴォ劇場第 2 ヴィオラ奏者のサヴェーリオ・デイ・ジューディチェ氏への（支払いを行う）ものであり、これは《愛のたくらみ <i>Le Trame per amore</i>》（パイジェット作曲）と題されたオペラにおいて（同氏が演奏したことに対する年俸）第 2 期支払いである。サヴェーリオ・デイ・ジューディチェ署名。</p>
33 (II-186)	BSG	1803 p.699	1-XII- 1770	<p>A Don Gennaro Bianchi, D.8, notata fede 26 novembre passato prossimo. E per esso a Don Antonio Sciuz(sic.*Sciolz/Sciulz) Secondo Corno del Teatro Nuovo, e sono per la seconda rata dell'opera intitolata <i>Le Trame per amore</i>, e con tal pagamento resta intieramente sodisfatto di tutto li intiera rata e a cautela.</p> <p>(サン・ジャコモ銀行は) ジェンナーロ・ブランキ氏に対して D.8 の信託。1770 年 11 月 26 日付。これはヌオーヴォ劇場ホルン奏者のアントーニオ・シウルツ氏への（支払いを行う）ものであり、これは《愛のたくらみ <i>Le Trame per amore</i>》（パイジェット作曲）と題されたオペラにおいて（同氏が演奏したことに対する年俸）第 2 期支払いである。以上の支払いをもって、今期の支払いには完全に満了されたものとする。</p>
34 (II-190)	BSG	1805, p.704	10-XII- 1770	<p>A Gennaro Bianchi, D.10 notata fede a 26 novembre 1770. E per esso a Don Giuseppe Zito Primo Oboe del Teatro Nuovo, e sono per la seconda rata dell'opera intitolata <i>Le Trame per amore</i> e con tal pagamento resta intieramente sodisfatto di tutto il passato.</p> <p>(サン・ジャコモ銀行は) ジェンナーロ・ブランキ氏に対して D.10 の信託。1770 年 11 月 26 日付。これはヌオーヴォ劇場首席オーボエ奏者のジュゼッペ・ツィート氏への（支払いを行う）ものであり、これは《愛のたくらみ <i>Le Trame per amore</i>》（パイジェット作曲）と題されたオペラにおいて（同氏が演奏したことに対する年俸）第 2 期支払いである。以上の支払いをもって、過去分についてもすべての支払いは完全に満了されたものとする。</p>
35 (II-196)	BSG	1810 p.640	19-XI- 1770	<p>A Gen. Bianchi, D.14 fede 29 novembre 1770. E per esso a Francesco Cerlone, e dite sono a compimento di D.74 atteso l'altri D.60 l'ha ricevuti contanti e tutti li sudetti D.74 sono in conto dell'opera in musica da lui composta, e fatta intitolata <i>Le Trame per amore</i> la quale attualmente si sta rappresentando nel suo Teatro Nuovo sopra Toledo, e così pagerete.</p> <p>(サン・ジャコモ銀行は) ジェンナーロ・ブランキ氏に対して D.14 の信託。（1770 年）11 月 29 日付。これはフランチェスコ・チェルローネ氏に対する（支払いを行う）ものであり、計 D.74 の支払いを満了するものである。残額 D.60 について、同氏は現金で受領済みであり、上記総額 D.74 は、現在トレド通り上のヌオーヴォ劇場で上演中の《愛のたくらみ <i>Le Trame per amore</i>》（1770 年度第 2 オペラ、パイジェット作曲）と題された音楽劇の（台本）作詞への報酬の一部金である。</p>

36 (II-201)	BSG	1811 p.784	22-XII- 1770	<p>A Gennaro Bianchi, D.15, fede 15 corrente (dicembre 1770). E per esso a Don Francesco Ciarlone a compimento di D.100 atteso li mancanti, D.85, l'ha ricevuti parte con fede di vostro Banco parte con altre fedes di altri banchi, e parte in contanti e tutti D.100, sono saldo final pagamento della composizione della poesia dell'opera in musica, che attualmente si sta facendo nel Teatro Nuovo intitolata <i>Le Trame per amore</i>, che vale per terza, e con tal pagamento resta intieramente sodisfatto così di questa come dell'altre musicate passate.</p> <p>(サン・ジャコモ銀行は) ジェンナーロ・ブランキ氏に対してD.15の信託 (1770年12月) 15日付。これはフランチェスコ・チャルローネ (チェルローネ) 氏に対しての (支払いを行う) ものであり、計D.100の支払いを満了するものである。残額D.85について、同氏は当行発行の信託証書、及び他行発行の信託証書、および現金によって s 済みである。上記総額D.100は、現在ヌオーヴォ劇場で上演中の《愛のたくらみ<i>Le Trame per amore</i>》(パイジェット作曲) と題された音楽劇の作詞への報酬の最終支払いとなるもので、また (本年度年俸) 第3期支払いとするものでもある。この支払をもって、他の過去の支払い同様、本件についての支払いは完全に履行されたものとする。</p>
<p>1771 ヌオーヴォ劇場・関連史料 興行師ジェンナーロ・ブランキによる支払い文書 [1771年1月—7月期換金記録: 基本台帳 foglio 5309, 7147, 7149, 7151 に基づく]</p> <p>TEATRO NUOVO SOPRA TOLEDO I pagamenti effettuati* dall'Impresario GENNARO BLANCHI [I pagamenti incassati dal gennaio al luglio 1771 riportati sul Libro Maggiore: foglio 5304, 7147, 7149, 7151]</p>				
37 (III-4)	BSG	1819 p.75	5-I- 1771	<p>A Gennaro Bianchi, D.7 notata a 20 dicembre 1770. E per esso a Giovanni Atena, e sono per la seconda rata dell'opera intitolata <i>Le Trame per amore</i>, e tal pagamento resta intieramente sodisfatto di tutto il passato.</p> <p>(サン・ジャコモ銀行は) ジェンナーロ・ブランキ氏に対してD.7の信託 1770年12月20日付。これはジョヴァンニ・アテーネ氏への (支払いを行う) ものであり、これは《愛のたくらみ<i>Le Trame per amore</i>》(パイジェット作曲) と題されたオペラにおいて (同氏が演奏したことに対する年俸) 第2期支払いである。以上の支払いをもって、過去分についても支払いは完全に満了されたものとする。</p>
38 (III-11)	BSG	1816 p.300	18-I- 1771	<p>A Don Gennaro Bianchi, D.22.2.10 notata fede 22 giugno 1770. E per esso a Don Michele Nasci, dite sono per la prima rata dell'opera intitolata <i>La Zelmira</i> che si sta rappresentando nel Teatro Nuovo, per aver il medesimo sonato in qualità di primo violino, e così pagarete.</p> <p>(サン・ジャコモ銀行は) ジェンナーロ・ブランキ氏に対してD.22.50の信託 1770年6月22日付。これはミケーレ・ナシ氏への支払いを行うもので、ヌオーヴォ劇場で現在上演中の《ゼルミーラ<i>La Zelmira</i>》(パイジェット作曲) と題されたオペラにおいて、同氏がヴァイオリン奏者として演奏したことに対する (年俸) 第1期支払いを行うものである。</p>
39 (III-18)	BSG	1824 p.69	1-II- 1771	<p>A Don Gennaro Bianchi, D.6.2.10, fede 28 gennaio prossimo passato. E per esso a Don Saverio del Giudice Violino del Teatro Nuovo, e sono per la terza rata dell'opera intitolata <i>Le Trame per amore</i>, che è valutata per terza. E con tal pagamento resta saldato e sodisfatto. E così pagarete.</p> <p>(サン・ジャコモ銀行は) ジェンナーロ・ブランキ氏に対してD.6.50の信託 (1771年) 1月28日付。これはヌオーヴォ劇場ヴァイオリン (第2ヴィオラ?: 史料32参照) 奏者のサヴェーリオ・デル・ジュデーチェ氏への (支払いを行う) ものであり、これは《愛のたくらみ<i>Le Trame per amore</i>》(パイジェット作曲) と題されたオペラでの演奏を、年俸第3期目 (の仕事 *第2オペラとして初演されたこの作品が好評だったため、第3オペラとして追加上演されている) として評価し、同第3期支払いを行うものである。以上の支払いをもって、支払いは完全に満了されたものとする。</p>

40 (III-25)	BSG	1817 p.204	9-II- 1771	A Don Gennaro Bianchi, D.7 notata fede a 4 corrente (gennaio 1771). E per esso a Don Giovanni Atena Violino del Teatro Nuovo e sono la seconda rata dell'opera intitolata <i>Le Trame per amore</i> che stata valutata per terza e con tal pagamento resta intieramente soldato e sodisfatto di tutto il passato. (サン・ジャコモ銀行は) ジェンナーロ・ブランキ氏に対してD.7の信託 (1771年1月) 4日付. これはヌオーヴォ劇場ヴァイオリン奏者のジョヴァンニ・アテーナ氏への (支払いを行う) ものであり, これは《愛のたくらみ <i>Le Trame per amore</i> 》(パイジェット作曲) と題されたオペラでの演奏を, 年俸第3期目 (の仕事 *第2オペラとして初演されたこの作品が好評だったため, 第3オペラとして追加上演されている) として評価し, 同第3期支払いを行うものである. 以上の支払いをもって, 過去分についてもすべての支払いは完全に満了されたものとする.
41 (III-32)	BSG	1825 pp.341- 342	21-II- 1771	A Don Gennaro Bianchi, D.8, a 14 corrente (febbraio 1771). E per esso a Don Antonio Sciunz (sic.*=Sciulz) Seconda Tromba del Teatro Nuovo, e sono della quarta ed ultima rata dell'opera intitolata <i>La Fiera</i> , e con tal pagamento resta intieramente sodisfatto, non dovendo altro che pretnde a qualunque altra causa. (サン・ジャコモ銀行は) ジェンナーロ・ブランキ氏に対してD.8の信託 (1771年2月) 14日付. これはヌオーヴォ劇場第2トランペット奏者のアントーニオ・シュルツ氏への (支払いを行う) ものであり, これは《市場 <i>La Fiera</i> 》(作曲者不祥) と題されたオペラでの演奏として, (年俸) 第4期, かつ年度最終として支払いを行うものである. 以上の支払いをもって, 支払いは完全に満了されたものとし, 一切の請求権はないものとする.
42 (III-44)	BSG	1821 p.408	4-III- 1771	A Don Gennaro Bianchi, D.18.1.5 notata fede a 28 gennaio 1771. E per esso a Don Nicola Santacroce, e sono cioè D.16.25 sono la terza rata dell'opera intitolata <i>Le Trame per amore</i> che si è replicata, resta che restanti Carlini 20 sono a conto di quello che avanzava nel Teatro de Fiorentini, e con tal pagamento resta saldato della detta terza rata come di tutte le rate passate di tutto del Teatro Nuovo. (サン・ジャコモ銀行は) ジェンナーロ・ブランキ氏に対してD.18.25の信託. 1771年1月28日付. これはニコラ・サンタクロッチェ氏への (支払いを行う) ものである. うち, D.16.25については, 《愛のたくらみ <i>Le Trame per amore</i> 》(パイジェット作曲) と題されたオペラの (年度第3オペラとして追加公演への出演料, 年俸) 3期支払いであり, 残る20カルリーノ (=D.2) については, フィオレンティーニ劇場における出演料の残額の一部金として支払うものである. 以上の支払いをもってヌオーヴォ劇場の過去の全ての期間給のように, 第3期支払いについても満了されたものとする.
43 (III-49)	BSG	1818 p.486	16-III- 1771	A Don Gennaro Bianchi, D.10 fede 8 febraro passato. E per esso a Don Giuseppe Zito Primo Oboe del Teatro Nuovo, e sono per saldo e final pagamento della quarta ed ultima rata del opera intitolata <i>La Fiera</i> , e con tal pagamento resta intieramente sodisfatto di tutta l'intiera annata, non avendo altro che pretendere ne per questa ne per qualunque altro Causa. (サン・ジャコモ銀行は) ジェンナーロ・ブランキ氏に対して D.10 の信託. (1771年) 2月8日付. これはヌオーヴォ劇場首席オーボエ奏者のジュゼッペ・ヅィート氏への (支払いを行う) ものであり, これは《市場 <i>La Fiera</i> 》(作曲者不祥) と題されたオペラ (での演奏に対する, 年俸のうち) 第4期にして年度最終支払いであり, この支払いをもって, 年俸支払いはすべて満了されたものとし, 何ら一切の請求権はないものとする.
44 (III-52)	BSG	1820 p.373	20-III- 1771	A Gennaro Bianchi, D.18.1.5 fede 18 corrente. E per esso a Nicola Santacroce e sono cioè D.16.25 per la quarta, ed ultima rata dell'opera intitolata <i>La Fiera</i> dove esso Nicola ha sonato da Primo Violoncella(sic.) nel Teatro Nuovo e li restanti D.2 sono per conto di quello, che deve conseguire e con tal pagamento resta intiera saldo e sodifatto per detto quarta rata non avendo altro a conseguire per detta sola annata per detto Teatro Nuovo. E così pagarete. (サン・ジャコモ銀行は) ジェンナーロ・ブランキ氏に対してD.18.25の信託 (1771年3月) 18日付. うち, D.16.26については, ヌオーヴォ劇場において同氏が首席チェロ奏者として演奏した, 《市

				場 <i>La Fiera</i>) (作曲者不祥) と題されたオペラ (に対する年俸のうち) 第4期にして年度最終支払いであり、残るD.2については (フィオレンティーニ劇場での出演料の残額: 史料42参照) の一部とするものである。以上の支払いをもって、第4期支払いについて満了されたが、ヌオーヴォ劇場での1劇場年度年俸についても残額はないものとする。
45 (III-58)	BSG	1821 p.554	23-III- 1771	Al detto (Blanchi), D.8, fede 4 febbraio 1771. E per esso ad Antonio Sciu(z sic.*=Sciulz), <i>ut supra</i> . (サン・ジャコモ銀行は) ジェンナーロ・ブランキ氏に対してD.8の信託 (1771年) 2月4日付。これは (ヌオーヴォ劇場第2ホルン奏者: 史料20参照) アントーニオ・シュルツ氏への支払いとするものであり、以下、同文。
46 (III-60)	BSG	1821 p.617	23-III- 1771	A Don Gennaro Blanchi, D.45 fede 18 febbraio prossimo passato. E per esso a Don Michele Nasci dite per la terza e quarta rata dell'opera fatte nel Teatro Nuovo nelle e quali esso Nasci ha sonato da Primo Violino e con detto pagamento resta soddisfatto di tutto il passato sino a 18 febbraio prossimo passato e per esso. (サン・ジャコモ銀行は) ジェンナーロ・ブランキ氏に対してD.45の信託 (1771年) 2月18日付。これはミケランジェロ・ナーシ氏に対し、同氏が首席ヴァイオリン奏者を務めるヌオーヴォ劇場で上演されたオペラの第3期 (《愛のたくらみ <i>Le Trame per amore</i> 》)、第4期 (《市場 <i>La Fiera</i> 》) に対する (報酬支払) を行うものであり、この支払をもって、来る (1771年) 2月18日までのすべての過去の期間についての彼に対する支払いは履行されたものとする。
47 (III-67)	BSG	1822 p.526	11-IV- 1771	A Gennaro Blanchi, D.20 notata fede a 8 aprile 1771. E per esso a Giovanni Paiesiello(sic.*=Paisiello.) Maestro di Cappella napolitano, e dite sono a conto della musica deve fare nella prima opera si deve rappresentare nel Teatro Nuovo nella corrente primavera. (サン・ジャコモ銀行は) ジェンナーロ・ブランキ氏に対してD.20の信託。1771年4月8日。これはナポリ人作曲家、ジョヴァンニ・パイジエッロ氏への (支払いとする) もので、ヌオーヴォ劇場において同年春に第1オペラ (《似た名前 <i>La Somiglianza de' nomi</i> 》) として上演しなくてはならない作品の音楽 (作曲) への (執筆報酬) 支払いとするものである。
48 (III-70)	BSG	1817 pp.801- 802	18-IV- 1771	A Don Gennaro Blanchi, D.17, fede de 13 corrente (aprile 1771). E per esso a Don Francesco Cerlone, dite sono a compimento di D.45 atteso D.25 di essi, erano d'anticipatione che teneva in mano, sin dall'anno passato 1770. E l'altri D.3 li ha ricevuti in contanti, e tutti li sudetti D.45, dite sono a conto delle sue onorate fatiche per la composizione dell'opera, che attualmente si sta rappresentando nel Teatro Nuovo, di cui esso, è Impresario, intitolata <i>Amurat Governatore d'Egitto</i> , non restando da esso, altro a conseguire, se non che li resta dalla opera prosa intitolata <i>L'Amurato</i> (sic.), importante(?) D.30 per tutte le opere. E così prose, come musica fatte per il predetto suo Teatro, da Pasuqua di Resurrezione dell'anno 1770 per tutto il passato carnevale 1771. (サン・ジャコモ銀行は) ジェンナーロ・ブランキ氏に対してD.17の信託 (1771年4月) 13日付。これはフランチェスコ・チェルローネ氏に対しての (支払いを行う) ものであり、計D.45の支払いを満了するものである。上記のうちD.25については、前年の1770年より前金として同氏の手に入り、残るD.3については、同氏は現金にて受領済みである。以上総額D.45は、私 (ブランキ) が興行師を務めるヌオーヴォ劇場で現在上演中の《エジプト太守アムラット <i>Amurat Governatore d'Egitto</i> 》と題された (演劇) 作品 (台本) 執筆に対しての報酬の一部金であり、この支払をもって、《アムラット <i>L'Amurat</i> 》と題された演劇作品については、残るD.30以外に一切の支払いはないものとする。このように、同上劇場において制作されたオペラ作品同様、演劇作品についても同じく、1770年復活祭から1771年謝肉祭最終日 (までの劇場シーズンに対して) 適用されるものとする。
49 (III-80)	BSG	1825 pp.986- 987	31-V- 1771	A Don Gennaro Blanchi, D.15 a 27 corrente (maggio 1771). E per esso a Giovanni Pajegello(sic.*=Paisiello) Maestro di Cappella, e dite sono a compimento di D.70 atteso gl'altri D.55 li a ricevuti e contanti, e con fede di credito del nostro Banco, e tutti li sudetti D.70 sono a conto della musica che attualmente sta facendo dell'opera che deve andare in scena nel Teatro Nuovo di cui esso ne Impresario.

				<p>(サン・ジャコモ銀行は) ジェンナーロ・ブランキ氏に対してD.15の信託 (1771年5月) 27日付。これは楽長ジョヴァンニ・パイジェッロ氏への(支払いを行う)もので、同(ブランキ)氏が興行師を務めるヌオーヴォ劇場において上演するべく現在作曲中のオペラ(1771年度第1オペラ《似た名前<i>La Somiglianza de' nomi</i>》)への報酬に対しての一部金である。現在まで同氏が現金、および本銀行発行の信託証書にて受領済であるD.55と合わせて、計D.70の支払いをここに満了するものである。</p>
50 (III-84)	BSG	1827 p.336	8-VI- 1771	<p>A Don Gennaro Bianchi, D.12 fede 27 maggio prossimo passato. E per esso a Francesco Cerlone disse sono a compimento di D.79 atteso l'altri D.57: D.25 ne avea in marzo 1770, e li rimanenti l'ha ricevuti in contanti, e con fede di credito di nostro Banco, e tutti li D.79 sono in conto del Libretto prosa da lui ha fatto che attualmente si sta rappresentando intitolato <i>Amorat Governatore d'Egitto</i> non restando a conseguire per tal causa e se non che altri D.6.</p> <p>(サン・ジャコモ銀行は) ジェンナーロ・ブランキ氏に対してD.12の信託。(1771年5月)1日付。これはフランチェスコ・チェルローネ氏への(支払いを行う)ものであり、計D.79の支払いを満了するものである。残額D.57のうち、D.25については、1770年3月に既に同氏は受領済みであり、残りは現金、および本銀行発行の信託証書にて受領済みである。上記総額D.79は、現在(信託時1771年5月27日、ヌオーヴォ劇場)において上演中の《エジプト太守アムラット<i>Amurat Governatore d'Egitto</i>》と題された演劇台本の作詞についての報酬の一部であり、本件に関して、残額D.6以外に一切の支払いはないものとする。</p>
51 (III-85)	BSG	1827 p.480	8-VI- 1771	<p>A Gennaro Bianchi, D.10 fede 2 marzo 1771: E per esso a Don Francesco Cerlone e dite sono a compimento di D.32, atteso l'altri D.22 l'ha ricevuti contanti e tutti detti D.32, dite sono in conto di quello deve conseguire per l'accomodo come poeta fatto nella quarta opera rappresentata nel Teatro Nuovo, di cui esso è Impresario, intitolata <i>La Fiera</i>, e <i>La Claudia vendicata</i> e così pagarete. E per esso detto Emilio Sedio per altri tanti.</p> <p>(サン・ジャコモ銀行は) ジェンナーロ・ブランキ氏に対してD.10の信託。1771年3月2日付。これはフランチェスコ・チャルローネ(チェルローネ)氏に対しての(支払いを行う)ものであり、計D.32の支払いを満了するものである。残額D.22について、同氏は現金で受領済みであり、上記総額D.32は、私(ブランキ)が興行師を務めるヌオーヴォ劇場で上演する《市場<i>La Fiera</i>》、および《復讐されたクラウディア<i>La Claudia vendicata</i>》として題された(1770年度)第4オペラに同(チェルローネ)氏が行うべき台本変更、調整に対しての報酬の一部金である。エミーリオ・セディオ(換金担当者)。</p>
52 (III-88)	BSG	1821 p.1025	12-VI- 1771	<p>A Don Gennaro Bianchi, D.20 fede de 10 giugno corrente. E per esso a Don Nicola Santacroce, e sono D.16.50 per saldo e final pagamento della rata dell'opera in musica che nel suo Teatro deve andare in scena intitolata <i>La Somiglianza de Nomi</i> per sonare in esso da Primo Volino(sic.*=Violoncello), e li restanti D.3.75 a compimento di D.9.75 atteso l'altri l'ha ricevuto antecedentemente con polize notate fedeli per nostro Banco. E tutti detti D.9.75 sono a conto D.15 che deve conseguire dichiarando che li restanti D.3.75 sono a complimento di D.9.75 atteso li altri D.6 l'ha ricevuti antecedentemente e tutti sudetti D.9.75 sono in conto D.15 che deve conseguire onde resta conseguire D.5.25. E per esso.</p> <p>(サン・ジャコモ銀行は) ジェンナーロ・ブランキ氏に対してD.20の信託。1771年6月10日付。これはニコラ・サンタクロチェ氏への(支払いを行う)ものである。うち、D.16.50については、《似た名前<i>La Somiglianza de' nomi</i>》(パイジェッロ作曲)と題される、彼(ブランキ氏)の劇場で上演される音楽劇への(年度年俸)最終期払いとするものであり、残るD.3.75については、同氏が同行発行の信託証書で事前に受け取っている金額と合わせて、D.9.75の支払いを満了するものである。上記総額D.9.75は、D.15の一部金となるが、残るD.3.75については、既に受領済みであるD.6と加え、D.9.75を満了するものであり、このD.9.75は、D.15の一部となり、D.5.25については別途支払われなくてはならない。</p>

53 (III-91)	BSG	1819 p.1132	25-VI- 1771	<p>A Gennaro Bianchi, D.1.2.0 notata a 21 corrente (giugno 1771). E per esso a Don Giovanni Paisiello e dite sono a compimento di D.120 atteso l'altri li ha ricevuti e contanti e con fede di credito del nostro Banco, e se ne sono pagati per di lui conto e tutti sudetti D.120 sono per saldo final pagamento della musica fatta nell'opera che attualmente si sta rappresentando nel Teatro Nuovo di cui esso è Impresario non restando ne per questa ne per altra causa sino 21 corrente (giugno 1771) altro a conseguire.</p> <p>(サン・ジャコモ銀行は) ジェンナーロ・ブランキ氏に対してD.1.40の信託 (1771年6月) 21日付。これはジョヴァンニ・パイジェッロ氏への(支払いを行う)ものであり、計D.120の支払いを満了するものである。残額について、同氏は現金、当行発行の信託証書、ならびに同氏への口座振替にて受領済みである。上記総計D.120は、私(ブランキ)氏が興行師を務めるヌオーヴォ劇場において現在上演中のオペラ(1771年度第1オペラ《似た名前<i>La Somiglianza de' nomi</i>》)において(同氏が作曲した音楽)に対する報酬総額の、最終支払いである。本支払いにより、1771年6月21日までの(報酬)としては他に一切の支払いはないものとする。</p>
54 (III-101)	BSG	1829 p.273	30-VII- 1771	<p>A Gennaro Bianchi, D.22.2.10 notata a 26 novembre. 1770. E per esso a Michele Nasci, Primo Violino del Teatro Nuovo, e sono per la seconda rata dell'opera intitolata <i>Le Trame per amore</i>, e con tal pagamento resta intieramente saldato, e sodisfatto di tutto il passato.</p> <p>(サン・ジャコモ銀行は) ジェンナーロ・ブランキ氏に対してD.22.50の信託。1770年11月26日付。これはヌオーヴォ劇場首席ヴァイオリン奏者ミケーレ・ナーシ氏への支払いとするもので、これは、《愛のたくらみ<i>Le Trame per amore</i>》(パイジェッロ作曲)における(演奏に対する年俸)第2期支払いであり、この支払いをもって、すべての過去分についても支払いは履行されたものとする。</p>
55 (III-102)	BSG	1829 p.329	30-VII- 1771	<p>A Gennaro Bianchi, D.7.3.15 notata fede a 8 febbraio 1771. E per esso ad Oronzo Piero Violino del Teatro Nuovo, e sono per la terza dell'opera intitolata <i>Le Trame per amore</i>, che è stata valutata per terza, e con tal pagamento resta intieramente sodisfatto di tutto il passato.</p> <p>(サン・ジャコモ銀行は) ジェンナーロ・ブランキ氏に対してD.7.75の信託。1771年2月8日付。これはヌオーヴォ劇場ヴァイオリン奏者、オロンツォ・ピエッロ氏への支払いとするもので、(追加公演のため)本年度第3オペラとみなされる《愛のたくらみ<i>Le Trame per amore</i>》(パイジェッロ作曲)と題されたオペラにおける(演奏に対する年俸)第3期支払いを行うもので、この支払いをもって、すべての過去分についても支払いは履行されたものとする。</p>
<p>1776 ヌオーヴォ劇場 興行師ジェンナーロ・ブランキ史よる支払い文書 [1776年1月—7月期換金記録: 基本台帳foglio 5093, 7011, 7013, 7015に基づく]</p> <p>TEATRO NUOVO I pagamenti effettuati dall'Impresario GENNARO BLANCHI [I pagamenti incassati dal gennaio al luglio 1776 riportati sul Libro Maggiore: foglio 5093, 7011, 7013, 7015]</p>				
56 (IV-1)	BSG	1989 p.6	2-I- 1775	<p>A Don Gennaro Bianchi, D.6.2.10. Cioè Banco pagarete al Signor Don Gaspare Stender, e dite sono per saldo della prima rata e per aver suonato nel Teatro Nuovo, di cui sono Conduttore, ed Impresario, nella prima opera musica in quello rappresentata nel corrente anno teatrale terminando l'ultimo giorno di Carnevale dell'entrante anno 1776, intitolata <i>L'Astuzie amorse</i>, restando sodisfatto di tutti gl'anni passati. Napoli 15 dicembre 1775. Gennaro Bianchi. Notata li 15 dicembre 1775. Gaspare Stender.</p> <p>ジェンナーロ・ブランキ氏に対してD.6.50の信託 (サン・ジャコモ銀行) は、ガスパレ・ステンデル氏への支払いを行うもので、これは、私(ブランキ)が経営者であり興行師を務めるヌオーヴォ劇場において、1776年初頭の謝肉祭最終日に終了する本(1775)年度第1オペラとして上演された《愛の手管<i>L'astuzie amorse</i>》(パイジェッロ作曲)と題されたオペラにおける(演奏に対する</p>

				<p>年俸) 第1期支払いである。この支払いをもって、過去年度分の支払いについてもすべての支払いは履行されたものとする。ナポリ, 1775年12月15日。ジェンナーロ・ブランキ。1775年12月15日署名。ガスパレ・ステンデル。</p>
57 (IV-5)	BSG	1994 p.22	11- 1776	<p>A Don Gennaro Bianchi, D.6.2.10 notata fede a 15 dicembre 1775. Banco di San Giacomo pagate a Don Saverio del Giudice, D.6.2.10 corrente dite sono per saldo della prima rata per aver sonato nel Teatro Nuovo di cui sono Consultore(sic.) ed Impresario nella prima opera in musica in quello rappresentata, nel corrente anno teatrale terminando l'ultimo giorno di Carnevale 1776 intitolata <i>L'Astuzie amorose</i>, restando sodisfatto di tutti gl'anni passati. Napoli 15 dicembre 1775. Gennaro Bianchi per al detto Lettiero. Saverio del Giudice.</p> <p>ジェンナーロ・ブランキ氏に対してD.6.50の信託。1775年12月15日付。(サン・ジャコモ銀行)は、サヴェーリオ・デル・ジューディチェ氏への支払いを行うもので、これは、私(ブランキ)が経営者であり興行師を務めるヌオーヴォ劇場において、本年1776年謝肉祭最終日に終了する本(1775)年度第1オペラとして上演された《愛の手管<i>L'astuzie amorose</i>》(パイジェット作曲)と題されたオペラにおける(演奏に対する年俸)第1期支払いである。この支払いをもって、過去年度分の支払いについてもすべての支払いは履行されたものとする。ナポリ, 1775年12月15日。ジェンナーロ・ブランキ。1775年12月15日署名。サヴェーリオ・デル・ジューディチェ。</p>
58 (IV-15)	BSG	1989 p.332	29- 1776	<p>A Don Gennaro Bianchi, D.7.3.15, Cioè Banco pagarete al Signor Don Oronzio Pierro, dite sono per saldo della prima rata e per aver suonato nel Teatro Nuovo di cui sono Conduttore ed Impresario nella prima opera musica in quello rappresentata nel corrente anno teatrale terminando l'ultimo giorno di Carnevale dell'entrante anno 1776, intitolata <i>L'Astuzie amorose</i>, restando sodisfatto de tutti gli anni passati. Napoli 15 dicembre 1775. Gennaro Bianchi. Notata 15 dicembre 1775. Boffa. Oronzio Pierro.</p> <p>ジェンナーロ・ブランキ氏に対してD.7.75の信託。(サン・ジャコモ銀行)は、オロンツィオ・ピエットロ氏への支払いを行うもので、これは、私(ブランキ)が経営者であり興行師を務めるヌオーヴォ劇場において、1776年初頭の謝肉祭最終日に終了する本(1775)年度第1オペラとして上演された《愛の手管<i>L'astuzie amorose</i>》(パイジェット作曲)と題されたオペラにおける(演奏に対する年俸)第1期支払いである。この支払いをもって、過去年度分の支払いについてもすべての支払いは履行されたものとする。ナポリ, 1775年12月15日。ジェンナーロ・ブランキ。1775年12月15日署名。ボッファ。オロンツィオ・ピエットロ。</p>
59 (IV-19)	BSG	1993 pp.221- 222	7-II- 1776	<p>A Gennaro Bianchi, D.7.3.15 Banco San Giacomo e Vittoria pagate a Don Oronzio Pierri, D.7.75 corrente, e dite sono per saldo della seconda rata e per aver sonato nel Teatro Nuovo di cui sono Conduttore ed Impresario nelle opere musica in detto Teatro rappresentata per seconda nel corrente anno teatral terminando l'ultimo giorno di Carnevale di questo anno che corrente 1776. Intitolate <i>Socrate immaginario, Il Credulo deluso</i> ed <i>Il Duello</i>, restando sodisfatto di tutto il passato. Napoli 29 gennaio 1776. Don Gennaro Bianchi, notata fede a 29 gennaio 1776. Todisco per altri tanti. Oronzio Pierri.</p> <p>ジェンナーロ・ブランキ氏に対してD.7.75の信託。サン・ジャコモ・エ・ヴィットーリア銀行は、オロンツィオ・ピエットロ氏への支払いを行うもので、これは、私(ブランキ)が経営者であり興行師を務めるヌオーヴォ劇場において、本年1776年謝肉祭最終日に終了する本(1775)年度第2オペラとして上演された《ソクラテス気取り<i>Socrate immaginario</i>》(パイジェット作曲)、および《当ての外れたおっちょこちよ<i>Il Credulo deluso</i>》、《決闘<i>Il Duello</i>》(両作品ともパイジェット作曲)と題されたオペラにおける(演奏に対する年俸)第2期支払いである。この支払いをもって、過去分支払いについてもすべて履行されたものとする。ナポリ, 1776年1月29日。ジェンナーロ・ブランキ, 1775年1月29日署名。トディスコ(換金担当者)。オロンツィオ・ピエットロ。</p>
60 (IV-22)	BSG	1993 p.313	7-II- 1776	<p>A Gennaro Bianchi, D.7. Banco San Giacomo e Vittoria pagate a Don Giovanni Atene, D.7 correnti, e dite sono per saldo della seconda rata, e per aver suonato nel Teatro Nuovo di cui sono</p>

conduttore ed Impressario nell'opera musica in esso teatro rappresentate per seconda nel corrente anno teatrale, terminando l'ultimo giorno di Carnevale di questo che corrente anno 1776, intitolate *Socrate immaginario, Il Credulo deluso* ed *Il Duello*, restando sodisfatto di tutto il passato. Napoli 29 gennaio 1776. Gennaro Bianchi. Notata fede a 29 gennaio 1776. Boffa per altri tanti. Giovanni Atene.

ジェンナーロ・ブランキ氏に対してD.7の信託 サン・ジャコモ・エ・ヴィットーリア銀行は、ジョヴァンニ・アターネ氏への支払いを行うもので、これは、私（ブランキ）が経営者であり興行師を務めるヌオーヴォ劇場において、本年1776年謝肉祭最終日に終了する本（1775）年度第2オペラとして上演された《ソクラテス気取り *Socrate immaginario*》（パイジェット作曲）、および《当ての外れたおっちょこちよ *Il Credulo deluso*》、《決闘 *Il Duello*》（両作品ともパイジェット作曲）と題されたオペラにおける（演奏に対する年俵）第2期支払いである。この支払いをもって、過去分支払いについてもすべて履行されたものとする。ナポリ、1776年1月29日。ジェンナーロ・ブランキ、1775年1月29日署名。ボッファ（換金担当者）。ジョヴァンニ・アターネ。

61 (IV-23)	BSG	1996 p.299	10-II- 1776	<p>A Don Gennaro Bianchi, D.6.2.10. Banco San Giacomo pagarete a Don Saverio del Giudice, D.6.50 correnti, e dite sono per saldo della seconda rata, e per aver suonato nel Teatro Nuovo, di cui sono Conduttore, ed Impressario nelle opere in musica in esso rappresentate per seconda nel corrente anno teatrale, terminando l'ultimo giorno di Carnevale, di questo anno che corre 1776, intitolate <i>Socrate immaginario, Il Credulo deluso</i>, ed <i>Il Duello</i>, restando sodisfatto di tutto il passato. Napoli 5 febbraio 1776. Gennaro Bianchi, notata fede a 6 febbraio 1776. Al detto Tommaso di Martino per altri tanti. Saverio del Giudice. Tommaso di Martino.</p> <p>ジェンナーロ・ブランキ氏に対してD.7.75の信託 サン・ジャコモ銀行は、サヴェーリオ・デル・ジューディチェ氏への支払いを行うもので、これは、私（ブランキ）が経営者であり興行師を務めるヌオーヴォ劇場において、本年1776年謝肉祭最終日に終了する本（1775）年度第2オペラとして上演された《ソクラテス気取り <i>Socrate immaginario</i>》（パイジェット作曲）、および《当ての外れたおっちょこちよ <i>Il Credulo deluso</i>》、《決闘 <i>Il Duello</i>》（両作品ともパイジェット作曲）と題されたオペラにおける（演奏に対する年俵）第2期支払いである。この支払いをもって、過去分支払いについてもすべて履行されたものとする。ナポリ、1776年2月5日。ジェンナーロ・ブランキ、1776年2月6日署名。トンマーズ・ディ・マルティーノ（換金担当者）。サヴェーリオ・デル・ジューディチェ。トンマード・ディ・マルティーノ。</p>
62 (IV-33)	BSG	1989 p.449	22-II- 1776	<p>A Don Gennaro Bianchi, D.7.3.15, cioè Banco pagarete al Signor Don Oronzio Pierri, e dite sono per saldo della terza rata, e per aver suonato nel Teatro Nuovo di cui sono Conduttore, ed Impressario nell'opera in musica in quello rappresentata per terza nel corrente anno teatrale terminando l'ultimo giorno di Carnevale di questo anno che corre 1776, restando in tutto, e per tutto saldato, e sodisfatto del passato. Napoli febbraio 1776. Gennaro Bianchi. Notata 16 febarro 1776. Al detto Boffa.</p> <p>ジェンナーロ・ブランキ氏に対してD.7.75の信託（サン・ジャコモ）銀行は、サヴェーリオ・デル・ジューディチェ氏への支払いを行うもので、これは、私（ブランキ）が経営者であり興行師を務めるヌオーヴォ劇場において、本年1776年謝肉祭最終日に終了する本（1775）年度第3オペラとして上演された《すべての性格をもつ女 <i>La Donna di tutti li caratteri</i>》（ピエトロ・グリエルミ作曲、ドメニコ・チマローザ加筆編曲）と題されたオペラにおける（演奏に対する年俵）第3期支払いである。この支払いをもって、過去分についてもすべて履行されたものとする。ナポリ、1776年2月。ジェンナーロ・ブランキ、1776年2月16日署名。ボッファ（換金担当者）。</p>
63 (IV-38)	BSG	1992 foglio 239v	26-II- 1776	<p>Al detto, D.7, notata fede a 19 febbraio 1776. Banco San Giacomo e Vittoria pagate a Don Giovanni Atena, D.7 correnti, dite sono per saldo della terza rata e per aver suonato nel Teatro Nuovo di cui sono Conduttore ed Impressario, nell'opera musica in quello rappresentata per terza del caduto anno 1776, terminando l'ultimo giorno di Carnevale di questo anno, che corre 1776. Intitolata <i>La donna</i></p>

				<p><i>di tutti li caratteri</i>, restando saldato di tutto il passato. Napoli febbraio 1776. Gennaro Bianchi. Al detto Boffa. Giovanni Atena.</p> <p>ジェンナーロ・ブランキ氏に対してD.7.75の信託。サン・ジャコモ・エ・ヴィットーリア銀行は、ジョヴァンニ・アテーナ氏への支払いを行うもので、これは、私（ブランキ）が経営者であり興行師を務めるヌオーヴォ劇場において、本年1776年謝肉祭最終日に終了する本（1775）年度第3オペラとして上演された《すべての性格をもつ女<i>La Donna di tutti li caratteri</i>》（ピエトロ・グリエルミ作曲、ドメニコ・チマローザ加筆編曲）と題されたオペラにおける（演奏に対する年俸）第3期支払いである。この支払いをもって、過去分についてもすべて履行されたものとする。ナポリ、1776年2月。ジェンナーロ・ブランキ。ボッファ（換金担当者）。ジョヴァンニ・アテーナ。</p>
64 (IV-50)	BSG	1999 p.466	6-III- 1776	<p>A Gennaro Bianchi, D.10 notata a 26 gennaio 1776. Banco pagarete Giuseppe Zito, D.10 e dite sono a saldo della seconda rata, e per aver suonato nel Teatro Nuovo di cui sono Conduttore, ed Impresario nell'opera musica passate per seconda nel corrente anno teatrale terminando l'ultimo giorno di Carnevale del corrente anno 1776, intitolata <i>Socrate immaginario</i>, <i>Il Credulo deluso</i>, ed <i>Il Duello</i>, restando sodisfatto di tutto il passato. Napoli 26 gennaio 1776. Gennaro Bianchi. Lettieri. Giuseppe Zito.</p> <p>ジェンナーロ・ブランキ氏に対してD.10の信託（サン・ジャコモ）銀行は、ジュゼッペ・ツィート氏への支払いを行うもので、これは、私（ブランキ）が経営者であり興行師を務めるヌオーヴォ劇場において、本年1776年の謝肉祭最終日に終了する（1775）年度第2オペラとして上演された《ソクラテス気取り<i>Socrate immaginario</i>》（パイジェット作曲）、および《当の外れたおっちょこちよい<i>Il Credulo deluso</i>》、《決闘<i>Il Duello</i>》（両作品ともパイジェット作曲）と題されたオペラにおける（演奏に対する年俸）第2期支払いである。この支払いをもって、過去分支払いについてもすべて履行されたものとする。ナポリ、1776年1月26日。ジェンナーロ・ブランキ。レッティエーリ（換金担当者）。ジュゼッペ・ツィート。</p>
65 (IV-53)	BSG	1999 p.735	6-III- 1776	<p>A Gennaro Bianchi, D.6.2.10 notata a 6 febbraio 1776. Banco pagarete a Gaspare Stender, D.6.50 dite sono per saldo della seconda rata per aver suonato nel Teatro Nuovo, di cui sono Conduttore, ed Impresario nelle opere musica in esso rappresentate per seconda nel corrente anno teatrale terminando l'ultimo di Carnevale di questo anno 1776, intitolata <i>Socrate immaginario</i>, <i>Il Credulo deluso</i>, ed <i>Il Duello</i>, restando sodisfatto di tutto il passato non avendo altro a conseguire per il sudetto corrente anno teatrale per non aver suonato ne nella terza, ne nella quarta opera in esso rappresentate,, e che si stanno rappresentando. Napoli 5 febbraio 1776. Gennaro Bianchi. Todisco. Gaspare Stender.</p> <p>ジェンナーロ・ブランキ氏に対してD.6.50の信託（サン・ジャコモ）銀行は、ガスパレ・ステンデル氏への支払いを行うもので、これは、私（ブランキ）が経営者であり興行師を務めるヌオーヴォ劇場において、本年1776年の謝肉祭最終日に終了する（1775）年度第2オペラとして上演された《ソクラテス気取り<i>Socrate immaginario</i>》（パイジェット作曲）、および《当の外れたおっちょこちよい<i>Il Credulo deluso</i>》、《決闘<i>Il Duello</i>》（両作品ともパイジェット作曲）と題されたオペラにおける（演奏に対する年俸）第2期支払いである。この支払いをもって、同劇場において上演された本年度第3オペラ、および第4オペラでの演奏への（報酬）支払い以外、何らの支払いも残らないものとする。ナポリ、1776年2月5日署名。ジェンナーロ・ブランキ。トディスコ（換金担当者）。ガスパレ・ステンデル。</p>
66 (IV-55)	BSG	2000 p.311	11-III- 1776	<p>Al Detto (Bianchi), D.6.2.10 notata a 19 febbraio 1776. Banco pagarete al Don Saverio del Giudice D.6.2.10 e dite sono per saldo della terza rata, e per aver suonato nel Teatro Nuovo di cui sono Conduttore, ed Impresario nell'opera musica in esso rappresentata per terza nel corrente anno teatrale, terminando l'ultimo giorno di Carnevale di questo anno 1776, intitolata <i>La Donna di tutti Caratteri</i>, restando saldato, e sodisfatto di tutto il passato. Napoli febbraio 1776. Gennaro Bianchi. Lettieri. Saverio del Giudice.</p>

				<p>ジェンナーロ・ブランキ氏に対してD.6.50の信託 (サン・ジャコモ) 銀行は, サヴェーリオ・デル・ジューディチェ氏への支払いを行うもので, これは, 私 (ブランキ) が経営者であり興行師を務めるヌオーヴォ劇場において, 本年1776年謝肉祭最終日に終了する (1775) 年度第3オペラとして上演された《すべての性格をもつ女<i>La Donna di tutti li caratteri</i>》(ピエトロ・グリエルミ作曲, ドメニコ・チマローザ加筆編曲) と題されたオペラにおける (演奏に対する年俸) 第3期支払いである. この支払いをもって, 過去分についてもすべて履行されたものとする. ナポリ, 1776年2月. ジェンナーロ・ブランキ. レッティエーリ. サヴェーリオ・デル・ジューディチェ.</p>
67 (IV-60)	BSG	2001 p.498	13-III- 1776	<p>Al detto (Blanchi) D.10. Vostro Banco San Giacomo, e Vittoria pagarete a Don Giuseppe Zito D.10 correnti, e dite sono per saldo della terza rata, e per aver suonato nel Teatro Nuovo, di cui sono Conduttore, ed Impressario nell'opera musica rappresentata per terza nel corrente anno teatrale, che termina l'ultimo giorno di questo che corre Carnevale, ed anno 1776, intitolata <i>La Donna di tutti li caratteri</i>, restando sodisfatto in tutto per il passato. Napoli li 13 febraro 1776. Gennaro Blanchi. Notata fede a 13 febraro 1776. Todisco per altri tanti. Giusepe Zito.</p> <p>ジェンナーロ・ブランキ氏に対してD.7.75の信託. サン・ジャコモ・エ・ヴィットーリア銀行は, ジュゼッペ・ツイート氏への支払いを行うもので, これは, 私 (ブランキ) が経営者であり興行師を務めるヌオーヴォ劇場において, 本年1776年謝肉祭最終日に終了する (1775) 年度第3オペラとして上演された《すべての性格をもつ女<i>La Donna di tutti li caratteri</i>》(ピエトロ・グリエルミ作曲, ドメニコ・チマローザ加筆編曲) と題されたオペラにおける (演奏に対する年俸) 第3期支払いである. この支払いをもって, 過去分についてもすべて履行されたものとする. ナポリ, 1776年2月13日. ジェンナーロ・ブランキ, 1776年2月13日署名. トディスコ (換金担当者). ジュゼッペ・ツイート.</p>
68 (IV-105)	BSG	2003 p.356	21-VI- 1776	<p>A Don Gennaro Blanchi, D.10 fede de 18 corrente (giugno 1770). E per me li detti D.10 gli pagate a Don Giovanni Pajesiello (<i>sic.</i>) Maestro di Cappella Napolitano, e dite sono di ppiù de D.170 pagateli per vostro Banco per li favori compatirmi nel porre in musica l'opera, che attualmente si sta rappresentando nel Teatro Nuovo di cui sono Conduttore, ed Impressario, intitolata <i>Dal Finto il vero</i>, secondo la covenzione la girata alla quale (si riferisce). Dite che gli sudetti D.10 sono gli dono, acciò compli una giarra di sorbetto, e se la prendi per piccolo segno di mia eterna gratitudine, e li amore per li favori, come sopra compartitemi, con gli quali se non sodisfatto come dovrei, e vorrei, e come merita la di lui attenzione, e virtù a mio pro adoprare che sono di un immenno strabocchevole peso, e lo priego a compatirmi sulla considerazione, che non è per mancanza di volontà, la quale mi spingerebbe ad'altro fare, ma per mancanza di forze per le gravi disgrazie, e perdità sofferte. Quindi si è, che più dicciò non potendo niente dimeno per dimostrarli il mio amore, ed animo grato gli porgo li più vivi, incessanti ringraziamenti, di chiarandomeli eternamente devuto ed obbligato. Napoli 18 giugno 1776. Gennaro Blanchi. Boffa per altri tanti. Giovanni Pajesiello.</p> <p>(サン・ジャコモ銀行は) ジェンナーロ・ブランキ氏に対して D.10 の信託. 1776 年 6 月 18 日付. この D.10 は, ナポリの楽長ジョヴァンニ・パイジェッロ氏への (支払を行う) ものであり, これは, 私 (ブランキ) が経営者であり興行師を務めるヌオーヴォ劇場で現在上演中のオペラ《嘘からまこと <i>Dal Finto il vero</i>》) についての作曲料として支払う報酬 D.170 の上に別途支払うものである. こしたがって, これでソルベットを入れる容器でも (パイジェッロ氏に) 買って頂くよう, そして, これを受け取っていただければ, 上で述べたような私 (ブランキ) がこれまで感じてきた感謝に対して, これでももちろんご不満に思われるかもしれませんが, また私自身も, 大きく開けた口を閉めることができないほど途方もないあなたの才能に対して, 重い責任を感じ, もちろんながらわたくしもそうすべきと感じている次第ではありますが, これまでの多額の支出によって懐不如意の事情もあり, これにて我慢頂くようお許し頂けますよう何卒お願い致します. しかしながらも, これは, 私のあなたへの私の愛と感謝と, 永遠にあなたの僕であるとの誓いを示す印となりますよう. 1776 年 6 月 18 日, ジェンナーロ・ブランキ. ボッファ (換金担当者). ジョヴァンニ・</p>

 パイジェット。

69 (IV-106)	BSG	2003 pp.356- 357	21-VI- 1776	<p>Al detto (Blanchi), D.62 fede de 18 corrente (giugno 1770). E come li detti D.62. Don Giovanni Pajesiello Maestro di Cappella Napolitano, dite sono per complimento di D.170 atteso gl'altri D.108, gli ha antecedentemente ricevuti. E tutti di sudetti D.170 dite sono per gli favori compatitomi, nel porre in musica/ opera intitolata <i>Dal Finto il vero</i>, che attualmente si sta rappresentando nel Teatro Nuovo di cui sono Conduttore, ed Impressario, al tenore del prezzo convenuto fra di noi da quale colla presente resta saldato, come resta saldato di altri consimili favori compatitomi per il passato, e tralascia di farli ringraziamenti maggiori, come è di mia obbligazione, perché gli è l'esprimerò in altra consimile fede di credito, del vostro Banco di D.10 che li darò per piccolo segno di mia gratitudine. Napoli 18 giugno. 1776. Gennaro Blanchi. Al detto Boffa per altri tanti. Giovanni Pajesiello.</p> <p>(サン・ジャコモ銀行は、) 同ブランキに対しD.62の信託。1770年6月18日付。このD.62は、ナポリ人の楽長ジョヴァンニ・パイジェット氏に対して支払われるものであり、計D.170を完了する。残るD.108については、同氏は既に受領済である。この総額D.170は、私（ブランキ）が経営者で興行師を務めるヌオーヴォ劇場で現在上演中のオペラ《嘘からまこと <i>Dal Finto il vero</i>》の作曲に対するもので、過去に私（ブランキ）に対して許容してくれた同じような好意に基づいて、我々の間で取り決めていた報酬額に基づくものである。また、（この金額には）、彼に対する最大限の感謝として——私にとっては当然のことであるが——、彼に渡されるであろう謝意の小さな印としての同行発行の信託証書D.10は含まないものとする。ナポリ、1776年6月18日。ジェンナーロ・ブランキ。ボッフア（換金担当者）。ジョヴァンニ・パイジェット。</p>
70 (IV-109)	BSG	2007 p.145	5-VII- 1776	<p>A Don Gennaro Blanchi, D.30 fede de primo luglio 1776. Con la seguente girata. E per me di retroscritti. D.30 li pagarete al Signor Don Giovanni Pajesiello(<i>sic.</i> *=Paisiello), reclaro(?) Maestro de Cappella Napoletano e sono da conto de favori, che attualmente sta compartendo nel porre in musica l'opera* che dovrà andare in scena nel Teatro Nuovo, di cui sono Conduttore ed Impressario nel prossimo venturo mese di settembre corrente anno 1776. Napoli lo primo luglio 1776. Gennaro Blanchi. Al detto Boffa. Giovanni Pajesiello.</p> <p>(サン・ジャコモ銀行は) ジェンナーロ・ブランキ氏に対しD.30の信託。1770年7月1日付、以下の裏書とともに。これは、私に対して裏書された通り、D.30をナポリの楽長ジョヴァンニ・パイジェット氏に対して（支払われる）ものである。これは、私（ブランキ）が経営者で興行師を務めるヌオーヴォ劇場において、来る1776年9月に上演しなければならないオペラ* に対し現在（信託時1776年7月1日時点）同氏が行っている作曲に対する報酬の一部金とするものである。ナポリ、1776年7月1日。ジェンナーロ・ブランキ。ボッフア（換金担当者）。ジョヴァンニ・パイジェット。</p> <p>(*筆者注: おおよそ夏以降に上演されることになる“第2オペラ”は、1776年度シーズン“秋のオペラ”に相当すると考えられる。作品は、同劇場で1769年に初演されたパイジェット作曲《寛大なアラブ人》の再演であり、チマローザがその改変を行っていることから、このパイジェットへの報酬は再演に対する“著作権的”報酬であろうと考えられる。)</p>
71 (IV-110)	BSG	1991 p.1491	13-VII- 1776	<p>A Gennaro Blanchi, D.40 fede 12 febbraio 1776. E per me li detti D.40, li pagarete al Don Domenico Cimmarosa(<i>sic.</i>) Maestro di Cappella Napolitano, e dite sono a compimento di D.80 atteso gli altri D.40 gli ha antecedentemente ricevuti, e tutti li sudetti D.80, dite sono per saldo de favori compartitemi, e nel regolare la musica dell'opera rappresentata per terza nel Teatro Nuovo, di cui sono Conduttore, ed Impressario intitolata <i>La donna di tutti li caratteri</i>, e nel porre in musica l'operette di un atto l'una, che attualmente si stanno rappresentando nel detto Teatro, ed in questo che corrente anno teatrale terminando l'ultimo giorno di Carnevale di questo anno 1776, intitolata una <i>Li Sdegni per amore</i>, e l'altra <i>I Matrimonii in ballo, o sia impensati</i>, restando a mio peso di</p>

sodisfare il Maestro di Cappella, Signor Don Giuseppe Benevento, che ha posto in musica per li recitativi delle suddette due operette, e di un'atto l'una, che attualmente si stanno rappresentando, restando sodisfatto di tutto il passato. Napoli 12 febraro 1776, Gennaro Bianchi, al detto Boffa per altri tanti. Domenico Cimarosa.

(サン・ジャコモ銀行は) ジェンナーロ・ブランキに対して D.40 の信託。1776 年 2 月 12 日付。これは、ナポリ人の楽長ドメニコ・チマローザ氏への（支払いとする）ものであり、計 D.80 の支払いを満了するものである。残額 D.40 については、同氏は事前を受領済みであり、上記総額 D.80 は、私（ブランキ）が経営者で興行師を務めるヌオーヴォ劇場の（シーズン）3 番目のオペラとして上演された《すべての性格を持つ女 *La Donna di tutti li caratteri*》の音楽部分の手直しと、1776 年謝肉祭最終日に終了する本年度シーズン、（最終演目として）現在上演中の 1 幕のファルサ《愛ゆえの過ち *Li Sdegni per amore*》、および、ファルサ《舞踏会での結婚、あるいは予期せぬ事 *I Matrimonii in ballo, o sia impensati*》への音楽の作曲についての報酬全額である。なお、私（ブランキ）には、現在上演中の、上記、それぞれ単幕である二つのオペレッタにおけるレチタティーヴォへの音楽付けを行った楽長ジュゼッペ・ベネヴェント氏への報酬支払いが残っているものとする。1776 年 2 月 12 日、ジェンナーロ・ブランキ。ボッフア（換金担当者）。ドメニコ・チマローザ。

72 (IV-114)	BSG	1995 foglio 441f	20-VII- 1776	A Don Gennaro Bianchi, D.30 fede 19 luglio 1776. E per me li retroscritti, D.30 gli pagarete a Don Giovanni Pajesello indito(?sic.) Maestro di Cappella Napolitano, e dite sono a complimento di D.60 atteso gli altri D.30 gli a antecedentemente ricevuti per il vostro Banco, e tutti li sudetti D.60 dite sono in conto de facevi che mi sta compartendo nel porre in musica l'opera* che dovrà andare in scena nel Teatro Nuovo di cui sono Conduttore ed Impressario, nel prossimo venturo mese di settembre corrente anno 1776. Napoli 19 luglio 1776. Gennaro Bianchi. Al detto Boffa per altri tanti. Giovanni Pajesello.
----------------	-----	------------------------	-----------------	--

(サン・ジャコモ銀行は) ジェンナーロ・ブランキ氏に対し D.30 の信託。1770 年 7 月 19 日付。これは、私に対して裏書された通り、D.30 をナポリ人の楽長ジョヴァンニ・パイジェッロ氏に対して（支払われる）ものであり、計 D.60 の支払いを満了するものである。残額 D.30 については、同氏は事前に行により受領済みであり、上記総額 D.60 は、私（ブランキ）が経営者で興行師を務めるヌオーヴォ劇場において、来る 1776 年 9 月に上演しなければならないオペラ* に対して、同氏が行っている音楽の作曲に対する報酬の一部金とするものである。ナポリ、1776 年 7 月 19 日。ジェンナーロ・ブランキ。ボッフア（換金担当者）。ジョヴァンニ・パイジェッロ。

(*筆者注: おおよそ夏以降に上演されることになる“第2オペラ”は、1776 年度シーズン“秋のオペラ”に相当すると考えられる。作品は、同劇場で 1769 年に初演されたパイジェッロ作曲《寛大なアラブ人 *L'arabo cortese*》の再演であり、チマローザがその改変を行っていることから、このパイジェッロへの報酬は再演に対する“著作権的”報酬であろうと考えられる。)

1781-1782

王立フォンド劇場関連史料

興行師アニエッロ・リッカルディによる支払い文書

[1781 年 1 月—7 月期換金記録: 基本台帳 foglio 5925, 7769, 7771,

1781 年 8 月—12 月期換金記録: 基本台帳 foglio 5186

および、1782 年 1 月—7 月換金記録: 基本台帳 foglio 5105, 7981 (に基づく)]

REAL TEATRO DEL FONDO DELLA SEPARAZIONE

I pagamenti effettuati dall'Impresario ANIELLO RICCARDI (RICCARDO/RICCIARDI)

[I pagamenti incassati dal gennaio al luglio 1781 riportati sul Libro Maggiore I: foglio 5925, 7769, 7771;

i pagamenti incassati dall'agosto al dicembre 1781 riportati sul Libro Maggiore II: foglio 5186;

i pagamenti incassati dal gennaio al luglio 1782 riportati sul Libro Maggiore I: foglio 5105, 7981]

73 (V-13)	BSG	2198 p.95	10-I 1781	<p>A Don Aniello Riccardi, D.20 notata fede a 9 gennaio 1781. Li pagate a Saverio Zini, e sono a compimento di D.90 atteso li mancanti D.70 li ha ricevuti per mezzo di vostro Banco in più volte, e tutti detti D.90 sono a saldo e final pagamento di tutte le sue virtuose fatiche di poesia per la prima opera intitolata <i>La Viaggiatrice</i>, e con detto pagamento resta intieramente soddsfatto di detta prima opera. Notata li gennaio 1781. Aniello Riccardi al detto Lettieri per altri tanti. Saverio Zini.</p> <p>(サン・ジャコモ銀行は、王立フوند劇場興行師) アニエッロ・リッカルディ氏に対しD.20の信託。1781年1月9日付。これはサヴェリオ・ツィーニ氏への(支払を行う)ものであり、D.90の支払いを満了するものである。残額D.70については、当行発行の複数の信託証書にて既に受領済みであり、上記総額D.90は、《旅行者の女<i>La Viaggiatrice</i>》と題された(1780年度第1オペラ、ガッツァニーガ作曲)の作詞に関わる仕事への報酬の一部金とするものである。この支払をもって、同第1オペラについての支払いはすべて履行されたものとする。ナポリ、1781年1月公証。アニエッロ・リッカルディ。レッティエーリ(換金担当者)。サヴェリオ・ツィーニ。</p>
74 (V-36)	BSG	2205 p.154	14-II 1781	<p>Ad Aniello Riccardi, D.17.2.10, notata fede 12 febraro 1781. Banco pagarete per me sottoscritto impresario del Real Teatro del Fondo di Separazione a Don Nicola Santagroce(sic.) Prima Violongella e sono per la seconda rata dell'opera rappresentata in detto Real Teatro in questo anno 1781 per l'opera rappresentata <i>La Scaltra in amore</i>. E con tal pagamento resta sodisfatto così di detta rata come del passato. Aniello Riccardi. Lettieri per altri tanti. Nicola Santagroce.</p> <p>アニエッロ・リッカルディ氏に対しD.17.50の信託。1781年2月12日付。サン・ジャコモ銀行は、王立フوند・ディ・セパラツィオーネ劇場興行師である私から、同劇場第1チェロ奏者、ニコラ・サンタクローチェ氏への支払いを行うものである。これは、同王立劇場1781年度シーズンに(第2オペラとして)上演された(ジュゼッペ・クルチ作曲)《愛に抜け目ない女<i>La Scaltra in amore</i>》への出演料としての(年俸)第2期支払いであり、この支払をもって、これまでの期間同様、同氏に対するすべて支払いは履行されたものとする。アニエッロ・リッカルディ。レッティエーリ(換金担当者)。ニコラ・サンタクローチェ。</p>
75 (V-59)	BSG	2203 p.268	6-III 1781	<p>Al detto (Riccardo), D.17.2.10, notata fede 3 marzo 1781. E per esso a Don Nicola Santacroce Primo Violino del Real Teatro del Fondo, e sono per la terza rata dell'opera rappresentata in detto Real Teatro in questo corrente anno intitolata <i>La Vendemmia</i>, e con tal pagamento <i>ut supra</i>.</p> <p>同(アニエッロ・リッカルディ)氏に対しD.17.50の信託。1781年3月3日付。これは王立フوند劇場首席チェロ奏者、ニコラ・サンタクローチェ氏への(支払いを行う)ものであり、これは、同(1781)年度、同王立劇場で上演されたオペラ、(ジュゼッペ・ガッツァニーガ作曲)《ブドウ摘み<i>La Vendemmia</i>》に対する、年俸第3期支払いである。この支払をもって、以下同文。</p>
76 (V-49)	BSG	2203 p.268	6-III 1781	<p>Ad Aniello Riccardo, D.200 notata fede 3 marzo 1781. Banco per me sottoscritto Impresario del Real Teatro del Fondo, a Don Giuseppe Gazaniga(sic.) D.200, e sono cioè D.80 per lo spartito accomodato della sua opera detta <i>La Vendemmia</i> passata per terza opera, cioè in questo Real Teatro, e D.120 in conto delli D.200 che li vò dovendo per la quarta opera da lui poeta in musica intitolata <i>Lo Stravagante</i> con obbligo di doverli restituire io sottoscritto la cautela fatta da esso Gazaniga, D.100, in beneficio di Don Antonio Iovine, da comune cautela, così pagarete. Napoli marzo 1781. Aniello Riccardi. Lettieri per altri tanti. Giuseppe Gazaniga.</p> <p>アニエッロ・リッカルディ氏に対しD.200の信託。1781年3月3日付。(サン・ジャコモ)銀行は、王立フوند劇場興行師より、ジュゼッペ・ガッツァニーガ氏へのD.200の支払いを行うものである。うち、D.80は、同王立(フوند)劇場における年度第3オペラとして同氏の《ブドウ摘み<i>La Vendemmia</i>》に対するスコアの手直しに対する支払いであり、一方のD.120については、《風変わりな男<i>Lo Stravagante</i>》と題された年度第4オペラに、同氏が音楽詩人として(作曲を行う)報酬としてのD.200の一部金である。そして、万一の際には、同ガッツァニーガ氏より私(リッカルディ)に返金されることを同氏への義務とする。ナポリ、1781年3月。アニエッロ・リッカルディ。レッティエーリ(換金担当者)。ジュゼッペ・ガッツァニーガ。</p>

77 (V-86)	BSG	2208 p.233	22-VI 1781	<p>A Aniello Ricciardi, D.46, notata a 12 giugno 1781. Banco pagarete a Don Giuseppe Gazaniga(<i>sic.</i>), Maestro di cappella, e dite sono a complimento, e saldo di quanto conseguir dovea così per la musica delle due opere intitolate <i>La Viaggiatrice</i>, e <i>Lo Stravagante</i>, come per lo spartito, ed accomodo di musica dell'opera intitolata <i>La Vendemmia</i>, rappresentate nel detto Real Teatro, così nello scorso anno come nel prossimo passato Carnevale e col detto pagamento resta per le medesime intieramente sodisfatto, e saldato con espressa dichiarazione che trovandosi esso Signor Gazaniga fatta cambiale nella summa di D.100 in beneficio del Signor Don Antonio Giovane, e per esso girata al Signor Donna Ritta Lombardi la medesima debba correre a mio solo danno, atteso della presente summa esso Signor Gazaniga me l'havea rilasciato nelle sopradette quantità, con essere tenuto in sottoscritto a cavarlo intende, ed illeso da qualunque molestia per la medesima e così. Notata lì 9 giugno 1781. Aniello Ricciardi. Al detto Lettieri per altri tanti. Giuseppe Gazaniga.</p> <p>アニエッロ・リッカルディ氏に対しD.46の信託。1781年6月12日付。(サン・ジャコモ)銀行は、楽長ジュゼッペ・ガッツァニーガ氏に対し支払いを行うものであるが、昨年、および終了した先の謝肉祭期間、同王立(フォンド)劇場において上演された、《旅の女<i>La Viaggiatrice</i>》(1780年度第1オペラ)、《風変わりな男<i>Lo Stravagante</i>》(1780年度第4オペラ)と題された二つのオペラ(執筆)への報酬、および、《ブドウ摘み<i>La Vendemmia</i>》(1780年度第3オペラ)と題されたスコアへの手直しへの報酬支払いを満了するものである。この支払をもって、同氏への支払いは完全に履行されたものとする。なお追記として、同ガッツァニーガ氏は、手形合計D.100について、アントーニオ・ジョーヴァネ氏への支払いとし、さらに同氏はそれをリッタ・ロンバルディ氏へと譲渡したことにより、同(ロンバルディ)氏は私(リッカルディ)へと支払いを請求するものとする。この支払をもって、ガッツァニーガ氏が私に残した上述(D.100)についての合計は満了したものとし、同契約は同(ロンバルディ)氏への支払いにおいて何等の不足金も発生していないものとする。ナポリ、1781年6月9日。アニエッロ・リッカルディ。レッティエーリ(換金担当者)。ジュゼッペ・ガッツァニーガ。</p>
78 (V-95)	BSG	2206 p.826	10-VII- 1781	<p>A Don Aniello Riccardi, Impresario del Real Teatro del Fondo di Separazione, D.20 notata a 4 corrente. Banco pagate a Giuseppe Mililotti, Poeta, e Concertatore di detto Real Teatro, e sono cioè D.12 per l'accomodo fatto nel libretto intitolato <i>il Sposo de 3, e marito di nessuna</i>, che dovrà farsi per prima opera in musica in detto Teatro, e D.8 sono in conto delli D.15 li spettano per prima rata come Concertatore, come da albarano, così pagarete. Napoli luglio 1781. Aniello Riccardi. Lettieri per altri tanti. Giuseppe Mililotti.</p> <p>王立フォンド・ディ・セパラツィオーネ劇場興行師アニエッロ・リッカルディ氏に対しD.20の信託。(1781年7月)4日付。サン・ジャコモ銀行は、同王立劇場の詩人で演出家であるジュゼッペ・ミリロッチェ氏への支払いを行うものであり、そのうちD.12については、同劇場の第1オペラとして上演しなければならない(パスクワーレ・アンフォッシ、ピエトロ・グリエルミ、およびレチタティーヴォの大部分をジュゼッペ・ジョルダノによる共同作曲オペラ)《三人との新郎、あるいは誰のものでもない夫<i>il Sposo de 3, e marito di nessuna</i>》と題された台本の修正に対する(報酬)で、一方のD.8については、契約に従い、演出家としての(1781年度年俸)第1期報酬D.15の一部金とするものである。ナポリ、1781年7月。アニエッロ・リッカルディ。レッティエーリ(換金担当者)。ジュゼッペ・ミリロッチェ。</p>
79 (V-137)	BSG	2225 p.560	12-XII- 1781	<p>Al detto (Riccardi), D.2, Tali 2 notata fede 10 dicembre 1781. Banco pagate a Don Giuseppe Mililotti, e sono per due copie fatte dal medesimo della seconda opera intitolata <i>La Fiera di Brindisi</i>. E con detto pagamento resta saldato per detta causa da me sottoscritto Impresario del Real Teatro del Fondo, ed a cautela. Napoli novembre 1781. Aniello Riccardi. Lettieri per altri tanti. Giuseppe Mililotti.</p> <p>同(アニエッロ・リッカルディ)氏に対し、D.2.40の信託。1781年12月10日付。(サン・ジャコモ)銀行は、ジュゼッペ・ミリロッチェ氏に対して、同氏が行った《ブリンディシの市場<i>La Fiera di</i></p>

				<p><i>Brindisi.</i>) (ジュゼッペ・ジョルダノー作曲) と題される年度第2オペラの2点の(台本?) 複写に対する(報酬支払い)を行うものである。この支払をもって、この件に関して私王立フوند劇場興行師(リッカルディ)からの支払いは履行されたものとする。ナポリ, 1781年11月。アニエッロ・リッカルディ。レッティエーリ(換金担当者)。ジュゼッペ・ミリロッティ。</p>
80 (V-145)	BSG	2238 p.207	13-III- 1782	<p>Al detto (Riccardi), D.9.2.10 poliza notata a 11 marzo 1782. Banco pagate a Oronzio Piero Violino, e sono per saldo, e final pagamento per tutto Carnevale 1782 non restando altro a conseguire da me sottoscritto ne per qualunque altra causa. Li febraro 1782. Aniello Riccardi. Oronzio Piero. Lettieri per altri ta</p> <p>同(アニエッロ・リッカルディ)氏に対し, D.9.50の信託。1782年3月11日付。(サン・ジャコモ)銀行は、ヴァイオリン奏者オロンツォ・ピエッロ氏に対して、1782年謝肉祭最終日までの(年俸四半期分)最終支払いを行うものである。この支払をもって、この件に関して私(リッカルディ)からの支払いは履行されたものとする。1782年2月。アニエッロ・リッカルディ。オロンツォ・ピエッロ。レッティエーリ(換金担当者)。</p>
81 (V-146)	BSG	2238 p.210	13-III- 1782	<p>Ad Aniello Ricciardi(<i>sic.</i>), D.18.2.10 poliza notata a 11 marzo 1782. E per esso a Nicola Santacroce Primo Violino(<i>sic.</i>) del Teatro del Fondo, e sono per saldo e final pagamento per tutto il prossimo passato Carnevale 1782, non restando altro a conseguire da me come per detto Teatro come per qualivoglia altra causa. Li febraro 1782. E per esso al detto Lettieri per altri tanti.</p> <p>(サン・ジャコモ銀行は) アニエッロ・リッカルディ氏に対し, D.18.50の信託。1782年3月11日付。これは、フوند劇場の首席ヴァイオリン奏者(!)であるニコラ・サンタクローチェ氏に対して、先日の1782年謝肉祭期間中の(演奏に対する報酬の、年度年俸)最終期支払いとするものである。この支払をもって、同劇場に対して、また他のすべてのことに関して私(リッカルディ)から一切の支払いは残らないものとする。1782年2月。レッティエーリ(換金担当者)。</p>
82 (V-147)	BSG	2238 p.210	13-III- 1782	<p>Al detto (Riccardi), D.13 poliza notata a 11 marzo 1782. E per esso a Don Giuseppe Mililotti, e sono a complimento di D.100 atteso li mancanti l'ha ricevuti precedentemente parte in contanti, e parte per detto vostro Banco, e tutti sono a saldo, e final pagamento di simil summa che doveva da me conseguire, tanto per aver concertato le opere in musica rappresentato in detto Teatro per tutto l'ultimo di Carnevale, quando per aver accomodato, alcuni libretti per detto tempo di maniera che col presente pagamento rimane detto Giuseppe intieramente saldato, e sodisfatto, senza che possa per qualunque altra causa altro da me pretendere, ed a cautela. Li febraro ut sudetto.</p> <p>(サン・ジャコモ銀行は) 同(アニエッロ・リッカルディ)氏に対し, D.13の信託。1782年3月11日付。これは、ジュゼッペ・ミリロッティ氏に対し, D.100の支払いを満了するもので、残りについて同氏は既に一部現金で、一部は当行発行の信託証書にて受領している。以上総額は、私(リッカルディ)から支払われなければならない(年度)の最終支払いとなるものであり、これは、謝肉祭最終日まで同劇場で上演された音楽劇の“演出concertato”を行って頂いたこと、また、同期間中にいくつかの台本の変更を行って頂いたことにたいする報酬であり、この支払をもって、ジュゼッペ氏への支払いは完全に満了され、いかなる支払いも残らないものとする。レッティエーリ(換金担当者)。</p>
83 (V-150)	BSG	2238 p.211	13-III- 1782	<p>Al detto (Riccardi), D.30 poliza notata a 11 marzo 1782. E per esso a Don Giuseppe Giordano Maestro di Cappella Napolitano, e sono complimento di D.160 atteso gl'altri D.130 l'ha ricevuti parte in contanti, e parte per detto vostro Banco, e tutti detti D.160 sono per tanti se li pagano in compenso delle sue fatighe per aver scritto in musica, in detto Real Teatro per tutto Carnevale 1782. Restando con detto pagamento ut sudetto.</p> <p>(サン・ジャコモ)銀行は、同(アニエッロ・リッカルディ)氏に対し, D.30の信託。1782年3月11日付。これは、ナポリの楽長ジュゼッペ・ジョルダノー氏に対する支払いを行うもので、この支払によりD.160を満了するものである。残るD.130について、同氏は一部現金で、また一部を当行発行の信託証書によって受領済みである。上記総額D.160は、1782年謝肉祭最終日まで同王立(フォン</p>

				ド) 劇場において、同氏が (《饗宴 <i>Il convitto</i> (sic.)》) の音楽を書く役務に対しての報酬として同氏に支払われるものである。本支払いにより (支払が満了することについて) 以下同文。
84 (V-160)	BSG	2240 p.406	15-III- 1782	<p>Al detto (Riccardi), D.20 notata 13 marzo '82. Pagate a Giuseppe Giordani Maestro di Cappella, e sono per un regalo fattoli per la composizione della terza posta in musica del medesimo intitolata <i>Il Convitto</i>(sic.) non restando altro a conseguire per la medesima atteso me lo ha regarato, ed a cautela. Napoli febraro '82. Aniello Riccardi. Lettieri per altri tanti. Giuseppe Giordani.</p> <p>(サン・ジャコモ) 銀行は、同 (アニエッロ・リッカルディ) 氏に対し、D.20の信託。1782年3月13日付。これは、楽長ジュゼッペ・ジョルダノ氏に対する支払いを行うもので、これは、《饗宴<i>Il convitto</i>(sic.)》と題され、同氏によって音楽が付けられ、(本劇場年度) 第3オペラとして作曲されたことに対する彼への“贈り物”(おそらくは追加作業としての過去作品の修正加筆に対する報酬: 史料86参照) として支払われるもので、この支払をもって、同氏への私 (リッカルディ) からの贈呈は他に一切ないものとする。1782年2月。アニエッロ・リッカルディ。レッティエーリ (換金担当者)。ジュゼッペ・ジョルダノ。</p>
85 (V-193)	BSG	2240 p.413	15-III- 1782	<p>Al detto (Riccardi) D.18 notata 13 marzo '82. Pagate a Giuseppe Mililotto Poeta, e Concertatore del detto Teatro non restando altro a conseguire per saldo di tutte le sue fatiche fatte, e facienze come Poeta, e Concertatore del Con(vitt?)o Teatro se non che soli D.12 per tutto il corso teatrale di questa annata terminanda nel fine del prossimo venturo Carnevale 1782. Quali D.12 di saldo mi obbligo pagati al detto Mililotto per il dì 20 di questo corrente mese di gennaio 1782, ed a comune cautela. Napoli gennaio 1782. Aniello Riccardi. Lettieri per altri tanti. Giuseppe Mililotti.</p> <p>同 (アニエッロ・リッカルディ) 氏に対し、D.18の信託。1782年3月13日付。(サン・ジャコモ銀行は)、同 (王立フォント) 劇場付台本作家にして、演出家 (concertatore) ジュゼッペ・ミロロッチイ氏に対し支払いを行うもので、来る1782年謝肉祭最終日に終了する本劇場年度において、同氏が同劇場の台本作家、演出家として、現在行っている、そして完了した同氏のすべての役務に対しての最終支払いであり、残る支払い額はわずかD.12である。ナポリ、1782年1月。アニエッロ・リッカルディ。レッティエーリ (換金担当者)。ジュゼッペ・ミロロッチイ。</p>
86 (V-194)	BSG	2240 p.413	15-III- 1782	<p>Al detto (Riccardi) D.20 notata 13 marzo 1782. Pagate a Giuseppe Giordano, e sono a complimento di D.110 ed a conto di D.160 deve conseguire per la musica del medesimo fatta nel Teatro del Fondo de Lucri di dove ne sono io l'attualmente Impresario intitolata <i>La Fiera di Brindisi</i> non restando altro a conseguire che soli D.50 con dichiarazione che resta il medesimo saldato, e sodisfatto anche per gl'accomodi alla passata opera intitolata <i>Lo Sposo di tre</i>, e così pagate. Napoli gennaio '82. Aniello Riccardi. Lettieri per altri tanti. Giuseppe Giordano.</p> <p>同 (アニエッロ・リッカルディ) 氏に対し、D.20の信託。1782年3月13日付。(サン・ジャコモ) 銀行は、ジュゼッペ・ジョルダノ氏へ支払いを行うもので、これは、D.110の支払いを満了するものである。これは、同氏が、私 (リッカルディ) が現在興行師を務めるフォント劇場において、同氏によって作曲された《プリンディシの市場<i>La Fiera di Brindisi</i>》と題された (1781年度第2オペラの) 音楽の作曲に対する報酬支払総額D.160の一部金となるものであり、残るD.50以外に一切の支払いは残らないものとする。また、過去の《三人との新郎、あるいは誰のものでもない夫<i>il Sposo de 3, e marito di nessuno</i>》(1781年度第1オペラ、アンフォッシ&グリエルミ作曲) と題されたオペラへの修正 (作曲) についても、この支払によって同様に同氏への支払いが満了されたことを付記するものである。ナポリ、1782年1月。アニエッロ・リッカルディ。レッティエーリ (換金担当者)。ジュゼッペ・ジョルダノ。</p>

1781

ヌオーヴォ劇場関連史料

興行師ジェンナーロ・ブランキによる支払い文書

[1781年1月—7月期換金記録: 基本台帳foglio 5886, 6315, 9708 に基づく]

TEATRO NUOVO SOPRA TOLEDO

Pagamenti effettuati dall'Impresario GENNARO BLANCHI

[I pagamenti incassati dal gennaio al luglio 1781, sono riportati sul Libro Maggiore: foglio 5886, 6315, 9708]

87 (VI-6)	BSG	2198 pp.230- 231	6-II- 1781	<p>A Don Gennaro Bianchi, D.20 fede primo febbraio 1781. Li pagarete a Don Giacomo Tritto Maestro di Cappella Napolitano dite sono a compimento di D.42 atteso l'altri D.22 l'ha ricevuti antecedentemente contanti, e tutti gli sudetti D.42 sono in conto de' D.84, che se gli devono per la composizione della musica fatta nella comedia, che sta prossima andare in scena per quarta nel Teatro Nuovo di cui sono Conduttore ed Impresario nel cadente anno teatrale terminando l'ultimo giorno del corrente Carnevale di questo principiato anno 1781 del qual io devo pagare la composizione della musica de recitativi, dovendoli pagare l'altri D.42 nel corso, che l'espressata opera o sia comedia intitolata <i>La Bellinda</i> si rappresenterà. Notata li primo febbraio 1781. Gennaro Bianchi. a me medesimo Giacomo Tritto.</p> <p>(サン・ジャコモ銀行は) ジェンナーロ・ブランキ氏に対しD.20の信託 1781年2月1日付. ナポリの楽長のジャコモ・トリット氏に対する支払いを行うものであり, これは, D.42の支払いを満了するものである. 残るD.22について, 同氏は以前に現金で受領しており, 上記総額D.42は, 私 (ブランキ) が興行師と経営を行うヌオーヴォ劇場年度第4オペラ (チェルローネ台本《ベッリンダ、或いは忠実な野菜売り <i>La Bellinda o l'ortolana fedele</i>》) として, 来年1781年初頭の謝肉祭シーズン最終日に (年度が) 終了するまで上演される喜劇に, 音楽を作曲したことに対する報酬である. なお, 私 (ブランキ) は同 (トリット) 氏に対してさらにD.42を, これから上演されるであろう《ベッリンダ <i>La Bellinda</i>》と題された喜劇において, レチタティーヴォを作曲したことに対する報酬として支払うものとする. ナポリ, 1781年2月1日, 公証人立会いの下契約. ジェンナーロ・ブランキ. ジャコモ・トリット.</p>
88 (VI-12)	BSG	2193 p.424	16-II- 1781	<p>Al detto (Blanchi), D.8 notata 14 febbraio 1781. Cioè Banco pagarete a Don Saverio del Giudice, e detti sono per la seconda rata dell'opera in musica rappresentatasi nel Teatro Nuovo sopra Toledo di cui sono Conduttore, ed Impresario intitolata <i>Il Principe Riconosciuto</i> e per farsa <i>La Marinella</i>, restando sodisfatto del passato, e così pagate. Notata li 13 febbraio 1781. Gennaro Bianchi. Lettieri per altri tanti. Saverio del Giudice.</p> <p>同 (ジェンナーロ・ブランキ) 氏に対しD.8の信託 1781年2月14日付. (サン・ジャコモ) 銀行はサヴェーリオ・デル・ジューディチェ氏への支払いを行うものである. これは, 私 (ブランキ) が経営と興行師を務めるトレド通り上ヌオーヴォ劇場において上演するオペラへの年俸第2期支払いとするもので, 《身分が明らかとなった王子 <i>Il Principe Riconosciuto</i>》 (ジャコモ・トリット作曲) と題されたオペラへの (ヴィオラ/ヴァイオリン奏者としての) 出演料となる. 1781年2月13日公証 ジェンナーロ・ブランキ. レッティエーリ (換金担当者). サヴェーリオ・デル・ジューディチェ.</p>
89 (VI-61)	BSG	2209 p.91	4-VII- 1781	<p>A Gennaro Bianchi, D.25 fede 22 settembre 1779. E per me a Don Michele Nasci Primo Violino del Teatro Nuovo sopra Toledo, dite glieli pago per la quarta, ed ultima rata dell'opera in musica rappresentatasi nel sudetto Teatro intitolata <i>L'Avaro</i>, e terminata l'ultimo giorno di Carnevale corrente anno 1779. Restando sodisfatto di tutto il passato, e così pagarete. Notata li 22 settembre 1779. Gennaro Bianchi. Ferrara per altri tanti. Michele Nasci.</p> <p>(サン・ジャコモ銀行は) ジェンナーロ・ブランキ氏に対しD.25の信託 1779年9月22日付. これは, 私よりトレド通り上ヌオーヴォ劇場の首席ヴァイオリン奏者ミケーレ・ナーシ氏への支払いであり, これは, 本年1779年謝肉祭最終日に終了する本 (1778) 年度 (第4オペラ) として上演された音楽劇 (アンフォッシ&クルツィ作曲) 《ケチな男 <i>L'Avaro</i>》 (における演奏に対する, 年俸の四半期分である) 第4期にして最終支払いである. 以上, 過去分についても支払い満了したものとする. 1779年9月22日付署名. ジェンナーロ・ブランキ. フェッラーラ (換金担当者). ミケーレ・ナーシ.</p>
90	BSG	2209	4-VII-	<p>Al detto (Blanchi), D.13.2.10 fede 25 settembre 1779. E per me a Don Gasparo Stender, dite sono</p>

(VI-62)	pp.91-92	1781		<p>cioè D.6.1/2 per saldo, e final pagamento della quarta, ed ultima rata dell'opera in musica rappresentatasi nel Teatro Nuovo sopra Toledo di cui sono Cconduttore, ed Impressario intitolata <i>L'Avaro</i>, e terminata l'ultimo giorno di Carnevale corrente anno 1779, e gli restanti D.7 sono per saldo della prima rata dell'opera in musica rappresentatasi nel medesimo Teatro intitolata <i>Il Furbo Mal'accorto</i> nel corrente anno teatrale, e terminar deve l'ultimo giorno di Carnevale entrante anno 1780, e così (pagarete). Notata li 23 settembre 1779. Gennaro Bianchi. Ferrara per altri tanti. Gasparo Stender.</p> <p>同 (ジェンナーロ・ブランキ) 氏に対しD.13.50の信託 1779年9月25日付. (サン・ジャコモ銀行は) ガスパロ・ステンデル氏への支払いを行うものであり, うち,D.6.50については, 私 (ブランキ) が経営者にして興行師を務めるトレド通り上ヌオーヴォ劇場において, 本年1779年謝肉祭最終日に終了した《ケチな男<i>L'Avaro</i>》(アンフォッシ&クルツィ作曲)と題された(年度第4)音楽劇(における演奏に対する報酬として), 年度第4期にして最終支払いを完了する支払いであり, 一方D.7については, 1780年初頭の謝肉祭最終日に終了する本年劇場年度における, 《頭の悪いズルい男<i>Il Furbo ma'accorto</i>》(パイジェット作曲)と題された(第1オペラ)としての音楽劇(における演奏に対する, 年俸の四半期分である)第1期支払いを完了するものである. ナポリ, 1779年9月23日. ジェンナーロ・ブランキ. フェッラーラ (換金担当者). ガスパロ・ステンデル.</p>
91 (VI-63)	BSG p.92	2209 1781	4-VII-	<p>A Gennaro Bianchi, D.25, fede 22 dicembre 1779. E per me a Don Michele Nasci Primo Violino del Teatro nuovo sopra Toledo di cui sono Conduttore, ed Impressario, e sono per la prima rata dell'opera in musica rappresentatasi nel Teatro sudetto intitolata <i>Il Furbo Mal'Accorto</i>. Restando sodisfatto di tutte le rate, ed annate passate, e così (pagarete). Notata li 22 dicembre 1779. Gennaro Bianchi. Ferrara per altri tanti. Michele Nasci.</p> <p>(サン・ジャコモ銀行は) ジェンナーロ・ブランキ氏に対しD.25の信託 1779年12月22日付. 私 (ブランキ) は, 私が経営者にして興行師を務めるトレド通り上ヌオーヴォ劇場の首席ヴァイオリン奏者であるミケーレ・ナーシ氏への支払いを行うが, これは, 同劇場で上演された《頭の悪いズルい男<i>Il Furbo ma'accorto</i>》(パイジェット作曲)と題される(第1オペラ)としての音楽劇(における演奏に対する, 年俸の四半期分である)第1期支払いを完了するものである. 以上をもって, 過去年度の過去分支払いについてもすべて満了したものとする. ナポリ, 1779年12月22日. ジェンナーロ・ブランキ. フェッラーラ (換金担当者). ミケーレ・ナーシ.</p>
92 (VI-64)	BSG p.92	2209 1781	4-VII-	<p>Al detto (Bianchi), D.25 fede 23 dicembre 1779. E per me a Don Michele Nasci Primo Violino del Teatro nuovo sopra Toledo di cui sono Conduttore, ed Impressario e dite sono per saldo della seconda rata dell'opera in musica rappresentatasi nel sudetto Teatro intitolata <i>I Sposi incogniti</i>: restando sodisfatto del passato, e così (pagarete). Notata li 23 dicembre 1779. Gennaro Bianchi. Ferrara per altri tanti. Michele Nasci.</p> <p>(サン・ジャコモ銀行は) 同 (ジェンナーロ・ブランキ) 氏に対しD.25の信託 1779年12月23日付. 私 (ブランキ) は, 私が経営者にして興行師を務めるトレド通り上ヌオーヴォ劇場の首席ヴァイオリン奏者であるミケーレ・ナーシ氏への支払いを行うが, これは, 同劇場で上演された《未知の新郎たち<i>I Sposi incogniti</i>》(ガエターノ・ラッティツラ作曲)と題される(第2オペラ)としての音楽劇(における演奏に対する, 年俸の四半期分である)第2期支払いを完了するものである. 以上をもって, 過去分支払いについてもすべて満了したものとする. ナポリ, 1779年12月23日. ジェンナーロ・ブランキ. フェッラーラ (換金担当者). ミケーレ・ナーシ.</p>

1784

フィオレンティーニ劇場関連史料

興行師ジュゼッペ・コレッタによる支払い文書

[1784年1月—7月期換金記録: 基本台帳 foglio 6166, 7664, 7666に基づく]

TEATRO DE' FIORENTINI

Pagamenti effettuati* dall'Impresario GIUSEPPE COLETTA

[I pagamenti incassati dal gennaio al luglio 1784 riportati sul Libro Maggiore II: foglio 6166, 7664, 7666]

93 (VIII-1)	BSG	2319 p.31	3-1- 1784	<p>A Giuseppe Coletta, D.50 fede 20 dicembre 1783. E per me a Don Domenico Cimarosa Maestro di Musica dite sono in compenso de' suoi incomodi, e fatighe in aver dovuto fare 4 pezzi di musica nuovi per incorporarli alla sua opera che si rappresenta nel Teatro de Fiorentini intitolata <i>Chi dell'altrui si veste presto si spoglie</i>, in persona del Primo Buffo Don Gennaro Luzio restando per tal causa saldato e sodisfatto si sta presente causa come delli D.330 pagatili per l'intera musica di detta opera. Quali D.50 li pago di mio proprio denaro rimborzarmeli dalle rendite di detto Teatro. E così pagate. 21 dicembre 1783. Giuseppe Coletta. Domenico Cimarosa.</p> <p>(サン・ジャコモ銀行は) ジュゼッペ・コレッタ氏に対しD.50の信託。1783年12月20日付。これは作曲家ドメニコ・チマローザ氏への支払いとするもので、フィオレンティーニ劇場で上演された(1782年度第3オペラ)《他人のふりはすぐばれる<i>Chi dell'altrui si veste presto si spoglie</i>》と題された彼のオペラにおいて、<u>ブッフオ歌手ジェンナーロ・ルツィオ氏が(歌う)ために追加されることとなった4つの新曲の作曲に対する報酬支払の一部金となるものであり、この支払をもって、この仕事への支払は満了されるが、また、同オペラ全体の報酬となるD.330についても同様支払いは履行されたものとする。</u>なお、同D.50について、私(コレッタ)は自己資金で同(チマローザ)氏へ支払いを行うものであるが、後に同劇場の売上金から返金されるものとする。1783年12月21日。ジュゼッペ・コレッタ。ドメニコ・チマローザ。</p>
94 (VIII-15)	BSG	2325 p.202	2-III- 1784	<p>A Giuseppe Coletta, D.11 notata a 28 febraro. Banco pagarete a Giovanni Battista Daniele, D.11 a complimento di D.44 mentre l'altri D.33 l'ha il medesimo Daniele ricevuti in tre altre rate di D.11 l'una. E tutti detti D.44 sono in saldo, e final pagamento dell'annui principiata da Pasqua di Resurrezione 1783, e terminanda all'ultimo Carnevale 1784, che però per la sudetta annata resta saldato, e sodisfatto con dichiarazione che detti D.44 da me sono stati pagati di mio proprio danaro per ripeterli ed introitarmeli dalle rendite di detto Teatro, ed in mancanza da Francesco Milzi, e Giovanni Angelo Colamatteo interessati del medesimo, che però restino cedute in mio beneficio le ragioni di detto Daniele. E con altra dichiarazione che detti D.11 da me si pagano in isconto e da sopra il deposito D.1,200 da me fatto nell'Udienza degli Eserciti per cautela dell'orchestra, e cantanti di detto Teatro, e così (pagarete). Giuseppe Coletta. al detto Ferrara per altri tanti. Giovanni Battista Daniele.</p> <p>ジュゼッペ・コレッタ氏に対しD.11の信託。(1784年)2月28日付。(サン・ジャコモ銀行は)ジョヴァンニ・バッティスタ・ダニエーレに支払いを行うが、これによってD.44の支払いを満了するものである。残るD.33について、同ダニエーレ氏は、毎期D.11として(3回にわたって)既に受領済である。上記総額D.44は、1783年復活祭より始まり、1784年謝肉祭最終日に終了する(1783年度劇場年度)年俸の第4期にして最終支払いである。同年度年俸について、ここに支払い満了されるが、以下に条件を付す。それは、上記報酬総額D.44の支払いは、フィオレンティーニ劇場の収益から返金されるものとして私(コレッタ)自身の資金により支払われるが、万一不足が起きた場合は、当(コレッタ)と関係するフランチェスコ・ミルツァ氏、ジョヴァンニ・アンジェロ・コラマッテオ氏から補填されることになっているが、同ダニエーレ氏の権利に関しては、引き続き私(コレッタ)の収益から支払われる義務となっている。そしてもう一つの条件は、私(コレッタ)から支払われる上記D.11については、私(コレッタ)自身が王立軍事裁判所に預けている、同劇場所属オーケストラと歌手のための保険としての供託金D.1,200より差し引かれて支払われるものとする。ジュゼッペ・コレッタ・フェッラーラ(換金担当者)。ジョヴァンニ・バッティスタ・ダニエーレ。</p>

95 (VIII-29)	BSG	2319 pp.325- 326	15-III- 1784	<p>A Giuseppe Coletta, D.10 notata fede a 28 febrero 1784. Banco li pagarete al Signor Giuseppe Zito, Oboè del Teatro de' Fiorentini, a complimento di D.40, mentre l'altri di D.30 l'ha il detto Zito da me ricevuto in tre altre rate D.10 l'una, e tutti di D.40 sono in saldo e final pagamento dell'annata principiata da Pasqua di Resurrezione del passato anno 1783 terminanda all'ultimo di Carnevale del sottoscritto corrente anno che per tutta la sudetta annata resta saldato, e sodisfatto con dichiarazione, che di D.40 da me sono stati pagati da proprio mio denaro per ripeterli ed introitarmeli dalle rendite di detto Teatro ed in mancanza delli Signori Don Francesco Milza, ed Giovanni Angelo Colamatteo interessati dal medesimo che però restando ceduto in mio beneficio le ragioni di detto Zito, e ed altra dichiarazione che detti D.10 da me si pagano in isconto, e da sopra il depositato di D.1,200 da me fatto nella Generale Udienza degl'Eserciti per cautela dell'orchestra e cantanti del sudetto Teatro e così pagarete. Li febrero 1784. Giuseppe Coletta. Lettieri per altri tanti. Giuseppe Zito autentica di Notar Nunziante Abbate di Napoli.</p> <p>ジュゼッペ・コレッタ氏に対しD.10の信託。1784年2月28日付。(サン・ジャコモ銀行は)フィオレンティーニ劇場オーボエ奏者ジュゼッペ・ヅィート氏への支払いを行うものであり、これによってD.40の支払いを満了するものである。残るD.30について、同ヅィート氏は、每期D.10として3回にわたって既に受領済である。上記総額D.40は、1783年復活祭より始まり、1784年謝肉祭最終日に終了する(1783年度劇場年度)年俸の第4期にして最終支払いである。同年度年俸について、ここに支払い満了されるが、以下に条件を付す。それは、上記報酬総額D.40の支払いは、フィオレンティーニ劇場の収益から返金されるものとして私(コレッタ)自身の資金により支払われるが、万一不足が起きた場合は、当(コレッタ)と関係するフランチェスコ・ミルヅァ氏、ジョヴァンニ・アンジェロ・コラマッテオ氏から補填されることになっているが、同ヅィート氏の権利に関しては、引き続き私(コレッタ)の収益から支払われる義務となっている。そしてもう一つの条件は、私(コレッタ)から支払われる上記D.10については、私(コレッタ)自身が王立軍事裁判所に預けている、同劇場所属オーケストラと歌手のための保険としての供託金D.1,200より差し引かれて支払われるものとする。1784年2月。ジュゼッペ・コレッタ。レッティエーリ(換金担当者)。ジュゼッペ・ヅィート。ナポリ市公証人ヌンツィアンテ・アッバーテによる証明。</p>
96 (VIII-31)	BSG	2320 pp.415- 416	16-III- 1784	<p>A Giuseppe Coletta, D.50 notata a 17 febrero 1784. Banco pagate a Don Giambattista Lorenzi, dite sono in conto de D.150 prezzo di un libro, che dovrà fare per la prima opera in musica da rappresentarsi nella primavera di questo corrente anno, in uno de Teatri Buffi di questa città di cui ne sarò io Impresario giusta la scrittura alla quale (si riferisce), e così pagate. Napoli febrero 1784. Giuseppe Coletta. Al detto Ferrara per altri tanti. Giambattista Lorenzi.</p> <p>(サン・ジャコモ銀行は)ジュゼッペ・コレッタ氏に対しD.50の信託。1784年2月17日付。これはジャンバッティスタ・ドレンツィ氏への支払いとするもので、同(1784)年春に、私が興行師を行うであろうこの町(ナポリ)の喜劇劇場の一つ(*信託時点で、まだ経営する劇場が決まっていない)において上演させなくてはならない第1オペラ(*フィオレンティーニ劇場第1オペラ、チマローザ作曲《偽りの見せかけL'Apparenza inganna》)への台本への報酬D.150の一部金とするものである。詳細は契約書を参照のこと。1784年2月、ナポリ。ジュゼッペ・コレッタ。フェッラーラ(換金担当者)。ジャンバッティスタ・ロレンツィ。</p>
97 (VIII-32)	BSG	2320 p.448	16-III- 1784	<p>A Giuseppe Coletta, D.11 notata a 8 marzo 1784. Banco pagate a Don G(iaco)mo Tritta, Maestro di Capella Napoitano, e sono per tanti dal medesimo pagati di più per partire da questa città col corriere per portarsi nella città di Roma dopo li concerti fatti per la quarta opera rappresentata nel Teatro de Fiorentini nel caduto Carnevale di questo corrente anno intitolata <i>Li Due Gemelli</i>, e <i>La Scuffiara</i>. Qual pagamento da me si fa di mio proprio denaro per ripeterlo da ch'è spetta, ed ordine della Deputazione de' Teatri, e Spettacoli, in forza d'app(untament)o in data de 5 del corrente mese di marzo, restando detto Don Giacomo saldato, e sodisfatto senz'aver altro che pretendere si per questo, che per qualsivoglia altra causa, e così pagate. Napoli marzo 1784. Giuseppe Coletta. Al detto Ferrara per altri tanti. Giacomo Tritta(sic.).</p>

ジュゼッペ・コレッタ氏に対しD.11の信託。1784年3月8日付。(サン・ジャコモ)銀行はナポリ人の楽長ジャコモ・トリット氏への支払いを行うものである。これは、同氏が、本年謝肉祭期間中、フィオレンティーニ劇場にて《二人の双子*Li due gemelli*》、《帽子の女*La scuffiara*》と題された(1783年度)第4オペラの演奏会を行った後、この街(ナポリ)から、急行馬車*comere*でローマへ移動するためのものとして支払いを行うものである。この支払は、同(1784)年3月5日付の王立劇場委員会の命によって、私(コレッタ)により私(コレッタ)の自己資金によって行われるものである。この支払をもって、ジャコモ・(トリット)氏に対して、過去の他のものについても同様、すべての支払いは履行されたものとする。ナポリ、1784年3月。ジュゼッペ・コレッタ。フェッラーラ。ジャコモ・トリット。

98 (VIII-40)	BSG	2325 p.241	23-III- 1784	<p>A Giuseppe Coletta. D.100 notata a primo corrente (marzo 1784). Banco pagarete D.100 a Domenico Cimarosa Maestro di Cappella Napoletano, e sono in conto delli D.330 paga promesseli per le composizione della nuova musica, che il medesimo dovrà fare per la prima opera che si dovrà rappresentare in uno de' Teatri Buffi di questa città di cui ne sarò Impresario, dopo l'imminente Pasca(sic.) di Resurrezione di questo corrente anno giusta la scrittura, che si conserva da Don Nunziante Abbate alla quale (si riferisce), e così (pagarete). Giuseppe Coletta.</p> <p>In dorso della questa polisa v'è memoriale per Don Domenico Cimarosa. In piedi del quale vi è decreto: <i>Die 6 martis 1784 Neapoli. Per su (***) vivo supradictum memoliali, fuit provisionem et declat quod liceat, et licitum sit supradictum recipere per medium restroscriti Banci repra summa citra tamen prejudizium iurim ambarum partium hoc in (***) Vargas Maciucca Vitale. Carcasius. Notata fede a 6 marzo 1784 Napoli da Carlo Brigida P(***) di Napoli. Ho notificato il Maestro Giuseppe Coletta domini, e lasciatoli copia al detto Impresario per Domenico Cimarosa.</i></p> <p>ジュゼッペ・コレッタ氏に対しD.100の信託。(1784年3月1日付。(サン・ジャコモ)銀行はナポリ人作曲家ドメニコ・チマローザ氏への支払いを行うものであり、これは、本年復活祭以降、私(コレッタ)がこの街(ナポリ)で経営することになっている喜劇劇場の一つにおいて上演させなければならない第1オペラ《偽りの見せかけ<i>L'Apparenza inganna</i>》)に対して、同(チマローザ)氏が新たな音楽を作曲することに対しての約束された報酬D.330の一部金となるものであり、本支払いに関わる契約書については、公証人ヌンツィアンテ・アッパーテ氏が保管するものとする。ジュゼッペ・コレッタ。</p> <p>なお、以下この証券裏には、ドメニコ・チマローザ氏に対する裏書が書かれている。1784年3月6日付。[以下、翻訳は本支払いとは無関係のため省略]</p>
99 (VIII-47)	BSG	2319 p.470	3-IV- 1784	<p>A Giuseppe Coletta, D.10 notata fede a primo aprile 1784. Banco li pagarete a Signor Michele de Simone a complimento di D.20, mentre li mancanti D.10 l'ha da me ricevuti in contanti, e sono li stessi che conseguir dovea da Don Pasquale Mililotti Concertatore nell'anno scorso nel Teatro de Fiorentini ed ordine dell'Eccellentissima Deputazione de Teatri, e Spettacoli da me si pagati a detto Signor Simone ed in saldo dell'annata di D.60, spettata pagarsi al detto Signor Mililotti e così pagarete. Li aprile 1784. Giuseppe Coletta. A me medesimo Michele de Simone, autentica di Notar Vincenzo Cipro di Napoli.</p> <p>ジュゼッペ・コレッタ氏に対しD.10の信託。1784年4月1日付。(サン・ジャコモ)銀行はミケーレ・デ・シモーネ氏への支払いD.20を満了とするもので、残額D.10については、同氏は現金にて受領済みである。これは、昨年度フィオレンティーニ劇場で演出家であったバスクワーレ・ミリロッティ氏への報酬とするもので、国家劇場委員会により、私(コレッタ)が同シモーネ氏に支払うことが命じられているものである。そしてこれは、ミリロッティ氏が受け取るべき年俸D.60の一部金となるものである。1784年4月。ジュゼッペ・コレッタ。ミケーレ・デ・シモーネ。ナポリ市公証人、ヴァインツェンツォ・チープロ。</p>
100 (VIII-48)	BSG	2320 pp.548-	5-IV- 1784	<p>A Giuseppe Coletta, D.11.2.10 notata fede a 28 febraro 1784. Banco pagate a Giovanni Zito Oboe del Teatro de Fiorentini, D.11.50 l'una. E tutti detti D.46 sono a saldo dell'annata principaita da</p>

549

Pasqua di Resurrezione 1783, e terminanda all'ultimo di Carnevale del corrente anno che però resta sodisfatto di detta annata con dichiarazione che detti D.46 da me sono stati pagati di mio proprio denaro per ripeterli dalle rendite di detto Teatro, ed in mancanza, da Don Francesco Milza, e Don Giovanni Angelo Colamatteo interessati del medesimo, che però restano ceduti in mio beneficio le ragioni di detta retta e con altra dichiarazione che detti D.11.50 da me si pagano in secondo da sopra del deposito da me fatto nella Regia Udienza del Esercito per cautela d'Orchestra, e Cantanti, e così pagate. Napoli, febraro 1784. Giuseppe Coletta. al detto Lettieri per altri tanti. Giovanni Zito.

ジュゼッペ・コレッタ氏に対しD.11.50の信託。1784年2月28日付。(サン・ジャコモ)銀行は、フィオレンティーニ劇場オーボエ奏者ジョヴァンニ・ツィート氏への(年俸四半期払いの)一期払いとしてのD.11.50を行うものであり、上記総額となるD.46は、1783年復活祭より始まり、1784年謝肉祭最終日に終了する(1783年度劇場年度)年俸の一部となるものである。ただし、以下の条件を付す。それは、上記報酬総額D.46の支払いは、フィオレンティーニ劇場の収益から返金されるものとして私(コレッタ)自身の資金により支払われるが、万一不足が起きた場合は、当(コレッタ)と関係するフランチェスコ・ミルツァ氏、ジョヴァンニ・アンジェロ・コラマッテオ氏から補填されることになっているが、同氏の経費に関しては、引き続き私(コレッタ)の収益から支払われる義務となっている。そしてもう一つの条件は、私(コレッタ)から支払われる上記D.11.50については、私(コレッタ)自身が王立軍事裁判所に預けている、同劇場所属オーケストラと歌手のための保険としての供託金D.1,200より差し引かれて支払われるものとする。1784年2月。ジュゼッペ・コレッタ。レッティエーリ(換金担当者)。ジョヴァンニ・ツィート。

101 (VIII-61)	BSG	2324 p.741	5-V- 1784	<p>A Giuseppe Coletta, D.50 fede 23 aprile 1784. E per me a Don Pietro Napoli Signorelli, in conto di D.150 paga promessali in compenso delle sue virtuose fatiche in dover formare la poesia di un Libretto Buffo in Musica, e le dovrà servire per seconda opera da rappresentarsi nel Teatro de Fiorentini nella prossima imminente età di questo corrente anno, giusta la scrittura a resto sottoscritto giorno stipulata per Notar Nunzianta Abate di Napoli, al quale (si riferisce), e così pagarete. Notata fede a 23 aprile 1784. Giuseppe Coletta. Pietro Napoli Signorelli.</p> <p>(サン・ジャコモ銀行は) ジュゼッペ・コレッタ氏に対しD.50の信託。1784年4月23日付。これはピエトロ・ナポリ＝シニョレッリ氏への支払いを行うもので、本年夏にフィオレンティーニ劇場で上演する第2オペラ(*ピエトロ・グリエルミ作曲《偽の愛<i>Ifinti amori</i>》)への喜劇オペラ用台本の作詞に対する同氏の職人技に対する報酬として約束されたD.150の一部金とするものである。本支払いに関する契約は、ナポリ市公証人ヌンツィアンテ・アッパーテ氏によって結ばれ、詳細は同公証文書参照のこと。1784年4月23日公証。ジュゼッペ・コレッタ。ピエトロ・ナポリ＝シニョレッリ。</p>
102 (VIII-63)	BSG	2325 p.409	6-V- 1784	<p>A Giuseppe Coletta, D.130 notata fede a 4 maggio corrente. Banco pagarete a Don Domenico Cimarosa Maestro di Cappella Napoletano, D.130 contanti, a complimento di D.230, mentre li mancanti D.100 l'ha il medesimo ricevuti per mezzo di detto vostro Banco con polisa notata fede in testa mia del primo passato marzo del sottoscritto corrente anno, ed in conto delli D.330 paga promessali per la nuova musica, che il medesimo presentemente sta costruendo per dovere andare in scena nel Teatro de' Fiorentini per prima d'opera di questo corrente anno, giusta la scrittura alla quale (si riferisce). E così pagarete, e non altrimenti. Notata fede 30 aprile 1784. Giuseppe Coletta. E per me al Don Romualdo Romeo per detto Domenico Cimarosa. A me medesimo Romualdo Romeo.</p> <p>(サン・ジャコモ銀行は)、ジュゼッペ・コレッタ氏に対しD.130の信託。同(1784年)5月4日付。当銀行は、ナポリ人の楽長ドメニコ・チマローザ氏に対し現金にてD.130の支払いを行うものである。これは、D.230の支払いを満了するものであり、残額D.100については、すでに同氏は、同行より同様の方法で受け取っており、記載の年(1784年)3月に、私(コレッタ)の名前により作成された当行発行の信託証書にて受領済である。これは、(別紙公証文書を参照のとおり)、同氏が現在制作中の、フィオレンティーニ劇場本年(1784年度)第1オペラ(チマローザ作曲《欺きの外見</p>

				<p><i>L'Apparenza inganna</i>)) として上演しなければならない新しい音楽に対して約束された報酬D.330の一部金である。1784年4月30日。ジュゼッペ・コレッタ。ロムアルド・ロメーオより、同ドメニコ・チマローザ氏へ、ロムアルド・ロメーオ (換金担当者)。</p>
103 (VIII-69)	BSG	2327 p.636	10-V- 1784	<p>Al detto (Coletta), D.20 notata 4 maggio corrente (1784). Banco pagarete a Don Giuseppe Benevento Cembalista del Teatro de Fiorentini cioè D.10 d'essi per la prima rata che da me se li paga anticipatamente che maturar deve a levata di cartello della prima opera qual Cimbalista(<i>sic.</i>) del medesimo Teatro, e D.10 per l'importo di tutti li recitative fatti, e faciendi di detta prima opera che presentemente dovrà andare in scena. E così (pagarete). Napoli maggio '84. Giuseppe Coletta. Imparato per altri tanti. Giuseppe Benevento.</p> <p>同 (ジュゼッペ・コレッタ) 氏に対しD.20の信託 (1784年) 5月4日付。 (サン・ジャコモ) 銀行は、フィオレンティーニ劇場チェンバロ奏者、ジュゼッペ・ベネヴェント氏への支払いを行うものである、うち、D.10については、同劇場のチェンバロ奏者として第1オペラ期間中 (演奏したことに対する報酬) として、私 (コレッタ) より前金として払われる (年俸) 第1期払いであり、一方のD.10は、<u>現在上演予定の第1オペラ (チマローザ作曲《欺きの外見<i>L'Apparenza inganna</i>) のために同氏が作曲している、そして作曲したレチタティーヴォ (部分) についての報酬合計である。</u> ナポリ、1784年5月。ジュゼッペ・コレッタ。インバラート (換金担当者。ジュゼッペ・ベネヴェント。</p>
104 (VIII-83)	BSG	2326 p.474	3-VI- 1784	<p>A Giuseppe Coletta, D.10 notata fede a primo marzo 1784. Vostro detto Banco pagarete a Giuseppe Benevento Cembalista del Teatro de Fiorentini, a complimento di D.40 mentre l'altri D.30 l'ha il detto Benevento da me ricevuti in 3 altre rate di D.10 l'una, e tutti detti D.40, sono in saldo, e final pagamento dell'annata principiate da Pasqua di Ressurrezzione del passato anno 1783, e terminanda all'ultimo del Carnevale del sottoscritto corrente anno, che per la sudetta annata resta saldato e soddisfatto; con dichiarazione, che detti D.40 da me sono stati pagati di mio proprio denaro per ripeterli, ed introitarmeli dalle rendite di detto Teatro, con in mancanza dalli Signori Don Francesco Milza, e Don Giovanni Colamatteo intesressati del medesimo, che però restino cedute in mio beneficio le ragioni di detto Benevento, e con altra dichiarazione che detti D.10 da me si pagano in isconto, e da sopra li deposito da me fatto nella Generale Udienza degl'Eserciti per cautela dell'orchestra, e cantanti del sudetto Teatro, e così pagarete e non altrimenti. Notata li febraro 1784. Giuseppe Coletta.</p> <p>ジュゼッペ・コレッタ氏に対しD.10の信託。1784年3月1日付。 (サン・ジャコモ) 銀行は、フィオレンティーニ劇場チェンバロ奏者、ジュゼッペ・ベネヴェント氏への支払いを行うものであり、この支払をもってD.40の支払いを満了するものである。残るD.30について、同ベネヴェント氏は、各期D.10ずつ、3回にわたって既に受領しており、上記総額D.40は、1783年復活祭より始まり現 (1784) 年謝肉祭最終日に終了する (1783) 劇場年度に対する年俸の最終支払を満了するものである。ただし、以下の条件を付す。それは、上記報酬総額D.40の支払いは、同劇場の収益から返金されるものとして私 (コレッタ) 自身の資金により支払われるが、万一不足が起きた場合は、当 (コレッタ) と関係するフランチェスコ・ミルツァ氏、ジョヴァンニ・アンジェロ・コラマッテオ氏から補填されることになっているが、同ベネヴェント氏の権利に関しては、引き続き私 (コレッタ) の収益から支払われる義務となっている。そしてもう一つの条件は、私 (コレッタ) から支払われる上記D.10については、私 (コレッタ) 自身が王立軍事裁判所に預けている、同劇場所属オーケストラと歌手のための保険としての供託金D.1,200より差し引かれて支払われるものとする。1784年2月。ジュゼッペ・コレッタ。</p>
105 (VIII-84)	BSG	2326 p.518	3-VI- 1784	<p>A Giuseppe Coletta, D.11 notata fede a 28 maggio 1784. Vostro detto Banco pagarete a Giovanni Battista Daniele, Primo Tromba del Teatro de' Fiorentini, D.11, e sono per la rata anticipata che se li paga per la prima opera, che presentemente sta in scena intitolata <i>L'Apparenza inganna</i>, e così pagarete. Napoli li maggio 1784. Giuseppe Coletta. Gioban(!) Battista Daniele.</p> <p>(サン・ジャコモ銀行は、フィオレンティーニ劇場興行師) ジュゼッペ・コレッタ氏に対しD.11の</p>

				<p>信託. 1784年5月28日付. 当銀行は、フィオレンティーニ銀行第一トランペット奏者ジョヴァンニ・パッティスタ・ダニエーレ氏への支払いを行うものであり、これは、現在上演中の（チマローザ作曲）《欺きの外見<i>L'Apparenza inganna</i>》と題された（1784年度）第1オペラの（演奏に対する）前払金である。ナポリ, 1784年5月. ジュゼッペ・コレッタ・ジョヴァン・パッティスタ・ダニエーレ.</p>
106 (VIII-102)	BSG	2318 p.977	5-VII- 1784	<p>A Giuseppe Coletta, D.50 notata a 24 maggio 1784. Banco pagate a Don Giovanni Battista Lorenzi, D.50, a compimento di D.150, mentre li mancanti D.100, l'ha il medesimo ricevuti con due polise notate fedè in testa mia in data de 17 passato febraro, e 4 corrente, e tutti in saldo della Poesia di un libro fatto per prima opera nel Teatro de Fiorentini che presentemente sta in scena intitolata <i>L'Apparenza inganna</i>, e così (pagate). Napoli maggio 1784. Giuseppe Coletta. Lettieri per altri tanti. Giovanni Battista Lorenzi, autentica di Notar Nicola Carbino di Napoli.</p> <p>（サン・ジャコモ銀行は）、ジュゼッペ・コレッタ氏に対しD.50の信託. 1784年5月24日付. 当銀行は、ジョヴァンニ・パッティスタ・ロレンツィ氏への支払いを行うものであり、この支払をもって計D.150の支払いを満了するものである。残額となるD.100について、同氏は前月（4月）17日付、および当月（5月）4日付の2通の信託証書によって受領しており、これら総額は、フィオレンティーニ劇場で現在上演中の（チマローザ作曲）《欺きの外見<i>L'Apparenza inganna</i>》と題された第1オペラの台本作詞への報酬である。ナポリ, 1784年5月. ジュゼッペ・コレッタ. レッティエーリ（換金担当者）。ジョヴァンニ・パッティスタ・ロレンツィ. ナポリ市公証人ニコラ・カルビーノによる証明.</p>
107 (VIII-117)	BSG	2339 fog.118 v- 119f	12-X- 1784	<p>A Giuseppe Coletta, D.26 notata fede 7 giugno 1784. Banco pagarete a Don Domenico Cimarosa, D.26 correnti per importo di Numero 10 Zecchini Gigliati a me ordinati pagarseli precedente appuntamento della Deputazione de Teatri e Spettacoli, per in aiuto di corsa nel suo viaggio da Napoli per Firenze, e ciò per farli piacere, e cosa grata, ed in obbedienza di detti ordini senza che io fossi tenuto a darli più cosa veruna, si per la musica fatta nel mio Teatro de Fiorentini per la quale con altra poliza del medesimo vostro Banco, glie l'ho sodisfatta, come per qualunque altra sua pretenzione, e così pagarete. Napoli giugno 1784. Giuseppe Coletta. Imparato per altri tanti. Romualdo Romeo, Procuratore di detto Don Domenico Cimarosa, può esiggere detta summa anco per banco, e quietate come ne fa fede Notar Benedetto Balzamo di Napoli.</p> <p>ジュゼッペ・コレッタ氏に対しD.26の信託. 1784年6月7日付. （サン・ジャコモ）銀行は、ドメニコ・チマローザ氏に対して、10ゼッキニー（フィレンツェ大公国の通貨）の同額として、（ナポリ王国）通貨としてのD.26の支払いを行うものである。これは、国家劇場委員会により、彼（チマローザ）のナポリからフィレンツェへの旅費補助のため、私（コレッタ）に事前に命じられた支払いであり、同命令に従うとともに、同氏への好意としてこれを行うが、これ以外、同氏が私（コレッタ）のフィオレンティーニ劇場でおこなった作曲について、また他のすべての支払いは、既に彼（チマローザ）氏は同行発行の同（コレッタ）名義の信託証書にて受領しており、なんらの支払はないものとする。ナポリ, 1784年6月. ジュゼッペ・コレッタ. インバラート（換金担当者）。同チマローザ氏の代理人としてロムアルド・ロメーオ. 同総額について、銀行文書とあわせて、ナポリ市公証人ベネデット・バルザモによる公証文書を参照のこと.</p>

1793**ヌオーヴォ劇場 関連史料****興行師“アレッシオの息子”フランチェスコ・ピザーノによる支払い文書**

[1793年1月—7月期換金記録: 基本台帳 foglio 5217, 5957, 5959, 5961, 5963;

1793年8月—12月期換金記録: 基本台帳 foglio 4966, 5927 に基づく]

TEATRO NUOVO SOPRA TOLEDO**I pagamenti effettuati dall'Impresario GENNARO BLANCHI**

[I pagamenti incassati dal gennaio al luglio 1793 riportati sul Libro Maggiore I: foglio 5217, 5957, 5959,

5961, 5963; I pagamenti dall'agosto al dicembre 1793 riportati sul Libro Maggiore II: foglio 4966, 5927]

108 (IX-82)	BSG	2805 p.277	29-III- 1793	<p>A Francesco Pisano quondam Alesio, D.16.4.18 notata fede a 19 febrero 1793. E per esso a Don Giuseppe Palomba, e dite che da esso se li pagano a compimento di D.150, atteso li mancanti D.133.2 gli ha ricevuti in due rate contanti, e come dalle sue dichiarazioni, tutti detti D.150 sono in sodisfazione e pagato dell'onorario costituitogli da esso sudetto per la composizione de un libro in poesia buffo, che attualmente si sta mettendo in musica dal Maestro di Cappella Don Domenico Cimmarosa(sic.) per rappresentazione nel Teatro Nuovo sopra Toledo di cui esso sudetto vi è Impressario dopo l'imminente Passione di Resurrezione e con il presente pagamento rimane detto Don Giuseppe saldato di detto onorario, e paghe promessogli rimanendo tenuto di farne quanto occorre per promettersi sulle scene detta poesia. Così pagarete. E per esso al detto Imparato per altri tanti.</p> <p>故アレシオの息子フランチェスコ・ピザーノに対してD.16.98の信託。1793年2月19日付。(サン・ジャコモ銀行)は、ジュゼッペ・パロンバ氏への支払いを行うもので、これによりD.150の支払いを満了するものである。残るD.133.2は、同氏の証言通り既に2回にわたって現金にて受領しており、上記総額D.150は、私が興行師を務めるトレド通り上のヌオーヴォ劇場において、次の四旬節の後すぐに上演するため、現在(信託時の1793年2月19日時点)楽長ドメニコ・チマローザ氏が作曲中の喜劇台本《トラキアの恋人たち<i>I Traci amanti</i>》の作詞に対して、同上(ピザーノ)によって結ばれた報酬となる合計額である。この支払をもって、同ジュゼッペ氏には、同台本の舞台に対して約束されている経費以外、すべての報酬についての支払いは完了したものとす。インパラト(換金担当者)。</p>
109 (IX-105)	BSG	2796 pp.988- 989	24-V- 1793	<p>Francesco Pisano quondam Alesio, D.40 notata fede 15 corrente. Banco pagarete a Don Giuseppe Diodati e sono in sodisfazione di D.120 a detto li rimanenti D.50 del vostro Banco de 22 di corrente maggio. E detti D.120 sono a conto de D.150 da me qui sottoscritto stabilitigli pagare per onorario di un Dramma giocoso, che detto Diodato ritrovasi componendo per servizio del Teatro Nuovo sopra Toledo di cui io qui sottoscritto sono Impresario qual Dramma dovrà servire per terza opera da rappresentarsi in detto Teatro nel corrente anno teatrale, il tutto a norme della convenzione pagata col detto Diodati, la quale si trova espressa in detta poliza de 22 maggio a cui s'abbia in tutto relazione. E presente tal pagamento detto Diodati resta a conseguire soli D.3 li quali se li dovranno da me qui sottoscritto pagare nell'atto della consegna deve intero libro con rimaner tenuto all'adempimento di tutti gli obblighi espressi in detta convenzione. Napoli 13 giugno 1793, Francesco Pisano quondam Alesio. Ferrara per altri tanti. Giuseppe Diodati.</p> <p>故アレシオの息子フランチェスコ・ピザーノに対してD.40の信託。(1793年5月)15日付。(サン・ジャコモ)銀行は、ジュゼッペ・ディオダーティ氏への(支払いを行う)ものであり、彼に対するD.120の支払いを満了するものである。うち、残額D.50については同(1793)年5月22日発行の同行(発行信託証書)にて支払い済みであり、上記総額D.120は、私(ピザーノ)が興行師を務めるヌオーヴォ劇場において、同劇場年度第3オペラ(ジャコモ・トリット作曲《混乱の結婚式<i>Le Nozze in garbuglio</i>》)として上演するため、同ディオダーティ氏が執筆しているドランマ・ジョコーソの台本執筆に対して私(ピザーノ)と同氏が取り決めた報酬総額D.150の一部金であり、同ディオダーティ氏への支払いは、同5月22日発行の信託証書において明記されている慣例に従い支払われるものとする。そしてこの件に関わる支払いは、同契約において言及されている義務である、加筆修正とともに仕上げた台本の納品の証明として私(ピザーノ)より同氏に支払われるべきD.3を除いて、支払いは満了したものとす。ナポリ、1793年6月13日。故アレシオの息子フランチェスコ・ピザーノ。フェッラーラ(換金担当者)。ジュゼッペ・ディオダーティ。</p>
110 (IX-125)	BSG	2793 pp.926-	20-VI- 1793	<p>A Francesco Pisano quondam Alesio, D.12.2.10 notata a 6 febrero 1793. Banco pagarete a Gaetano Sciulz, e sono a compiemnto di D.50 atteso li mancanti D.37.50 li ha riceuti parte contanti, e parte</p>

927

per mezzo di Banco, e tutti di D.50 sono in sodisfazione dell'intera annata come Corno da Caccia del Teatro Nuovo, come dalla scrittura alla quale (si riferisce), e con il presente pagamento rimane saldato, e sodisfatto per questa, come per qualunque altra cansa niuna esclusa ed eccettuata, e così (pagarete) Napoli 6 febbraio 1793. Francesco Pisano quondam Alesio. Imparato per altri tanti. Gaetano Sciultz.

(ヌオーヴォ劇場興行師) アレシオの息子フランチェスコ・ピザーノに対してD.12.50の信託。1793年2月6日付。(サン・ジャコモ)銀行は、ガエターノ・シュルツ氏への支払いを行うもので、この支払によりD.50の支払いを満了するものである。残るD.37.50について、同氏は現金、および同行を通して受領しており、上記合計D.50は、ヌオーヴォ劇場のコルノ・ダ・カッチャ(=ホルン)奏者としての(1792年度)報酬総額であり、詳細は契約書参照のこと。この支払をもって、同氏には完全に支払いが行われ、一切の支払いは残らないものとする。ナポリ、1793年2月6日。故アレシオの息子フランチェスコ・ピザーノ。インパラート(換金担当者)。ガエターノ・シュルツ。

111 (IX-219)	BSG	2821 p.384	5-XI- 1793	A Don Francesco Pisano quondam Alesio, D.100 fede 14 febbraio 1793. E per me a Don Domenico Cimarosa, e dite che da me se gli pagano a complimento di D.300, ed a conto de D.1,000 che da me sottoscritto se gli sono costituiti per onorario della musica della prima opera che devesi rappresentare nel Teatro nuovo sopra Toledo dopo l'imminente Pasqua di Resurrezione del di cui Teatro da me qui sottoscritto ne tiene l'impresa, e per uno partito di detto Signor Maestro Cimarosa, che dovrà accomodarlo, e adattarlo per la compagnia di cantanti di detto Teatro Nuovo per rappresentarsi nel corso dell'andante anno teatrale 1793, il tutto a norma dell'apoca teatrale passata con detto Maestro Cimarosa atteso li mancanti D.200 gli ha ricevuti contanti, come dalla sua ricevuta, e così (pagarete). Napoli 15 febbraio 1793. Francesco Pisano quondam Alesio. Domenico Cimarosa con autentica di Notar Benedetto Balzamo di Napoli.
-----------------	-----	---------------	---------------	---

(サン・ジャコモ銀行は、ヌオーヴォ劇場興行師) 故アレシオの息子フランチェスコ・ピザーノ氏に対してD.100の信託。1793年2月14日付。これは、ドメーニコ・チマローザ氏への(支払いを行う)ものであり、彼に対するD.300の支払いを満了するものである。この金額は、私(ピザーノ)と彼が取り決めた金額のD.1,000の一部となり、私(ピザーノ)が興行師を務めるトレド通り上のヌオーヴォ劇場において、来る復活祭後に複数回上演する「第1オペラ」(《トラキアの恋人たち*I traci amanti*》)の音楽、および、1793年劇場シーズン中に同ヌオーヴォ劇場において上演するための旧作オペラからスコア1作(《秘密の結婚*Il matrimonio segreto*》)——そしてこれは同劇場の歌手一座のためにチマローザ氏自身により変更を行わなくてはならないものであるが——に対するものである。以上、すべては、チマローザ氏との劇場契約に基づくもので、残るD.200については、同氏は既に現金にて受領しているものとする。以上。ナポリ、1793年2月15日。故アレシオの息子フランチェスコ・ピザーノ。ドメーニコ・チマローザ。ナポリ市公証人ベネデット・バルサモ(証明)。

1793

フィオレンティーニ劇場、およびサン・カルロ劇場 関連史料 興行師ジュゼッペ・コレッタによる支払い文書

[1793年1月—7月期換金記録: 基本台帳 foglio; 5220, 5653, 5655, 5657, 5659, 5661, 5663, 5665, 5667, 5669, 5671 および、1793年8月—12月期換金記録: 基本台帳 foglio 4892, 5577, 5581, 6289 に基づく]

TEATRO DE FIORENTINI -REAL TEATRO DI SAN CARLO

I pagamenti effettuati dall'Impresario GIUSEPPE COLETTA

[I pagamenti incassati dal gennaio al luglio 1793 riportati sul Libro Maggiore: foglio 5220, 5653, 5655, 5657, 5659, 5661, 5663, 5665, 5667, 5669, 5671;

I pagamenti dall'agosto al dicembre 1793 riportati sul Libro Maggiore: foglio 4892, 5577, 5581, 6289]

112 (X-12)	BSG	2796 p.96	5-I- 1793	Giuseppe Coletta, D.50 notata fede 19 dicembre 92. Banco pagarete a Don Luigi Piccinni Maestro di Cappella in conto de D.100 promessili per la composizione della nuova musica che il medesimo
---------------	-----	--------------	--------------	--

dovrà fare nel Nuovo libro, che dovrà porri in scena nel Teatro de Fiorentini nel corrente Carnevale 1793. Napoli dicembre 92. Giuseppe Colletta. A Don Vincenzo Piccinni. Luigi Piccinni. Todisco per altri tanti. Vincenzo Piccinni.

(サン・ジャコモ銀行は、フィオレンティーニ劇場興行師) ジュゼッペ・コレッタ氏に対しD.50の信託。1792年12月19日付。当銀行は、楽長ルイー・ピッチンニ氏に支払いを行うものであり、これは1793年度謝肉祭シーズンにフィオレンティーニ劇場において上演しなければならない新しい台本（1792年度第4オペラ《仮面のたくらみ*Le Trame in maschera*》）に対し、同氏が新しい音楽を作曲する義務に対して約束された報酬D.100の一部金となるものである。ナポリ、1792年12月。ジュゼッペ・コレッタ。ヴィンツェンツォ・ピッチンニ。ルイー・ピッチンニ。トディスコ（換金担当者）。ヴィンツェンツォ・ピッチンニ。

113 (X-16)	BSG	2797 p.19	7-I 1793	<p>Al detto (Coletta), D.15 notata fede 24 dicembre 1792. Banco pagarete a Pascale Pumbo Contrabasso del Teatro di San Carlo D.15 in saldo complimento, e final pagamento di D.60 l'istessi promessili per l'annata teatrale maturanda a tutto l'ultimo di Carnevale 1793, che da me per farli piacere, e cosa grata seli sono anticipati per farli piacere e cosa grata per dovermeli restituire in caso di disgrazia / <i>quod absit</i>/ di detto Teatro che per fatto divino per fatto principis, non si potessero rappresentare l'opere nel medesimo, e così pagarete. Napoli dicembre 1793. Giuseppe Coletta. Imparato per altri tanti. Pascale Pumbo.</p> <p>同（ジュゼッペ・コレッタ）氏に対しD.15の信託。1792年12月24日付。（サン・ジャコモ）銀行は、サン・カルロ劇場コントラバス奏者、パスカーレ・ブンボ氏に対しD.15の支払いを行うものであり、これは、1793年謝肉祭最終日に終了する本（1792）年度劇場シーズン（における演奏への報酬として）約束されていた年俸D.60のうち、最終支払いを満了するものである。なお、本支払いは、同氏に対し私から同氏に対する好意による前金とするものであるが、同劇場での不慮の出来事—それを慎まなくてはならないが—、また天災、あるいは王室によって同劇場でオペラ上演が不可能になった場合、私（コレッタ）に返金するものとする。ナポリ、1792年12月。ジュゼッペ・コレッタ。インパラート（換金担当者）。パスカーレ・ブンボ。</p>
114 (X-24)	BSG	2798 p.95	9-I 1793	<p>A Giuseppe Coletta, D.34 notata fede 19 dicembre 1792. Banco pagarete a Don Giuseppe Palomba, Poeta Compositore del Teatro de Fiorentini, a complimento di D.40, mentre limantenti D.6, l'ha il medesimo ricevuti in contanti, e tutti similmente a compimento di D.80, mentre gl'altri D.40, da me si sono ritenuti per il pigione della casa ove al presente abita giusta la partita di detto vostro Banco de 7 novembre del sudetto corrente anno. E tutti in conto dell'importo del nuovo libro, che il medesimo sta facendo per porsi in scena nel medesimo Teatro per l'opera del prossimo venturo Carnevale dell'entrante anno 1793, e così pagarete. Napoli dicembre 1792. Giuseppe Coletta. Giuseppe Palomba.</p> <p>ジュゼッペ・コレッタ氏に対しD.34の信託。1792年12月19日付。（サン・ジャコモ）銀行は、フィオレンティーニ劇場付台本作家、ジュゼッペ・パロンバ氏に対する支払いを行うもので、これによりD.40の支払いを満了するものである。残るD.6について、同氏は現金にて受領しており、この総額は、同様D.80の支払いを満了するものである。残るD.40については、同（パロンバ）氏が住んでいる家の家賃について、同（サン・ジャコモ銀）行による同（1792）年11月7日付証書に基づいて私（コレッタ）が肩代わりして（支払ったことにより）相殺するものとする。以上総額は、同劇場の1793年初頭の謝肉祭シーズン演目のための新しい台本（1792年度第4番オペラ、ルイー・ピッチンニ作曲《仮面のたくらみ<i>Le Trame in maschera</i>》）執筆への報酬一部金とするものである。ナポリ、1792年12月。ジュゼッペ・コレッタ。ジュゼッペ・パロンバ。</p>
115 (X-28)	BSG	2799 p.95	10-I 1793	<p>A Giuseppe Coletta D.8.2.10 notata fede a 24 dicembre 1792. E per esso a Don Gasparo Stender Violino del Teatro de Fiorentini, in saldo, compimento e final pagamento di D.34 promessili per dover il medesimo suonare in detto Teatro l'intiera annata teatrale a tutto l'ultimo giorno di Carnevale 1793, che da esso per farli piacere, e cosa grata se li sono anticipati per doverceli restituire</p>

in caso di disgrazia, / *quod absit*/ di detto Teatro, che per fatto divino, e di principe non si potessero rappresentare l'opere nel medesimo. E per esso al detto Imperato per altri tanti.

ジュゼッペ・コレッタ氏に対しD.8.50の信託。1792年12月24日付。(サン・ジャコモ銀行は), フィオレンティーニ劇場ヴァイオリン奏者, ガスパロ・ステンデル氏に対する支払いを行うもので, これは, 1793年謝肉祭最終日に終了する同(1792)年度劇場シーズンにおいて同氏が演奏したことに對する年俸として約束されたD.34のうち, 最終(第4期)支払いとするものである。同氏に對して, 好意を示すため, 私は前払いを行うものであるが, 同劇場での不慮の出来事 — それを慎まなくてはならないが—, 天災, また王室によって同劇場においてオペラが上演できなくなった際は, それを返金しなくてはならない。インバラート(換金担当者)。

116 (X-46)	BSG	2802 p.6	15- 1793	<p>A Giuseppe Coletta, D.30 notata fede a 10 dicembre 1792. Banco pagarete a Don Carlo Sernicola, Poeta del Real Teatro di San Carlo, D.30 a compimento, e saldo di D.90 mentre li mancanti D.60 l'ha il medesimo ricevuti con altre polize notate fedeli in testa mia per il medesimo vostro Banco, li stessi promessili per l'annata teatrale terminanda a tutta la Settimana di Passione del prossimo venturo anno 1793, per dovere il medesimo accomodare, e dirigere i drammi che da me faranno scelti per rappresentarsi in detto Real Teatro per tutto il tempo della mia impresa con aggiungerli, variarli, e rifarli di nuovo tutti quei pezzi di Poesia, che saranno richiesti da Maestri di Cappella. Quali D.30 da me se li anticipano per farli piacere, e cosa grata per dovermeli restituire in caso di disgrazia / <i>quod absit</i>/ di detto Teatro, che per fatto divino, o fatto principis non si potessero rappresentare l'opere nel medesimo, e così pagarete. Napoli dicembre 1792. Giuseppe Coletta. Al detto Todisco per li Carlo Sernicola.</p> <p>ジュゼッペ・コレッタ氏に対しD.30の信託。1792年12月10日付。(サン・ジャコモ)銀行は, 王立サン・カルロ劇場付台本作家カルロ・セルニコラ氏へD.30の支払いを行うものであり, 計D.90の支払いを満了するものである。残るD.60について, 同氏は同行発行の私(コレッタ)名義の信託証書にて既に受領済みである。これは, 翌1793年受難週最終日に終了する本(1792)年劇場年度に對して約束された年俸とするもので, 同氏は私(コレッタ)の経営にあるすべての期間, 同王立劇場において私(コレッタ)の選択によって上演されるドラマ(オペラ・セリア)の(台本に)對して, 作曲家からの要求されるであろう台本への付加, 変更, 新規追加について, 同氏が変更, 指揮(リハーサルか?)を行うものに対する報酬である。このD.30は, 同氏に對し好意による前金とするものであるが, 劇場での不慮の出来事 — それを慎まなくてはならないが—, また天災, あるいは王室によって同劇場で上演が不可能になった場合, 私(コレッタ)に返金するものとする。ナポリ, 1792年12月。ジュゼッペ・コレッタ。トディスコ(換金担当者)。カルロ・セルニコラ。</p>
117 (X-47)	BSG	2802 p.20	15- 1793	<p>A Giuseppe Coletta, D.80 notata fede a 14 corrente (gennaio 1793). Banco pagate al Maestro di Musica Don Gaetano Andreozzi in conto dell'importo della nuova musica nel nuovo libro che il medesimo sta facendo per l'Oratorio del Real Teatro di San Carlo, e che dovrà andare in scena nella prima domenica di Quaresima del corrente anno, giusta la scrittura dal medesimo sottoscritto che per me si conserva alla quale (si riferisce). Napoli gennaio 1793. Giuseppe Coletta. A me medesimo Gaetano Andreozzi.</p> <p>ジュゼッペ・コレッタ氏に対しD.80の信託。1793年1月14日付。(サン・ジャコモ)銀行は, 作曲家ガエターノ・アンドレオツィ氏に對しての支払いを行うもので, これは, 王立サン・カルロ劇場において同氏が行っている, 新しい台本によるオラトリオ(《オリンドとソフロニア <i>Olindo e Sofronia</i>》)への作曲に對しての報酬の一部金である。この作品は, 同(1793)年四旬節の最初の日曜日に上演されなくてはならない作品である。詳細は, 同氏との(公証人により証明された)契約書を参照のこと。ナポリ, 1793年1月。ジュゼッペ・コレッタ。ガエターノ・アンドレオツィ。</p>
118 (X-63)	BSG	2805 p.65	19- 1793	<p>Al detto D.15 notata fede a 5 corrente (gennaio 1793). E per esso a Don Giovanni Zito Primo Oboe del Teatro de' Fiorentini a complimento a saldo, final pagamento delli D.60 promessili per dover il medesimo suonare in detto Teatro a tutto l'ultimo giorno di Carnevale del 1793, da qual giorno in</p>

poi resta il medesimo senz'altro e libero dall'obbligo di suonare in detto Teatro per l'altro a da esso se li sono anticipati per farli piacere, e cosa grata per dovermeli restituire in caso di disgrazia / *quod absit*/ di detto Teatro che per fatto divino, o fatto principis non si potessino rappresentare l'opere nel medesimo, rimanendo saldato, e sudetti senz'altro pretendere deve per qualunque causa. E per esso al detto Ferrara per altri tanti.

同 (ジュゼッペ・コレッタ) 氏に対しD.15の信託 (1793年1月) 5日付. (サン・ジャコモ銀行は), フィオレンティーニ劇場首席オーボエ奏者, ジョヴァンニ・ツィート氏に対する支払いを行うもので, これは, 1793年謝肉祭最終日に終了する本 (1792) 年度劇場シーズンにおいて, 同氏が同劇場において演奏したことに対する報酬として約束されていた年俸D.60のうち, 最終支払いを満了するものである. この日 (謝肉祭最終日) より以降, 当然ながら同氏は同劇場において演奏を行う義務から自由になる. 本支払いは, 同氏に対し私から同氏に対する好意による前金とするものであるが, 同劇場における不慮の出来事 —それを慎まなくてはならないが—, また天災, あるいは王室によって同劇場でオペラ上演が不可能になった場合, 私 (コレッタ) に返金するものとする. フェッラーラ (換金担当者).

119 (X-65)	BSG	2805 pp.86- 87	19-I 1793	A Giuseppe Coletta, D.40 notata fede a 3 novembre 1792. E per esso a Don Michele Nasci Primo Violino del Real Teatro di San Carlo a complimento di D.120 mentre li mancanti D.80 l'ha il medesimo ricevuti con altre polise in testa sua per il medesimo Banco. E tutti in conto delli D.160 promessili per dovere il medesimo suonare in detto Teatro l'intiera annata teatrale terminanda a tutto l'ultimo di Carnevale del 1793. Quali D.40 sono per la terza tanna maturanda a levata di caretello dell'opera de 4 novembre 1792 intitolata <i>Elfrida</i> , e così (pagarete). E per esso al detto Ferrara per altri tanti.
---------------	-----	----------------------	--------------	--

ジュゼッペ・コレッタ氏に対しD.40の信託 1792年11月3日付. (サン・ジャコモ銀行は), 王立サン・カルロ劇場首席ヴァイオリン奏者, ミケーレ・ナーシ氏に対する支払いを行うもので, これによりD.120の支払いを満了する. 残るD.80については, 私名義の同行発行による他の信託証書によって同氏は既に受領済みである. 上記総額D.160は, 1793年謝肉祭最終日に終了する同 (1792) 年度劇場シーズンにおいて同氏が同劇場で演奏する任務に対して約束された年俸総額である. 本支払いD.40については, 1792年11月4日に初演を予定している《エルフリーダ*L'Elfrida*》(パイジェッロ作曲)と題された(年度第3)オペラ(における演奏に対して, 年俸)第3期払いとするものである. フェッラーラ (換金担当者).

120 (X-89)	BSG	2794 p.160	4-II 1793	A Giuseppe Coletta, D.50 notata a 26 gennaio 1793. Banco li pagarete Luigi Picinni, Maestro di Musica Napoletano, a complimento di D.100, mentre li mancanti D.50 l'ha il medesimo ricevuti con altra polisa notata fede in testa mia per il medesimo vostro Banco. L'istessi promessili per la composizione della nuova musica fatta nel libro intitolato <i>Le Trame in maschera</i> che presentemente sta in scena nel Teatro de Fiorentini per l'opera del corrente Carnevale, con il quale pagamento resta il medesimo intieramente saldato, e sodisfatto senza dover altro che pretendere per la sudetta e qualunque altra causa. E così pagarete e non altrimenti. Napoli gennaio 1793. Giuseppe Coletta. E per me li pagarete al Signor Don Vincenzo Picinni per altri tanti. Luigi Picinni. Todisco per altri tanti. Vincenzo Picinni.
---------------	-----	---------------	--------------	---

ジュゼッペ・コレッタ氏に対しD.50の信託 1793年1月26日付. (サン・ジャコモ) 銀行は, ナポリの作曲家ルイージ・ピッチンニ氏に対して支払いを行うもので, D.100を満了するものである. 残るD.50について, 同氏は同行発行の私 (コレッタ) 名義の信託証書によって受領済みである. これは, 現在フィオレンティーニ劇場において同謝肉祭期間中オペラとして上演中の《仮面のたくらみ*Le trame in maschera*》と題された新しい台本に対して新たに作曲を行った同氏への約束された報酬であり, この支払をもって, 同氏にはすべての報酬は完全に支払われ, 一切の支払いは残らないものとする. ナポリ, 1793年1月. ジュゼッペ・コレッタからヴィンチェンツォ・ピッチンニへの支払い. ルイージ・ピッチンニ. トディスコ (換金担当者). ヴィンツェンツォ・ピッチンニ.

121 (X-154)	BSG	2809 p.180	26-II- 1793	<p>A Giuseppe Coletta, D.70 notata fede 22 febraro 1793. Banco li pagarete a Maestro di Musica Don Gaetano Andreozzi, in saldo complimento e final pagamento dell'importo della sua virtuosa musica fatta nel nuovo libro per l'oratorio che sta in scena nel Real Teatro di San Carlo intitolato, <i>Olindo e Sofronia</i> per la corrente Quaresima del sottoscritto corrente anno, mentre tutto il mancante a complimento dell'importo della sudetta musica ne stato il medesimo sodisfatto per mezzo del detto vostro Banco. E così pagarete. Napoli febraro 1793. Giuseppe Coletta. Todisco per altri tanti. Gaetano Andreozzi.</p> <p>ジュゼッペ・コレッタ氏に対しD.70の信託。1793年2月22日付。(サン・ジャコモ)銀行は、作曲家ガエターノ・アンドレオツツィ氏に対して、同(1793)年四旬節期間、王立サン・カルロ劇場において《オリンドとソフロニア<i>Olindo e Sofronia</i>》と題されたオラトリオのための新しい台本に対して素晴らしい音楽を作曲したことに対する報酬の最終支払いとなるものであり、この支払によって、この音楽に対してのすべての報酬は、同(サン・ジャコモ銀)行によって同氏に支払われたものとする。ナポリ、1793年2月。ジュゼッペ・コレッタ。トディスコ(換金担当者)。ガエターノ・アンドレオツツィ。</p>
122 (X-180)	BSG	2798 p.327	14-III- 1793	<p>A Giuseppe Coletta, D.40 notata fede 2 marzo 1793. Banco li pagarete a Don Carlo Sernicola Poeta del Real Teatro di San Carlo, a complimento di D.60, mentre li mancanti D.20 l'ha il medesimo ricevuti con altra poliza notata fede in testa mia per il medesimo nostro Banco, e tutti non solo per l'intero importo della composizione del nuovo libro dal medesimo, fatto per l'Oratorio si rappresenta in detto Real Teatro nella corrente Quaresima del sottoscritto corrente anno, quanto per ogni, e qualunque altra pretenzione che il medesimo possa avere contra di me per la causa di detta a tutti oggi sottoscritto giorno dal quale sudetto giorno per convenzione avuta col medesimo Sernicola, il sudetto e remasto libero, e sciolto dal contratto, che ha con me di poter servire in appresso il sudetto Real Teatro, stante le altre incumbenze(<i>sic.</i>) non glielo permettono, che però in forza della quale convenzione resta casso, irrito: o nullo il mio biglietto a suo favore. Il dì primo settembre 1791(<i>sic.</i>). Equietati ed invice in ampia forma, e così pagarete. Napoli marzo 1793. Giuseppe Coletta. Carlo Sernicola.</p> <p>ジュゼッペ・コレッタ氏に対しD.40の信託。1793年3月2日付。(サン・ジャコモ)銀行は、王立サン・カルロ劇場付台本作家カルロ・セルニコラ氏への支払いを行うものであり、D.60の支払いを満了するものである。残るD.20について、同氏は同行発行の私(コレッタ)名義の信託証書にて既に受領済みである。これは、同氏が同王立劇場において、同(1793)年四旬節期間中に行うオラトリオ(《オリンドとソフロニア》)の台本執筆に対しての報酬総額である。これに対して、同セルニコラ氏と申し合わせを交わした上記記載の本日より、同氏は私(コレッタ)に対し、この件、つまり同氏の台本を同王立劇場において私の(権限で)用いることについて、契約解除等いかなる異議申し立てもできないものとする。しかしながら、他の職務(演出等: 史料116参照)がそれを妨げる場合に限り、この申し合わせは取り消され、同氏の同意によりこの契約は無効となる。1791年9月1日(!)。ナポリ、1793年3月。ジュゼッペ・コレッタ。カルロ・セルニコラ。</p>
123 (X-203)	BSG	2807 p.424	3-IV- 1793	<p>Giuseppe Coletta, D.40 notata fede a 29 marzo 1793. Banco San Giacomo pagarete al Signor Don Giuseppe Palomba Poeta Compositore del Teatro de' Fiorentini, D.40 correnti a complimento di D.85 mentre li mancanti D.45 l'ha il medesimo ricevuti in contanti, e tutti similmente a complimento di D.181, stante li mancanti D.96 l'ha ben anche ricevuti con altre polize notate fedes in testa mia per il medesimo vostro Banco, e tutti in conto di due libri nuovi uno fatto, rappresentato in detto Teatro, del prossimo passato Carnevale, e l'altro da farsi, e rappresentarsi nel medesimo Teatro per seconda opera di questo corrente anno teatrale terminando a tutto l'ultimo di Carnevale del venturo anno 1794, e così pagarete e non altrimenti. Napoli marzo 1793. Giuseppe Coletta. Todisco per altri tanti. Giuseppe Palomba.</p> <p>ジュゼッペ・コレッタ氏に対しD.40の信託。1793年3月29日付。サン・ジャコモ銀行は、フィオレン</p>

ティーニ劇場付台本作家、ジュゼッペ・パロンバ氏に対する支払いを行うもので、これによってD.85の支払いを満了するものとなる。残るD.45については、同氏は現金にて受領しており、これら小計はD.181の支払いを満了するものである。残るD.96について、同氏は同行発行の私（コレッタ）宛の信託証書により受領済みであり、これらは、2つの新しい台本：一つは去る1793年謝肉祭期間中に同（フィオレンティーニ）劇場で上演した作品の台本（1792年度第4番オペラ、ルイーダ・ピッチニ作曲《仮面のたくらみ *Le Trame in maschera*》）、もう一つは、1794年謝肉祭最終日に終了する本（1793）年度第2オペラとして同（フィオレンティーニ）劇場で上演予定の（オペラ）台本（ジェンナーロ・マリネッリ作曲《当てが外れた老人たち *I vecchi delusi*》）の作詞に対する報酬の一部金である。ナポリ、1793年3月。ジュゼッペ・コレッタ。トディスコ（換金担当者）。ジュゼッペ・パロンバ。

124 (X-247)	BSG	2797 p.698	16-IV- 1793	<p>A Giuseppe Coletta, D.11, notata fede 29 marzo 1793. Banco pagate a Don Giovanni Atene Violino de Fiorentini in conto dell'annui D.44 promessili per l'intera annata teatrale terminanda a tutto l'ultimo di Carnevale 1794, e sono per la somma maturanda a 30 maggio 1793 che da me se l'antizipano per dovermeli restituire in ogni caso di mancanza, o pure per disgrazia di detto Teatro, e così pagarete. Napoli marzo 1793. Giuseppe Coletta. Imparato altri tanti. Giovanni Atene.</p> <p>ジュゼッペ・コレッタ氏に対しD.11の信託。1793年3月29日付。（サン・ジャコモ）銀行は、フィオレンティーニ劇場ヴァイオリン奏者、ジョヴァンニ・アターネ氏に対して支払いを行うが、これは、1794年謝肉祭最終日に終了する本（1793）年度劇場シーズン（における演奏への報酬として）約束されていた年俸D.44のうちの一部金であり、1793年5月30日に終了する（年度第1オペラ、チマローザ作曲《秘密の結婚 <i>Il Matrimonio segreto</i>》）上演に対応する）期間給である。ここに、私より前金としてそれが払われるものであるが、何らかの都合で当人不在となった場合、あるいは劇場に不慮の事態が発生した場合、私（コレッタ）に返金するものとする。ナポリ、1793年3月。ジュゼッペ・コレッタ。インパラート（換金担当者）。ジョヴァンニ・アターネ。パスカーレ・ブンボ。</p>
125 (X-264)	BSG	2803	23-IV- 1793	<p>A Giuseppe Coletta, D.12 notata 27 marzo 1793. Banco li pagate a Don Giovanni Battista Daniele Tromba del Teatro de Fiorentini in conto delli D.50 promessili per l'annata teatrale terminanda a tutta la fine di Carnevale del venturo anno 1794, che da me per farli piacere, e cosa grata seli sono anticipati per dovermeli restituire in caso di disgrazia/ <i>quod absit</i>/ si detto Teatro, che per fatto divino, o di principe non si potessero rappresentare l'opera nel medesimo, e così pagarete. Napoli marzo 1793. Giuseppe Coletta. Imparato per altri tanti. GiovanBattista Daniele.</p> <p>ジュゼッペ・コレッタ氏に対しD.12の信託。1793年3月27日付。（サン・ジャコモ）銀行は、フィオレンティーニ劇場トランペット奏者ジョヴァンニ・バッティスタ・ダニエーレ氏に対して支払いを行うが、これは、1794年謝肉祭最終日に終了する本（1793）年度劇場シーズンに対して約束されていた年俸D.50のうちの一部金である。これは私からの同氏に対する好意により前金として払われるものであるが、劇場での不慮の出来事—それを慎まなくてはならないが—、天災、また王室によって同劇場においてオペラが上演できなくなった際は、それを返金しなくてはならない。ナポリ、1793年3月。ジュゼッペ・コレッタ。インパラート（換金担当者）。ジョヴァンニ・バッティスタ・ダニエーレ。</p>
126 (X-276)	BSG	2805 p.398	2-V- 1793	<p>A Giuseppe Coletta, D.8.2.10 notata fede a 29 marzo 1793. E per esso a Don Gasparo Stender Violino del Teatro de' Fiorentini, in conto degl'annui D.34 promessili per l'intera annata teatrale terminanda all'ultimo di Carnevale del 1794, e sono per la tanna maturanda nel dì 30 maggio 1793, che da esso se li sono anticipati per dovermeli restituire in ogni caso di mancanza, o pure per disgrazia di detto Teatro, e così (pagarete). E per esso al detto Imparato per altri tanti.</p> <p>ジュゼッペ・コレッタ氏に対しD.8.50の信託。1793年3月29日付。（サン・ジャコモ銀行は）、フィオレンティーニ劇場ヴァイオリン奏者、ガスパロ・ステンデル氏に対する支払いを行うもので、これは、1794年謝肉祭最終日に終了する本（1793）年度劇場シーズンに対して約束された年俸D.34のうちの一部金であり、1793年5月30日に終了する（年度第1オペラ、チマローザ作曲《秘密の結婚 <i>Il</i></p>

				<p><i>Matrimonio segreto</i>》上演に対応する) 期間給である。同氏に対して、私は前払いを行うものであるが、何らかの都合で当人不在となった場合、あるいは同劇場に不慮の事態が発生した場合、私 (コレッタ) に返金するものとする。インパラート (換金担当者)。</p>
127 (X-282)	BSG	2806 p.510	6-V- 1793	<p>Al detto (Coletta) D.10 notata fede 29 marzo '93. E per esso a Don Giuseppe Benevento Cembalista del Teatro de Fiorentini, in conto dell'annui D.40 promesseli per l'iniera annata teatrale terminanda nell'ultimo di Carnevale del venturo 1794. E sono per la tanna maturanda nel dì 30 maggio corrente anno, e ha da me se li anticipano per dovermeli restituire in ogni caso di mancanza, opure per disgrazia di detto Teatro, e così pagherete. Notata marzo '93. Giuseppe Coletta. E per esso a Don Gennaro Maffettone per altri tanti. Giuseppe Benevento. Imparato per altri tanti. Gennaro Maffettone.</p> <p>同 (ジュゼッペ・コレッタ) 氏に対しD.10の信託。1793年3月29日付。(サン・ジャコモ銀行は)、フィオレンティーニ劇場チェンバロ奏者、ジュゼッペ・ベネヴェント氏に対する支払いを行うもので、これは、1794年謝肉祭最終日に終了する本 (1793) 年度劇場シーズンの年俸として約束されたD.40のうちの一部金である。これは、同 (1793) 年5月30日に終了する (年度第1期) 期間給 (チマローザ作曲《秘密の結婚<i>Il Matrimonio segreto</i>》) 出演料) として、同氏に対して私は前払いを行うものであるが、何らかの都合で当人不在となった場合、あるいは同劇場に不慮の事態が発生した場合、私 (コレッタ) に返金するものとする。1793年3月。ジュゼッペ・コレッタ。さらに、(ベネヴェントより) ジェンナーロ・マッフエットーネへ裏書。インパラート (換金担当者)。ジェンナーロ・マッフエットーネ (受領)。</p>
128 (X-435)	BSG	2803 pp.822- 823	4-VII- 1793	<p>A Don Giuseppe Coletta, D.500 notata a 28 giugno 1793. Banco pagate a Don Domenico Lefevre Direttore e Compositore de Balli del Real di San Carlo, in conto della sua paga promessali per l'intiera annata teatrale, terminanda a tutto l'ultimo Carnevale del venturo anno 1794, giusta la scrittura alla quale (si riferisce), e così pagarete. Napoli giugno 1793. Giuseppe Coletta. Todisco detto per altri tanti. Domenico Lefevre.</p> <p>ジュゼッペ・コレッタ氏に対しD.500の信託。1793年6月28日付。(サン・ジャコモ) 銀行は、王立サン・カルロ劇場付バレエ総監督兼作曲家ドメーニコ・ルフエブル氏への支払いを行うものである。これは、翌1794年謝肉祭最終日に終了する本年劇場年度に対して約束された年俸の一部とするものであり、詳細は別紙契約書 (別途参照) を参照のこと。ナポリ、1793年6月。ジュゼッペ・コレッタ。トディスコ (換金担当者)。ドメーニコ・ルフエブル。</p>
129 (X-442)	BSG	2804 foglio 471v	6-VII- 1793	<p>A Giuseppe Coletta, D.10 notata fede a 8 giugno '93. E per esso al Maestro di Musica Giuseppe Benevento, e sono in fede in soddisfazione dell'ricitativi(<i>sic</i>) che il medesimo sta facendo per il Teatro de Fiorentini per la seconda opera che dovrà andare in scena nel sudetto Teatro, nella corrente annata della musica del Maestro di Don Gaetano Marinelli, essendo stato soddisfatto del pagamento. E per esso Don Gennaro Maffettone, e sono a conto di D.27 che li deve pagare 30 del gennaro di questo l'anno '93. E per altri tanti.</p> <p>ジュゼッペ・コレッタ氏に対しD.10の信託。1793年6月8日付。(サン・ジャコモ銀行は)、楽長ジュゼッペ・ベネヴェント氏に対する支払いを行うもので、これは、同氏がフィオレンティーニ劇場において、作曲家ガエターノ・マリネッリ氏の音楽とともに本 (1793年度) 第2オペラとして上演されるべき作品 (《当てが外れた老人たち<i>I vecchi delusi</i>》) のために現在制作中のレチタティーヴォ作曲に対する報酬となるものである。本支払いをもって、満了したものとする。</p> <p>なお本証書裏書として、(ジュゼッペ・ベネヴェント) よりジェンナーロ・マッフエットーネ氏へ支払いが行われる。これは、1793年1月30日付で、同氏に払うべきD.27の一部金として充当するものとなる。</p>
130 (X-450)	BSG	2806 p.709	9-VII- 1793	<p>A Giuseppe Coletta, D.10 notata fede a 3 corrente. Bancale al Don Giuseppe Benevento Cembalista del Teatro de' Fiorentini, a complimento di D.20, mentre li mancanti D.10 li ha il medesimo ricevuti con altra poliza notata fede in testa mia pello medesimo vostro Banco. E tutti in conto delli D.40</p>

promessoli per l'intier'annata Teatrale terminanda a tutto l'ultimo di Carnevale di venturo anno 1794, quali D.10 sono pella seconda tanna maturanda in fine dell'entrante mese di agosto di sottoscritto corrente anno. Che da me se li sono anticipati per dovermeli restituire in caso di qualunque mancanza, opure per disgrazia di detto Teatro. E così pagherete. Luglio '93. Giuseppe Coletta. Todisco. Giuseppe Benevneto.

ジュゼッペ・コレッタ氏に対しD.10の信託 (1793年7月) 3日付。(サン・ジャコモ銀行は), フイオレンティーニ劇場チェンバロ奏者, ジュゼッペ・ベネヴェント氏に対する支払いを行うもので, これはD.20の支払いを満了するものである。残るD.10については, 同氏は, 私名義の同行発行の信託証書にて既に受領済みである。この総額D.40は, 1794年謝肉祭最終日に終了する本 (1793) 年度劇場シーズンに対し約束された年俸であり, 本D.10は, 本年8月初旬に終了となる第2期給 (マリネリ作曲《当てが外れた老人たち *I Vecchi delusi*》) である。同氏に対して私は前払いを行うものであるが, 何らかの都合で当人不在となった場合, あるいは同劇場に不慮の事態が発生した場合, 私 (コレッタ) に返金するものとする。1793年7月。ジュゼッペ・コレッタ。トディスコ (換金担当者)。ジュゼッペ・ベネヴェント。

131 (X-471)	BSG	2793 p.1101	19-VII- 1793	A Giuseppe Coletta, D.120 fede primo luglio 1794. E per me al Com(posito)re Don Raniero de Calzabigi, in conto delli D.240 promessoli per la Composizione(<i>sic.</i>) del dramma che dovrà andare in scena nel Real Teatro Nuovo di San Carlo la sera de 12 gennaio 1794, e prima ad elezione di Sua Maestà con la musica del Maestro Don Giovanni Pajesiello(<i>sic.*=Paisiello</i>), e così. Napoli primo luglio 1793. Giuseppe Coletta per altri tanti. Conseguire Don Raniero de Calzabigi. (サン・ジャコモ銀行は) ジュゼッペ・コレッタ氏に対しD.120の信託。1793年7月1日付。これは, 台本作家ラニエーロ・デ・カルツァビージ氏に対する支払いを行うもので, 1794年1月12日に王立サン・カルロ新劇場において, 御前によって選ばれたパイジェッロ氏の音楽とともに上演されるべきドラマ作品 (《エルヴィーラ <i>Elvira</i> 》) に対して約束された (執筆) 報酬D.240の一部金である。ナポリ, 1793年7月1日。ジュゼッペ・コレッタ。ラニエーロ・デ・カルツァビージ。
132 (X-663)	BSG	2821 pp.386- 387	5-XI- 1793	A Giuseppe Coletta, D.500 notata fede a 23 ottobre 1793. Banco pagarete a Don Domenico Lefevre a composizione de balli del Real Teatro di San Carlo, a complimento di D.1,000, mentre li mancanti D.500 l'ha il medesimo ricevuti con altra polisa notata fede in testa mia per il medesimo vostro Banco. E tutti in conto della sua paga promessoli per l'intiera annata teatrale, terminanda a tutto l'ultimo di Carnevale del venturo anno 1794, giusta la scrittura alla quale (si riferisce). Napoli ottobre 1793. Giuseppe Coletta. E Don Gaetano Scarlato per altri tanti. Domenico Le Fevre, con autentica di Notar Antonio de Martino di Napoli. ジュゼッペ・コレッタ氏に対しD.500の信託。1793年10月23日付。(サン・ジャコモ) 銀行は, 王立サン・カルロ劇場付バレエ作曲家ドメーニコ・ル・フェーブル氏への支払いを行うものであり, これによってD.1,000の支払いを満了するものである。残るD.500について同氏は, 同行発行による私 (コレッタ) 名義の信託証書にて既に受領済みである。上記総額は, 翌1794年謝肉祭最終日に終了する本年劇場年度に対して約束された年俸の一部とするものであり, 詳細は別途 (公証人の証明する) 契約書を参照のこと。ナポリ, 1793年10月。ジュゼッペ・コレッタ。ガエターノ・スカルラート (換金担当者)。ドメーニコ・ル・フェーブル。公証人アントーニオ・デ・マルティエーノによる証明。
133 (X-747)	BSG	2819 pp.548- 549	9-XII- 1793	A Giuseppe Coletta, D.500 notata a 7 novembre 1793. Banco pagate a Don Domenico Lefevre, Direttore e Compositore de balli del Real Teatro di San Carlo, a complimento di D.1,500 mentre li mancanti D.1,000 l'ha il medesimo ricevuti con altra polisa notata fede in testa mia per il medesimo vostro Banco. E tutti in conto della sua paga promessali per l'intiera annata teatrale terminanda a tutto l'ultimo di Carnevale del venturo anno 1794, giusta la scrittura alla quale (si riferisce). Napoli novembre 1793. Giuseppe Coletta. a me medesimo, Domenico Le Fevre. ジュゼッペ・コレッタ氏に対しD.500の信託。1793年11月7日付。(サン・ジャコモ) 銀行は, 王立サ

ン・カルロ劇場付バレエ総監督兼作曲家、ドメーニコ・ルフェーブル（レ・フェーヴレ）氏に対する支払いを行うもので、D.1,500の支払いを満了するものである。残るD.1,000について同氏は、同行発行による私（コレッタ）名義の信託証書にてすでに受領済みであり、上記総額は、1794年謝肉祭終日に終了する本年劇場年度に対して約束された年俸の一部とするものであり、詳細は別紙契約書（別途参照）を参照のこと。ナポリ、1793年11月。ジュゼッペ・コレッタ。ドメーニコ・ルフェーブル。

134 (X-754)	BSG	2821 pp.595- 596	11-XII- 1793	<p>Al detto (Coletta), D.10 notata fede a 6 novembre 1793. Banco pagarete a Giuseppe Benevento Cembalista del Teatro de Fiorentini D.10 a complimento di D.40, mentre li mancanti D.30 l'ha il medesimo ricevuti con altre polise notate fedì in testa sua per il medesimo vostro Banco. E tutti in saldo, complimento e final pagamento dell'istessi D.40 promessili per l'intiera annata teatrale terminanda a tutto l'ultimo di Carnevale del enturo anno 1794, quali D.10 sono per la quarta recita maturanda in fine di Carnevale del sudetto venturo anno 1794, che da me se li sono anticipati per dovermeli restituire in caso di qualunque mancanza, o pure per disgrazia di detto Teatro, e così pagarete e non altrimenti. Napoli novembre 1793. Giuseppe Coletta. Imparato per altri tanti. Giuseppe Benevento.</p> <p>同（ジュゼッペ・コレッタ）氏に対しD.10の信託。1793年11月6日付。（サン・ジャコモ銀は）、フィオレンティーニ劇場チェンパロ奏者、ジュゼッペ・ベネヴェント氏に対してD.10の支払いを行うもので、これは、D.40の支払いを満了するものとなる。残るD.30について、同氏は同行発行の私名義の信託証書にて受領済みである。以上は、1794年謝肉祭最終日に終了する本（1793）年度劇場シーズンの年俸として約束されたD.40の最終支払いとなるものであり、このD.10は、1794年初頭の謝肉祭最終日に終了する（年度）第4期（ピエトロ・グリエルミ作曲《高貴な羊飼いの娘<i>La Pastorella nobile</i>》）への出演料である。同氏に対して私は前払いを行うものであるが、何らかの都合で当人不在となった場合、あるいは同劇場に不慮の事態が発生した場合、私（コレッタ）に返金するものとする。1793年11月。ジュゼッペ・コレッタ。インパラート（換金担当者）。ジュゼッペ・ベネヴェント。</p>
----------------	-----	------------------------	-----------------	---